

基本計画書

基本計画												
事項		記入欄						備考				
計画の区分		学部設置										
フリガナ		コリワダガクカクジン カサワダガク										
設置者		国立大学法人 金沢大学										
フリガナ		カサワダガク										
大学の名称		金沢大学 (Kanazawa University)										
大学の位置		石川県金沢市角間町										
大学の目的		金沢大学は、教育、研究及び社会貢献に対する国民の要請にこたえるため、総合大学として教育研究活動等を行い、学術及び文化の発展に寄与することを目的とする。										
新設学部等の目的		社会の変容や科学の進展を的確に踏まえた上で、表出する複層的な諸課題に関し、人間科学・社会科学・自然科学等の多様な知見を活用しながらその解決に取り組むとともに、新たな「知」を社会へ展開する意欲と素養を身に付けた社会変革を先導する人材を養成することを目的とする。										
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地				
	融合学域 [College of Philosophy in Interdisciplinary Sciences] 先導学類 [School for the Future of Innovation in Society] 計	4年	55人	3年次25人 3年次25人	270人	学士（学術） [Bachelor of Arts and Sciences]	令和3年4月第1年次 令和5年4月第3年次	石川県金沢市角間町				
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)		【学士課程】 人間社会学域 人文学類〔定員減〕（入学定員△4）（令和3年4月） 法学類〔定員減〕（入学定員△10、3年次編入学定員△5）（令和3年4月） 経済学類〔定員減〕（入学定員△4）（令和3年4月） 学校教育学類〔定員減〕（入学定員△15）（令和3年4月） 地域創造学類〔定員減〕（入学定員△2）（令和3年4月） 国際学類〔定員減〕（入学定員△2）（令和3年4月） 理工学域 数物科学類〔定員減〕（入学定員△2）（令和3年4月） 物質化学類〔定員減〕（入学定員△2）（令和3年4月） 機械工学類〔定員減〕（入学定員△3）（令和3年4月） フロンティア工学類〔定員減〕（入学定員△3）（令和3年4月） 電子情報通信学類〔定員減〕（入学定員△2）（令和3年4月） 地球社会基盤学類〔定員減〕（入学定員△2）（令和3年4月） 生命理工学類〔定員減〕（入学定員△1）（令和3年4月） 医薬保健学域 薬学類〔定員増〕（入学定員30）（令和3年4月） 創薬科学類〔廃止〕（入学定員△40）（令和3年4月学生募集停止） 医薬科学類〔新設〕（入学定員18）（令和2年4月事前伺い予定） 保健学類 看護学専攻〔定員減〕（入学定員△1、3年次編入学定員△6）（令和3年4月） 放射線技術科学専攻〔定員減〕（3年次編入学定員△2）（令和3年4月） 検査技術科学専攻〔定員減〕（3年次編入学定員△2）（令和3年4月） 理学療法学専攻〔定員減〕（入学定員△5）（令和3年4月） 作業療法学専攻〔定員減〕（入学定員△5）（令和3年4月）										
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数					卒業要件単位数					
	融合学域先導学類	講義	演習	実験・実習	計	124 単位						
教員組織の概要	学部等の名称			専任教員等					兼任教員等	令和2年3月意見伺い 令和2年4月事前伺い予定		
	新設				教授	准教授	講師	助教	計		助手	
					人	人	人	人	人		人	
		融合学域 先導学類			13 (13)	6 (6)	1 (1)	3 (3)	23 (23)		0 (0)	92 (92)
		医薬保健学域 医薬科学類			4 (4)	3 (3)	1 (4)	3 (3)	11 (11)		0 (0)	203 (203)
計			17 (17)	9 (9)	2 (2)	6 (6)	34 (34)	0 (0)	— (—)			

教員組織の概要	既設	人間社会学域		25 (25)	14 (14)	2 (2)	1 (1)	42 (42)	0 (0)	94 (94)			
		人文学類		10 (10)	10 (10)	3 (3)	0 (0)	23 (23)	0 (0)	82 (82)			
		法学類		15 (15)	6 (6)	1 (1)	0 (0)	22 (22)	0 (0)	92 (92)			
		経済学類		32 (32)	21 (21)	1 (1)	0 (0)	54 (54)	0 (0)	89 (89)			
		学校教育学類		13 (13)	6 (6)	2 (2)	1 (1)	22 (22)	0 (0)	91 (91)			
		地域創造学類		10 (10)	10 (10)	2 (2)	1 (1)	23 (23)	0 (0)	107 (107)			
		国際学類		理工学域									
		数物科学類		22 (22)	15 (15)	2 (2)	11 (11)	50 (50)	0 (0)	84 (84)			
		物質化学類		16 (16)	13 (13)	0 (0)	7 (7)	36 (36)	0 (0)	94 (94)			
		機械工学類		17 (17)	13 (13)	1 (1)	12 (12)	43 (43)	1 (1)	103 (103)			
		フロンティア工学類		17 (17)	11 (11)	1 (1)	9 (9)	38 (38)	0 (0)	129 (129)			
		電子情報通信学類		16 (16)	12 (12)	1 (1)	5 (5)	34 (34)	0 (0)	93 (93)			
		地球社会基盤学類		19 (19)	13 (13)	1 (1)	8 (8)	41 (41)	0 (0)	90 (90)			
		生命理工学類		8 (8)	11 (11)	1 (1)	7 (7)	27 (27)	0 (0)	99 (99)			
		医薬保健学域		医学類		51 (51)	48 (48)	8 (8)	49 (49)	156 (156)		0 (0)	85 (85)
		薬学類		12 (12)	14 (14)	0 (0)	15 (15)	41 (41)	0 (0)	85 (85)			
		保健学類		29 (29)	22 (22)	0 (0)	31 (31)	82 (82)	0 (0)	83 (83)			
		計		312 (312)	239 (239)	26 (26)	157 (157)	734 (734)	1 (1)	－ (－)			
		合　　計		329 (329)	248 (248)	28 (28)	163 (163)	768 (768)	1 (1)	－ (－)			
	教員以外の職員の概要	職　　種		専　任		兼　任		計			大学全体		
事　　務　　員		425 (425)		448 (448)		873 (873)							
技　　術　　員		1,037 (1,037)		511 (511)		1,548 (1,548)							
図　書　館　専　門　職　員		12 (12)		4 (4)		16 (16)							
そ　　の　　他　　の　　職　　員		5 (5)		237 (237)		242 (242)							
計		1,479 (1,479)		1,200 (1,200)		2,679 (2,679)							
校地等	区　　分		専　用		共　用		共用する他の学校等の専用		計	大学全体			
	校　舎　敷　地		731,780㎡		0㎡		0㎡		731,780㎡				
	運　動　場　用　地		115,740㎡		0㎡		0㎡		115,740㎡				
	小　　計		847,520㎡		0㎡		0㎡		847,520㎡				
	そ　　の　　他		1,793,478㎡		0㎡		0㎡		1,793,478㎡				
	合　　計		2,640,998㎡		0㎡		0㎡		2,640,998㎡				
校　　舎		専　用		共　用		共用する他の学校等の専用		計	大学全体				
		283,269㎡ (283,269㎡)		0㎡ (0㎡)		0㎡ (0㎡)		283,269㎡ (283,269㎡)					
教室等	講義室		演習室		実験実習室		情報処理学習施設		語学学習施設	大学全体			
	138室		215室		903室		8室 (補助職員0人)		6室 (補助職員0人)				
専　任　教　員　研　究　室		新設学部等の名称				室　　数							
		融合学域　先導学類				23　　室							

既 設	医薬保健学域						1. 01			
	医学類	6	112	2年次 5人	697	学士（医学）	1. 00	平成20年度	石川県金沢市宝町13-1	
	薬学類	6	35	—	210	学士（薬学）		平成20年度	石川県金沢市角間町	
	創薬科学類	4	40	—	160	学士（創薬科学）	1. 04	平成20年度	石川県金沢市角間町	
	保健学類						1. 02	平成20年度	石川県金沢市小立野5-11-80	
	看護学専攻	4	80	3年次 10人	340	学士（看護学）	1. 01			
	放射線技術科学専攻	4	40	3年次 5人	170	学士（保健学）	1. 01			
	検査技術科学専攻	4	40	3年次 5人	170	学士（保健学）	1. 03			
	理学療法学専攻	4	20	3年次 5人	90	学士（保健学）	1. 02			
	作業療法学専攻	4	20	3年次 5人	90	学士（保健学）	1. 03			
大 学 等	人間社会環境研究科								石川県金沢市角間町	
	人文学専攻 （博士前期課程）	2	23	—	46	修士（文学又は学術）	0. 77	平成24年度		
	経済学専攻 （博士前期課程）	2	6	—	12	修士（経済学，経営学又は学術）	1. 24	平成24年度		平成30年度より入学定員減（△2）
	地域創造学専攻 （博士前期課程）	2	14	—	28	修士（地域創造学又は学術）	0. 88	平成24年度		平成30年度より入学定員増（6）
	国際学専攻 （博士前期課程）	2	10	—	20	修士（国際学又は学術）	0. 75	平成24年度		平成30年度より入学定員増（2）
	人間社会環境学専攻 （博士後期課程）	3	12	—	36	博士（社会環境学，文学，法学，政治学，経済学又は学術）	1. 11	平成18年度		
	法学・政治学専攻 （博士前期課程）	2	—	—	—	修士（法学又は政治学）	—	平成24年度		令和2年度より学生募集停止
	自然科学研究科								石川県金沢市角間町	
	数物科学専攻 （博士前期課程）	2	56	—	112	修士（理学又は学術）	0. 96	平成24年度		
	（博士後期課程）	3	15	—	45	博士（理学又は学術）	0. 66	平成16年度		
の 状 況	物質化学専攻 （博士前期課程）	2	57	—	114	修士（理学，工学又は学術）	1. 11	平成24年度		
	（博士後期課程）	3	14	—	42	博士（理学，工学又は学術）	0. 42	平成26年度		
	機械科学専攻 （博士前期課程）	2	90	—	180	修士（工学又は学術）	1. 17	平成24年度		
	（博士後期課程）	3	25	—	75	博士（工学又は学術）	0. 54	平成26年度		
	電子情報科学専攻 （博士前期課程）	2	67	—	134	修士（工学又は学術）	1. 09	平成24年度		
	（博士後期課程）	3	18	—	54	博士（工学又は学術）	0. 53	平成16年度		
	環境デザイン学専攻 （博士前期課程）	2	40	—	80	修士（工学又は学術）	1. 03	平成24年度		
	（博士後期課程）	3	10	—	30	博士（工学又は学術）	1. 00	平成26年度		

既 設 大 学 等 の 状 況	新学術創成研究科								石川県金沢市角間町	
	融合科学共同専攻									
	(博士前期課程)	2	14	—	28	修士（融合科学）	0.99	平成30年度		
	(博士後期課程)	3	14	—	14	博士（融合科学，理学又は工	0.21	令和2年度		
	ナノ生命科学専攻									
	(博士前期課程)	2	6	—	6	修士（ナノ科学）	1.50	令和2年度		
	(博士後期課程)	3	6	—	6	博士（ナノ科学）	1.16	令和2年度		
	法学研究科								石川県金沢市角間町	
	法学・政治学専攻									
	(修士課程)	2	8	—	8	修士（法学又は政治学）	0.00	令和2年度		
法務専攻										
(専門職学位課程)	3	15	—	45	法務博士（専門職）	0.52	平成16年度			
教職実践研究科								石川県金沢市角間町		
教職実践高度化専攻										
(専門職学位課程)	2	15	—	30	教職修士（専門職）	0.89	平成28年度			
附属施設の概要		名 称：金沢大学人間社会学域学校教育学類附属幼稚園 目 的：教育基本法及び学校教育法に則り，幼稚園教育を施すとともに，これに関する研究及び実証を行い，かつ，学類学生に教育実習を行わせる。 所 在 地：石川県金沢市平和町1-1-15 設置年月：昭和24年5月 規 模 等：土地3,717㎡ 建物925㎡								
		名 称：金沢大学人間社会学域学校教育学類附属小学校 目 的：教育基本法及び学校教育法に則り，小学校教育を施すとともに，これに関する研究及び実証を行い，かつ，学類学生に教育実習を行わせる。 所 在 地：石川県金沢市平和町1-1-15 設置年月：昭和24年5月 規 模 等：土地24,757㎡ 建物7,545㎡								
		名 称：金沢大学人間社会学域学校教育学類附属中学校 目 的：教育基本法及び学校教育法に則り，中学校教育を施すとともに，これに関する研究及び実証を行い，かつ，学類学生に教育実習を行わせる。 所 在 地：石川県金沢市平和町1-1-15 設置年月：昭和24年5月 規 模 等：土地26,470㎡ 建物7,524㎡								
		名 称：金沢大学人間社会学域学校教育学類附属高等学校 目 的：教育基本法及び学校教育法に則り，高等普通教育を施すとともに，これに関する研究及び実証を行い，かつ，本学学生で高等学校教員となることを志望するものに教育実習を行わせる。 所 在 地：石川県金沢市平和町1-1-15 設置年月：昭和24年5月 規 模 等：土地24,932㎡ 建物6,273㎡								
		名 称：金沢大学人間社会学域学校教育学類附属特別支援学校 目 的：教育基本法及び学校教育法に則り，特別支援学校の教育を施すとともに，これに関する研究及び実証を行い，かつ，学類学生に教育実習を行わせる。 所 在 地：石川県金沢市東兼六町2-10 設置年月：昭和39年4月 規 模 等：土地10,517㎡ 建物4,813㎡								
		名 称：金沢大学附属病院 目 的：医学の教育，研究及び診療を行う。 所 在 地：石川県金沢市宝町13-1 設置年月：昭和24年5月 規 模 等：土地68,957㎡ 建物89,936㎡								

附属施設の概要	名称：金沢大学附属図書館 目的：教育、研究及び学習に必要な図書館資料を収集、整理、保存し、主として金沢大学の教職員及び学生の利用に供するとともに、一般利用者にも必要な学術情報を提供する。 所在地：石川県金沢市角間町（中央図書館及び自然科学系図書館） 石川県金沢市宝町13-1（医学図書館） 石川県金沢市小立野5-11-80（保健学類図書館） 設置年月：昭和24年5月 規模等：土地12,302㎡ 建物19,793㎡ 名称：金沢大学がん進展制御研究所 目的：全国共同利用・共同研究拠点として唯一のがん研究に特化した拠点としての活動を推進するとともに、大学院医薬保健学総合研究科大学院生の研究指導の協力を行う。 所在地：石川県金沢市角間町 設置年月：昭和42年6月 規模等：土地3,353㎡ 建物5,035㎡ 名称：金沢大学医薬保健学域薬学類・創薬科学類附属薬用植物園 目的：薬学生教育の場として、生薬や薬用植物に対する知識を深めるため、薬用植物の観察、栽培、収穫などの実習を行う。 所在地：石川県金沢市角間町 設置年月：昭和44年4月 規模等：土地21,766㎡ 建物150㎡	
----------------	--	--

金沢大学 設置申請に係わる組織の移行表

令和2年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	令和3年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
金沢大学				金沢大学				
人間社会学域				融合学域				学部の設置
人文学類	145	—	580	先導学類	55	3年度25	270	
法学類	170	3年度10	700	人間社会学域				
経済学類	135	—	540	人文学類	141	—	564	定員変更(入学定員△4)
学校教育学類	100	—	400	法学類	160	3年度5	650	定員変更(入学定員△10・編入学定員△5)
地域創造学類	90	—	360	経済学類	131	—	524	定員変更(入学定員△4)
国際学類	85	—	340	学校教育学類	85	—	340	定員変更(入学定員△15)
理工学域				地域創造学類	88	—	352	定員変更(入学定員△2)
数物科学類	84	3年度5	346	国際学類	83	—	332	定員変更(入学定員△2)
物質化学類	81	3年度4	332	理工学域				
機械工学類	100	3年度10	420	数物科学類	82	3年度5	338	定員変更(入学定員△2)
フロンティア工学類	110	3年度5	450	物質化学類	79	3年度4	324	定員変更(入学定員△2)
電子情報通信学類	80	3年度7	334	機械工学類	97	3年度10	408	定員変更(入学定員△3)
地球社会基盤学類	100	3年度7	414	フロンティア工学類	107	3年度5	438	定員変更(入学定員△3)
生命理工学類	59	3年度2	240	電子情報通信学類	78	3年度7	326	定員変更(入学定員△2)
医薬保健学域				地球社会基盤学類	98	3年度7	406	定員変更(入学定員△2)
医学類	112	2年度5	649	生命理工学類	58	3年度2	236	定員変更(入学定員△1)
薬学類	35	—	210	医薬保健学域				
創薬科学類	40	—	160	医学類	112	2年度5	637	※R3年度まで臨時定員増(R4年度以降は入学定員100名)
				薬学類	65	—	390	定員変更(入学定員30)
保健学類	200	3年度30	860		0	—	0	令和3年4月学生募集停止
看護学専攻	80	3年度10	340	医薬科学類	18	—	72	学部の学科の設置(事前伺い)
放射線技術科学専攻	40	3年度5	170	保健学類	189	3年度20	796	
検査技術科学専攻	40	3年度5	170	看護学専攻	79	3年度4	324	定員変更(入学定員△1・編入学定員△6)
理学療法学専攻	20	3年度5	90	放射線技術科学専攻	40	3年度3	166	定員変更(編入学定員△2)
作業療法学専攻	20	3年度5	90	検査技術科学専攻	40	3年度3	166	定員変更(編入学定員△2)
計	1,726	2年度5 3年度80	7,335	理学療法学専攻	15	3年度5	70	定員変更(入学定員△5)
				作業療法学専攻	15	3年度5	70	定員変更(入学定員△5)
人間社会環境研究科				計	1,726	2年度5 3年度90	7,403	
人文学専攻(M)	23	—	46	人間社会環境研究科				
経済学専攻(M)	6	—	12	人文学専攻(M)	23	—	46	
地域創造学専攻(M)	14	—	28	経済学専攻(M)	6	—	12	
国際学専攻(M)	10	—	20	地域創造学専攻(M)	14	—	28	
人間社会環境学専攻(D)	12	—	36	国際学専攻(M)	10	—	20	
自然科学研究科				人間社会環境学専攻(D)	12	—	36	
数物科学専攻(M)	56	—	112	自然科学研究科				
数物科学専攻(D)	15	—	45	数物科学専攻(M)	56	—	112	
物質化学専攻(M)	57	—	114	数物科学専攻(D)	15	—	45	
物質化学専攻(D)	14	—	42	物質化学専攻(M)	57	—	114	
機械科学専攻(M)	90	—	180	物質化学専攻(D)	14	—	42	
機械科学専攻(D)	25	—	75	機械科学専攻(M)	90	—	180	
電子情報科学専攻(M)	67	—	134	機械科学専攻(D)	25	—	75	
電子情報科学専攻(D)	18	—	54	電子情報科学専攻(M)	67	—	134	
環境デザイン学専攻(M)	40	—	80	電子情報科学専攻(D)	18	—	54	
環境デザイン学専攻(D)	10	—	30	環境デザイン学専攻(M)	40	—	80	
自然システム学専攻(M)	67	—	134	環境デザイン学専攻(D)	10	—	30	
自然システム学専攻(D)	21	—	63	自然システム学専攻(M)	67	—	134	
医薬保健学総合研究科				自然システム学専攻(D)	21	—	63	
医科学専攻(M)	15	—	30	医薬保健学総合研究科				
医学専攻(D)	64	—	256	医科学専攻(M)	15	—	30	
薬学専攻(D)	4	—	16	医学専攻(D)	64	—	256	
創薬科学専攻(M)	38	—	76	薬学専攻(D)	4	—	16	
創薬科学専攻(D)	11	—	33	創薬科学専攻(M)	38	—	76	
保健学専攻(M)	70	—	140	創薬科学専攻(D)	11	—	33	
保健学専攻(D)	25	—	75	保健学専攻(M)	70	—	140	
新学術創成研究科				保健学専攻(D)	25	—	75	
融合科学共同専攻(M)	14	—	28	新学術創成研究科				
融合科学共同専攻(D)	14	—	42	融合科学共同専攻(M)	14	—	28	
ナノ生命科学専攻(M)	6	—	12	融合科学共同専攻(D)	14	—	42	
ナノ生命科学専攻(D)	6	—	18	ナノ生命科学専攻(M)	6	—	12	
先進予防医学研究科				ナノ生命科学専攻(D)	6	—	18	
先進予防医学共同専攻(D)	12	—	48	先進予防医学研究科				
法学研究科				先進予防医学共同専攻(D)	12	—	48	
法学・政治学専攻(M)	8	—	16	法学研究科				
法務専攻(P)	15	—	45	法学・政治学専攻(M)	8	—	16	
教職実践研究科				法務専攻(P)	15	—	45	
教職実践高度化専攻(P)	15	—	30	教職実践研究科				
計	862	—	2070	教職実践高度化専攻(P)	15	—	30	
				計	862	—	2070	

教 育 課 程 等 の 概 要														
(融合学域先導学類)														
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
共通教育科目	導入科目	大学・社会生活論	1①	1		○			1					兼1 オムニバス オムニバス
		初学者ゼミⅠ	1①	1			○		1					
		データサイエンス基礎	1①	1		○			1					
		地域概論	1②	1		○			2					
		小計（4科目）	—	4	0	0	—	—	4	0	0	0	0	兼1 —
	G S 科目	1群（自己の立ち位置を知る）	現代世界への歴史学的アプローチ	1①・②・③・④	1		○			1				兼1
			グローバル時代の政治経済学	1①・②・③・④	1		○							兼1
			グローバル時代の社会学	1①・②・③・④	1		○							兼1
			ケーススタディによる応用倫理学	1①・②・③・④	1		○							兼1
			地球生物圏と人間	1①・②・③・④	1		○							兼1
			物理の世界	1②・④	1		○							兼1
			化学の世界	1①・②・③・④	1		○							兼1
		2群（自己を知り、自己を鍛える）	哲学（自我論）	1①・②・③・④	1		○			1				兼1
			パーソナリティ心理学	1①・②・③・④	1		○							兼1
			グローバル時代の文学	1①・②・③・④	1		○							兼1
			健康科学	1①・②・③・④	1		○							兼2
			細胞・分子生物学	1①・②・③・④	1		○							兼2
			エクササイズ&スポーツ 実技	1①・②・③・④	1			○						兼2
		3群（考え・価値観を表現する）	プレゼン・ディベート論（初学者ゼミⅡ）	1②	1			○		1		1		共同
			クリティカル・シンキング	1①・②・③・④	1		○							兼1
			価値と情動の認知科学	1①・②・③・④	1		○							兼1
			論理学から見る世界	1①・②・③・④	1		○							兼1
			数学的発想法	1①・②・③・④	1		○							兼1
			芸術と自己表現	1①・②・③・④	1		○							兼1
			スポーツ科学	1①・②・③・④	1		○							兼1
		4群（世界とつながる）	金沢・能登と世界の地域文化	1②・③・④	1		○							兼1
			日本史・日本文化	1②・③・④	1		○							兼3
			異文化間コミュニケーション	1①・②・③・④	1		○							兼1
			異文化体験A	1②・④	1									兼2
			異文化体験B	1②・④	2			○						共同・集中
			異文化体験C	1②・④	3			○						兼2
			異文化体験D	1②・④	4			○						兼2
			異文化体験E	1②・④	5			○						兼2
			異文化体験F	1②・④	6			○						兼2
			異文化体験G	1②・④	7			○						兼2
			異文化体験H	1②・④	8			○						兼2
			国際社会とボランティア	1①・②	1		○							兼1
			グローバル社会と地域の課題	1①・②・③・④	1		○							兼1
		5群（未来の課題に取り組む）	科学技術と科学方法論	1①・②・③・④	1		○			1				兼1
			統計学から未来を見る	1①・②・③	1		○							兼1
			情報の科学	1①・②・③・④	1		○							兼1
			環境学とESD	1①・②・③・④	1		○							兼1
			生活と社会保障	1①・②・③・④	1		○							兼1
			人権・ジェンダー論	1②・③・④	1		○							兼1
			小計（39科目）	—	1	66	0	—	2	2	0	1	0	兼31 —
	G S 言語科目（英語）	TOEIC準備Ⅰ	1①	1		○								兼1
		TOEIC準備Ⅱ	1②	1		○								兼1
		TOEIC準備Ⅲ	1③	1		○								兼1
		TOEIC準備Ⅳ	1④	1		○								兼1
		TOEIC準備（演習）	2①・②・③・④	1		○								兼1
		English for Academic PurposesⅠ	1①	1		○								兼1
		English for Academic PurposesⅡ	1①・②	1		○								兼1
		English for Academic PurposesⅢ	1③	1		○								兼1
		English for Academic PurposesⅣ	1④	1		○								兼1
		English for Academic Purposes（Retake）	2①・②・③・④	1		○								兼1

科目 区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通教育科目	G S 言語科目 (日本語)	アカデミック基礎日本語A	1①	1			○								兼1	
		アカデミック基礎日本語B	1②	1			○								兼1	
		講義の聴解A	1①・③		1		○								兼1	
		講義の聴解B	1②・④		1		○								兼1	
		口頭発表ⅠA	1①		1		○								兼1	
		口頭発表ⅠB	1②		1		○								兼1	
		口頭発表ⅡA	1③		1		○								兼1	
		口頭発表ⅡB	1④		1		○								兼1	
		上級読解ⅠA	1①		1		○								兼1	
		上級読解ⅠB	1②		1		○								兼1	
		上級読解ⅡA	1③		1		○								兼1	
		上級読解ⅡB	1④		1		○								兼1	
		日本語で学ぶ論理A	1③		1		○								兼1	
		日本語で学ぶ論理B	1④		1		○								兼1	
		日本事情A	1①・③		1		○								兼1	
		日本事情B	1②・④		1		○								兼1	
		アカデミック・ライティングA	1①・③		1		○								兼1	
		アカデミック・ライティングB	1②・④		1		○								兼1	
		小計 (28科目)		—	10	18	0	—			0	0	0	0	0	兼10
	基礎科目	微分積分学ⅠA	1①		1		○								兼1	
		微分積分学ⅠB	1②		1		○								兼1	
		微分積分学ⅡA	1③		1		○								兼1	
		微分積分学ⅡB	1④		1		○								兼1	
		線形代数学ⅠA	1①		1		○								兼1	
		線形代数学ⅠB	1②		1		○								兼1	
		線形代数学ⅡA	1③		1		○								兼1	
		線形代数学ⅡB	1④		1		○								兼1	
		統計数学A	1③		1		○								兼1	
		統計数学B	1④		1		○								兼1	
		物理学実験	1③～④, 2①～②		2				○						兼1	
		物理学ⅠA	1①		1		○								兼1	
		物理学ⅠB	1②		1		○								兼1	
		化学実験	1③～④, 2①～②		2				○						兼1	
		化学ⅠA	1①		1		○								兼1	
		化学ⅠB	1②		1		○								兼1	
		化学ⅡA	1③		1		○								兼1	
		化学ⅡB	1④		1		○								兼1	
		小計 (18科目)		—	0	20	0	—			0	0	0	0	0	兼6
	初習言語科目	ドイツ語A1－1	1①・③		1			○							兼1	
		ドイツ語A1－2	1②・④		1			○							兼1	
		ドイツ語A2－1	1①・③		1			○							兼1	
		ドイツ語A2－2	1②・④		1			○							兼1	
		ドイツ語A3－1	1①・③		1			○							兼1	
		ドイツ語A3－2	1②・④		1			○							兼1	
		ドイツ語A4－1	1①・③		1			○							兼1	
		ドイツ語A4－2	1②・④		1			○							兼1	
		ドイツ語B－1	2①		1			○							兼1	
		ドイツ語B－2	2②		1			○							兼1	
		ドイツ語C－1	2①・③		1			○							兼1	
		ドイツ語C－2	2②・④		1			○							兼1	
		フランス語A1－1	1①		1			○							兼1	
		フランス語A1－2	1②		1			○							兼1	
		フランス語A2－1	1①		1			○							兼1	
		フランス語A2－2	1②		1			○							兼1	
		フランス語A3－1	1③		1			○							兼1	
		フランス語A3－2	1④		1			○							兼1	
		フランス語A4－1	1③		1			○							兼1	
		フランス語A4－2	1④		1			○							兼1	
		フランス語B－1	2①・③		1			○							兼1	
		フランス語B－2	2②・④		1			○							兼1	
		フランス語C－1	2③		1			○							兼1	
		フランス語C－2	2④		1			○							兼1	
		ロシア語A1－1	1①		1			○							兼1	
		ロシア語A1－2	1②		1			○							兼1	

科目 区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通教育科目	初習言語科目	ロシア語A 2－1	1①		1			○							兼1	
		ロシア語A 2－2	1②		1			○							兼1	
		ロシア語A 3－1	1③		1			○							兼1	
		ロシア語A 3－2	1④		1			○							兼1	
		ロシア語A 4－1	1③		1			○							兼1	
		ロシア語A 4－2	1④		1			○							兼1	
		ロシア語B－1	2①・③		1			○							兼1	
		ロシア語B－2	2②・④		1			○							兼1	
		ロシア語C－1	2①・③		1			○							兼1	
		ロシア語C－2	2②・④		1			○							兼1	
		中国語A 1－1	1①		1			○							兼1	
		中国語A 1－2	1②		1			○							兼1	
		中国語A 2－1	1①		1			○							兼1	
		中国語A 2－2	1②		1			○							兼1	
		中国語A 3－1	1③		1			○							兼1	
		中国語A 3－2	1④		1			○							兼1	
		中国語A 4－1	1③		1			○							兼1	
		中国語A 4－2	1④		1			○							兼1	
		中国語B－1	2①・③		1			○							兼1	
		中国語B－2	2②・④		1			○							兼1	
		中国語C－1	2③		1			○							兼1	
		中国語C－2	2④		1			○							兼1	
		朝鮮語A 1－1	1①		1			○							兼1	
		朝鮮語A 1－2	1②		1			○							兼1	
		朝鮮語A 2－1	1①		1			○							兼1	
		朝鮮語A 2－2	1②		1			○							兼1	
		朝鮮語A 3－1	1③		1			○							兼1	
		朝鮮語A 3－2	1④		1			○							兼1	
		朝鮮語A 4－1	1③		1			○							兼1	
		朝鮮語A 4－2	1④		1			○							兼1	
		朝鮮語B－1	2①・③		1			○							兼1	
		朝鮮語B－2	2②・④		1			○							兼1	
		朝鮮語C－1	2①・③		1			○							兼1	
		朝鮮語C－2	2②・④		1			○							兼1	
	スペイン語A 1－1	1①		1			○							兼1		
	スペイン語A 1－2	1②		1			○							兼1		
	スペイン語A 2－1	1①		1			○							兼1		
	スペイン語A 2－2	1②		1			○							兼1		
	スペイン語A 3－1	1③		1			○							兼1		
	スペイン語A 3－2	1④		1			○							兼1		
	スペイン語A 4－1	1③		1			○							兼1		
	スペイン語A 4－2	1④		1			○							兼1		
	スペイン語B－1	2①		1			○							兼1		
	スペイン語B－2	2②		1			○							兼1		
	スペイン語C－1	2③		1			○							兼1		
	スペイン語C－2	2④		1			○							兼1		
		小計（72科目）	—	0	72	0	—			0	0	0	0	0	兼9	
自由履修科目	アントレプレナーシップⅠ	1①		1		○								兼1	集中	
	里山里海体験実習 in 能登半島	1①・②		1				○						兼1		
	里山概論	1①・②		1		○								兼1		
	石川県の行政	1③～④		2		○								兼1		
	石川県の市町	1①～②		2		○								兼1		
	健康論実践D	1④		1				○						兼1		
	健康論実践E	1④		1				○						兼1		
	現代社会における保険の制度と役割	1③～④		2		○								兼1		
	ジャーナリズム論	1④		1		○								兼1		
	実践アントレプレナー学	1③		1		○								兼1		
	クラウド時代の「ものグラミング」概論	1①～②		2		○								兼1		
	シェルスクリプト言語論	1①～②		2		○								兼1		
	地元学A（地域資源調査）	1①		1		○								兼1		
	地元学B（聞き書き）	1②		1		○								兼1		
シェルスクリプトを用いた「ものグラミング」演習	1②		2			○							兼1			

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
共通教育科目	世界農業遺産「能登の里山里海」とSDGsを考察するスタディ・ツアー	1①・②		1			○							兼1 集中
	イノベーションを起こして、起業家になろう1	1①		1		○			1					
	イノベーションを起こして、起業家になろう2	1②		1		○			1					
	イノベーションを起こして、起業家になろう3	1③		1		○			1					
	イノベーションを起こして、起業家になろう4	1④		1		○			1					
	香りと日本文化	1②		1		○								兼1
	心と体の健康A	1③		1		○								兼1
	心と体の健康B	1④		1		○								兼1
	地域「超」体験プログラム	1①・②・④		1				○						兼1 集中
	ひとのからだ1	1①		1		○								兼1
	ひとのからだ2	1②		1		○								兼1
	ひとのからだ3	1③		1		○								兼1
	ひとのからだ4	1④		1		○								兼1
	道德教育および宗教教育をグローバルに考える	1④		1		○								兼1
	金沢の歴史と文化	1③～④		2		○								兼1
	日本の伝統芸能1	1①		1		○								兼1
	日本の伝統芸能2	1②		1		○								兼1
	多民族・多文化共生の未来を語る	1①		1		○								兼1
	地域創造学特別講義C	1③		1		○								兼1
	地域創造学特別講義D	1④		1		○								兼1
	日本国憲法概説	1③		2		○								兼1
	日本史要説	2①～②		2		○								兼1
	東洋史要説	2①～②		2		○								兼1
	異文化理解のためのビデオ会議ディスカッション	1③		1		○								兼1
	行政学の基礎	1①		2		○								兼1
	ガラスとクリスタルⅠ	1②		1		○								兼1
	ガラスとクリスタルⅡ	1③		1		○								兼1
	ゼミ／角間の里山づくり 春編	1①		1			○							兼1
	ゼミ／角間の里山づくり 秋編	1③		1			○							兼1
	コーヒーと社会	1③		1		○								兼1
	コーヒーと科学	1④		1		○								兼1
	地学実験	1②～③		2				○						兼1
	生物学実験	1①～②		2				○						兼1
	海洋生化学演習	1①		2			○							兼1 集中
	英国諸島の地史Ⅰ	1②		1		○								兼1
	英国諸島の地史Ⅱ	1③		1		○								兼1
	環境動態学概説Ⅰ	1③		1		○								兼1
	環境動態学概説Ⅱ	1④		1		○								兼1
	Pythonデータ分析入門	1③		1		○								兼1
	プレゼンテーション演習A	1③		1		○								兼1
	プレゼンテーション演習B	1④		1		○								兼1
	コンピュータグラフィクス演習Ⅰ	1③		1				○						兼1
	コンピュータグラフィクス演習Ⅱ	1④		1				○						兼1
	動画配信サービスを用いた情報発信演習A	1①		1		○								兼1
	動画配信サービスを用いた情報発信演習B	1②		1		○								兼1
	プログラミング演習Ⅰ	1③		1				○						兼1
	プログラミング演習Ⅱ	1④		1				○						兼1
	Society 5.0 概論	1③～④		2		○								兼1
	英語セミナー	1①・②・③・④		1		○								兼1
	ゼミ／アフリカ系人の音楽を通じて知る現代の世界1	1③		1			○							兼1
	ゼミ／アフリカ系人の音楽を通じて知る現代の世界2	1④		1			○							兼1
	ドイツ語A（充実クラスⅠ－1）	1③		1			○							兼1
	ドイツ語A（充実クラスⅠ－2）	1④		1			○							兼1
	ドイツ語A（充実クラスⅡ－1）	1③		1			○							兼1
	ドイツ語A（充実クラスⅡ－2）	1④		1			○							兼1

科目 区分	授業科目の名称	配当年度	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
共通教育科目	自由履修科目	フランス語A（充実クラスⅠ－1）	1③	1			○							兼1
		フランス語A（充実クラスⅠ－2）	1④	1			○							兼1
		フランス語A（充実クラスⅡ－1）	1③	1			○							兼1
		フランス語A（充実クラスⅡ－2）	1④	1			○							兼1
共通教育科目		中国語A（充実クラスⅡ－1）	1③	1			○							兼1
		中国語A（充実クラスⅡ－2）	1④	1			○							兼1
		小計（76科目）	—	0	91	0	—		2	0	0	0	0	兼34
		共通教育科目計（237科目）	—	15	267	0	—		6	2	0	1	0	兼81
目 G 学 科 S 域 科	イノベーション基礎	1③	1			○			1					
	数理・データサイエンス基礎及び演習	1③	1				○		2					オムニバス
	小計（2科目）	—	2	0	0	—	—		3	0	0	0	0	—
	語 G 学 科 S 域 目 言	学域GS言語科目Ⅰ/海外実践英語	2①・②	1		○				1				
専門基礎科目		学域GS言語科目Ⅱ/時事・学術英語	3①・②	1		○				1				
		小計（2科目）	—	2	0	0	—		0	1	0	0	0	—
	先導実践科目	アントレプレナー基礎	1①	1		○			1					兼2
		アントレプレナー演習Ⅰ	2①	2			○				1	1		共同
専門基礎科目		アントレプレナー演習Ⅱ	2②	2			○				1	1		共同
		デザイン思考	1④	1		○			1			1		共同
		デザイン思考演習	2①	2			○		1			1		共同
		アントレプレナーインターンシップ	2④	2				○		1				
専門基礎科目		アントレプレナーコンテスト/リーダー養成	3②	1			○							兼1
		アントレプレナーコンテスト/実践リーダー	4②	1			○							兼1
		小計（8科目）	—	12	0	0	—		2	1	1	1	0	兼2
専門基礎科目	社会循環コアエリア	AIと未来社会	2②	1		○				1				兼1
		シェアリングエコノミー	2④	1		○								
		現代社会を知る	2①	1		○			4			1		オムニバス
		社会変動と労働生産性	2②	1		○			1	1		1		兼3
専門基礎科目		フィンテック基礎とビジネス応用	2①	1		○								オムニバス
		超スマートシティと Society5.0	2②	1		○			1			1		兼2
		消費生活論	2④	1		○			1					オムニバス
		倫理学	2③	1		○				1				
専門基礎科目		ファイナンス基礎	1③	1		○								兼1
	世界共創コアエリア	異文化理解とキャリア開発	2③	1		○						1		
		国際世界と特許	2③	1		○			1					
		グローバルゼーション	2④	1		○				1		1		オムニバス
専門基礎科目		ダイバーシティ促進	2①	1		○						1		
		国際協力体制	2②	1		○				3				オムニバス
		人の流動と定着	2②	1		○				2				オムニバス
		ビジネスと政治	2④	1		○			1					
専門基礎科目		SDGs基礎	2③	1		○				1				
		マーケティング基礎	2①	1		○			1					
	科学創発コアエリア	社会的な視点から見る医療	2③	1		○			2		1			オムニバス
		生命科学的な視点から見る医療	2④	1		○			2		1			オムニバス
専門基礎科目		未来医科学	2④	1		○			1					
		人工知能	2①	1		○				1				
		世界の課題と技術トレンド	2③	1		○				1				
		IoT技術	2③	1		○				1				
専門基礎科目		数理統計学基礎	2②	1		○								兼1
		世界変革技術論	2①	1		○			1	1				
		テクノロジー基礎	1④	1		○			1	1		2		兼1
		小計（27科目）	—	0	27	0	—		9	6	1	3	0	兼6
専門科目	先導学知科目	マーケティング論	3①	2		○			1					
		経営管理論	3①	2		○								兼1
		国際経営論	3③	2		○								兼1
		管理会計論	3③	2		○								兼1
専門科目		ESG投資	3②	1		○								兼1
		生活デザイン論	3②	1		○			1					
		創業支援論	3①	1		○			1					
		知的財産法	3②	2		○			1					
専門科目		イノベーション・マネジメント	3④	1		○			1					
		需要予測	2④	1		○			2					
		情報ネットワーク	3①	1		○								オムニバス
														兼1

科目 区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門科目	先導学知科目	データベース論	3③		1		○				1					兼1	
		プレジジョンメディシン	3③		1		○										
		テクノロジーと医療・健康・介護	3③		1		○				1					兼1	
		プランニング最適化	3③		1		○										
		比較制度論	3③		1		○				1					兼1	
		地域政策論	3③		1		○				1						
		生活環境学	3②		1		○				1					兼1	
		心理学概論	3①		1		○										
		公共政策論	3①		1		○									兼1	共同
		レギュラトリーサイエンス	3④		1		○			1			1				
		未来型ヘルスケアシステム	3③		1		○			1						兼1	
		都市・交通デザイン	2④		1		○			1							
		プロジェクト・マネジメント	3①		1		○			1						兼1	
		超高齢化社会と科学技術	3②		1		○			1							
		地域包括ケアと地方創生	3②		1		○			1						兼1	
		経営戦略論	3②		2		○										
		医療制度改革と医療経済	3①		2		○			2			1			兼1	オムニバス
		アプリ開発	3②		1		○				1						
		機械学習	3③		1		○			1		1				兼1	
		先導数学	2④		2		○			1							
		データサイエンス実践	3④		1		○									兼1	
		先端医学	2④		1		○			1							
		AI・IoT健康福祉学	3④		1		○			1						兼1	
		センシング論	3①		2		○										
		マテリアル科学	3②		1		○						1			兼1	
		光学技術論	3③		1		○										
		フィジカル・ブレイン接続	3④		1		○			1						兼1	
		コンピュータとデジタル回路	3①		1		○			1							
		コンピュータと電子回路	3④		1		○			1						兼1	
	地球環境論	3③		2		○											
	環境基礎科学	3④		1		○			1				1		兼1	オムニバス	
	プログラミングスキル	2④		1		○			1								
	SDGs実践	2④		1		○				1					兼13		
	小計（44科目）	—	0	54	0	—		13	2	0	2	0					
	先導鍛錬科目	学術考究	4①		1		○				2	1				共同	
		潜在課題探査分析演習	3④		1				○			1		1			
		先導プロジェクト演習	4①～③	2					○		13	5					
		海外実践留学	3③～④		1						1						
		国際インターンシップ	3③～④		1						1						
		小計（5科目）	—	2	4	0	—		13	6	0	1	0	—			
	先導確立科目	先導研究	4①～④		8				○		2					共同	
		先導演習	4①～④		8				○		1						
		先導試験	4①～④		8				○		1						
		小計（3科目）	—	0	24	0	—		4	0	0	0	0	—			
合計（328科目）			—	33	376	0	—		13	6	1	3	0	兼92			
学位又は称号		学士（学術）		学位又は学科の分野				経済学関係、社会学・社会福祉学関係、工学関係、保健衛生学関係（看護関係及びリハビリテーション関係を除く。）									
卒業要件及び履修方法										授業期間等							
以下の要件を満たし、合計124単位以上を修得した者。 ・共通教育科目において導入科目から4単位、GS科目に配置する5群の科目群から各3単位（必修科目含む）、GS言語科目から8単位、基礎科目又は初習言語科目から8単位を含め、計38単位以上を修得。 ・専門教育科目において学域GS科目から2単位、学域GS言語科目から2単位、先導実践科目から12単位、先導コア科目に配置する3コアエリアのうち、同一エリアからの8単位を含む18単位、先導学知科目から30単位、先導鍛錬科目から4単位、先導確立科目から8単位を含め、計86単位以上を修得。								1 学年の学期区分				4 期					
								1 学期の授業期間				8 週					
								1 時限の授業時間				90 分					

授 業 科 目 の 概 要			
（融合学域先導学類）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 教育 科目		大学・社会生活論 本授業では、学生諸君が大学における学習方法・目的や社会的責任を果たす上で必要な常識・知識などを学んで早期に大学生生活のありようを体得すること、さらに大学のなかに自己発見・自己開発の契機が多々存在することに気づき、それらを利用しながら将来イメージをより明確にできるようにすることを目標とする。 具体的には、以下を学生の学修目標とする。 ①できるだけ早く大学に慣れ、大学生らしい学修態度・学習技術・生活態度及び自己管理能力を身につける ②これからの人権・共生の時代に必要とされる知識・教養に触れ、その基本を理解する ③留学・就職・進学・ボランティア活動などについての知識を身につけ、大学4年間の過ごし方やその後の将来のあり方を自ら設計できるようになる	
	導入科目	初学者ゼミⅠ 入学者に対し、大学で学ぶ上でかかすことのできない主体的・自主的学習への動機づけを行い、専門教育を含む大学教育全般に対する能動的学習に導くことを目標とする。さらに、学生と教員及び学生相互のディスカッションを通して、大学生としての自己表現能力、学習デザイン能力、及び論理的な思考方法を育成する。 ①自ら課題を発見し、それを調べて、まとめることで、学習デザイン能力と論理的な思考力を向上させる ②ディスカッションやプレゼンテーションを経験することで、自己表現能力を向上させる ③他人とのディスカッション、レポートの作成等を通して、話す・聞く・書くなどの日本語能力を向上させる （オムニバス／全8回） ① 大竹茂樹／4回 テーマ設定。関連資料収集のためのツールを知る。関連資料の収集と分析。 （24 山崎光悦／4回） レポート作成を指導する。作成したレポートに基づく議論を行う。	オムニバス
		データサイエンス基礎 データサイエンスの産業利用が活発な状況で、データサイエンスに関わる基本的知識の習得は重要である。本授業では、これに加え、データサイエンスの学習に必要な学内ネットワークの適切利用、セキュリティ、コンプライアンス・モラル、および基礎的情報リテラシー等を学修する。	
		地域概論 本授業の目標は、所属する学類（一括入試入学者にとっては該当する学域）の専門分野を社会との繋がり、地域への貢献という視点から理解し、学生としての決意を持って、大学4年間の学修をデザインできるようにすること。 この授業科目を通じて次の学修成果を獲得する。 ① 学類の専門分野を、地域との繋がりや社会への貢献の視点から理解し、地域の感性を育むこと。 ② 自分の将来の目標を明確化し、専門分野と地域社会への関わり方を見つけること。 ③ 将来の働く姿を描きつつ、大学4年間の学修を主体的にデザインできるようにすること。 ④ 石川県を一例として、地域の自然、文化、歴史、産業等を理解すること。 （オムニバス／全8回） ② 尾島恭子／4回 地域で働く、地域との関わりから進路を考える （7 佐無田光／4回） 学類と地域とのつながり	オムニバス
	G S 科 目	を1群（自己の立ち位置） 現代世界への歴史的アプローチ 現代世界で発生しているさまざまな問題の多くは、そこに至る歴史的な経緯が大きく関係しており、それを正しく把握できなければ、問題も正しく理解できない。したがって、現代世界の理解のためには、世界史の基本的な知識と歴史的な発想法・分析視角の獲得が必須である。本授業では前提となる知識を再確認しつつ、歴史的発想法・分析視角を学ぶ。 獲得した知識と発想法・分析視角を使って、自己の置かれた歴史的状況を正しく認識し、現代世界の問題を読み解くことができるようになることを学修目標とする。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	GS科目	グローバル時代の政治経済学	グローバル化が進行する現代社会において、政治や経済の仕組みも大きく変容しつつある。そうしたなかにあつて、学生はグローバルな政治経済に関する具体的な事例に則しながら、いかにして国際社会に平和を構築していけばいいのかという、人類共通の課題解決に向けた科学的思考を習得する。 秩序ある国際社会の構築という、人類共通の課題解決に資する問題発見と問題解決のための科学的思考基盤の習得を学修目標とする。	
		グローバル時代の社会学	身の回りとその背後にある社会に批判的思考を働かせてみる、社会学という学問の世界に触れる。この講義においては、各回に具体的事例に即しながら、グローバル化する社会や社会学の知識を生かして、社会の中で協働しつつ生きていくあり方を学ぶ。 具体的な学修目標は、以下のとおり。 ・社会学の重要な語句や視点について説明できる。 ・社会学の基本的な見方、考え方を理解している。 ・日常生活の中での経験を、社会学的な視点から分析できる。 ・新しい社会のできごとについて、自ら探求し様々な可能性を考えることができる。	
		ケーススタディによる応用倫理学	個人と社会の実践的な倫理的問題を、客観的に分析し道徳的に判断する、という応用倫理学の基本的な考え方を学ぶ。授業では、医療倫理、工学倫理、企業倫理、環境倫理などの領域において、いくつかの事例を手がかりにして、倫理的問題に対するこのような取り組み方を学ぶ。 応用倫理学を事例を通して学ぶことによって、自ら直面する倫理的問題に対して、事実認識と価値判断を区別し、自らの道徳的感覚に自覚的になることが期待される。	
		地球生物圏と人間	地球はその内部、表層から気圏に至るまで常に動的であり、私たちを含む生物は、その変動する地球の上に暮らしている。本授業では、地球の一員としてのヒトの立ち位置を理解するのに必要な、地球・生物の成り立ちや生物と地球環境との関わりについての知識を学ぶ。 具体的には、以下について学ぶ。 ・地球システムにおける人類の位置づけ ・地球での様々な出来事とプレートテクトニクスの関連 ・地球のダイナミクスと人間社会への影響（特に災害） ・水と大気の動きをと人間社会への影響 ・地球生命史の概略と生命と地球の相互作用 ・種の共存と生物群集の成立のしくみ ・生物集団の進化の仕組み及び種の形成 ・遺伝情報学、分子系統学	
		物理の世界	自然は私たちを取り巻いて厳に存在しており、その自然界の背後には普遍的な物理法則が存在している。 本授業では、主として、文系の学生を対象とする力学、熱学、電磁気学を中心とする古典物理学の講義を、物理学の各基礎事項を日常生活で経験する事柄と関連づけながら行う。 典型的な物理現象の理解を通して、見かけの相違にとらわれることなく法則の普遍性を捉え、物事の本質を見抜く科学的思考の獲得を目的とする。	
		化学の世界	物質の構成要素となる元素を対象とした化学の世界は、その構造、性質及び反応を究明することで目覚ましい進歩を遂げてきた。では、人類の物質に関する理解はどの様に進歩して、現代化学における物質観につながってきたのか。 本授業では、化学的に考えるための基礎として、物質の成り立ちや基本事項について概観し、巨視的な現象と原子・分子・イオンなどの微視的な粒子の挙動との関係や、暮らしの中の色、味、匂いを題材とし、感覚発生のメカニズムや分子構造との関係について学ぶ。化学の世界に関するこうした理解を通して、多種多様な世界観が存在する現代において、客観的かつ科学的な視点で物事を捉えることを目的とする。	
	己2を群鍛（自己を知る、自己を鍛える）	哲学（自我論）	〈私〉とは何かといった自己をめぐる問いは、日常生活の中で改めて問われることはあまりないが、いざ答えようとしても容易には答えられない難問であり、しかも実は人にとってきわめて切実な問いである。 本授業では自己をめぐる形而上学的、存在論的、認識論的な問題を、代表的な哲学者たちの見解を批判的に検討しながら考察し、自己の本質を探究することで、哲学がどのような学問であるかを知ること、自己の存在と様態、自己同一性、独我論、心身問題など自己をめぐるさまざまな哲学的問題の所在を理解すること、哲学文献の批判的な分析と解釈の方法を学ぶことを目的とする。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	GS科目	パーソナリティ心理学	パーソナリティ心理学は、人間の性格に関するさまざまな問題を科学的に研究することを目的とする分野で、現代心理学のもっとも重要な研究領域の一つである。本授業ではパーソナリティとは何か、パーソナリティと性格、気質など他の類似概念との違いや、パーソナリティを客観的に測定するために開発されてきた心理学的査定の方法、パーソナリティの機能（はたらき）と構造（しくみ）に関する主要なパーソナリティ理論等について解説するとともに、パーソナリティを記述するために提唱されてきた類型論と特性論の特色について考察する等、パーソナリティ心理学の主要な理論とパーソナリティの研究方法について概観する。 本授業では、パーソナリティに対する知識・理解を深め、科学的に考える能力を養うとともに、得た知見を基に、自己理解、他者理解を深め、人間関係の発展を目指す。	
		グローバル時代の文学	グローバル時代においては、様々な文学体験をすることで、自己を知り、自己を鍛えることが可能となる。世界各地の文学作品を直に読む文学体験を実践して、批判的な思考を可能にし、豊かな想像力を養うとともに、世界各地の文学作品を読解するための方法や物事を他者の視点で見ること＝自己を相対化することを学ぶ。 具体的な学修目標は以下のとおり。 ①作られた小説を読み、フィクション世界を自らの「心」の内部に構築できる、豊かな想像力を身に着ける。 ②世界各地の文学作品を読み、それら作品の背後（深層）にある意味（社会・文化・思想）を理解するために必要な知識と能力を獲得する。 ③文学解釈という行為を通して、物理的な対象ではない人間の「心」についての思索を深め、自己を知り、他者を知るための経験的な基盤を構築する。	
		健康科学	我々を取り巻く環境・生活習慣は、健康にとって危険な要素を含んでいる。健康に生活するためには、これらの危険な要素と対処法を知らねばならない。WHOは、健康は「肉体的、精神的及び社会に完全に良好な状態であり、単に疾病又は病弱の存在しないことではない」と示し、「計画的な努力によって得られる状態であり、よりバランスの取れた健康的な生活を得ようとする行動そのもの」と定義している。 本授業では、健康を守る身体メカニズムと社会の仕組みを学ぶと共に、健康的な生活を送るために必要な知識を身に着け、日常生活の中に取り入れて、実践していくことを目指す。健康を守りさらに積極的に増進するために必要な社会全体としての目標・取組から、個人として実践可能な正しい食事、運動や休養の知識、日常生活、メンタルヘルスに関する知識について学ぶ。	
		細胞・分子生物学	私たち人間は細胞からできている。その細胞内に存在するタンパク質や核酸などの分子レベルの振る舞いや、細胞の構造と機能、その多様性を解説することにより、細胞の構造と機能制御のメカニズムを分子レベルで学習するとともに、生命科学の基礎知識を理解することを目的とする。	共同
		エクササイズ&スポーツ 実技	心身の鍛錬は自律の基本である。本授業では、運動を通して、身体形成の必要性を知り、体力づくりや運動技能習得のための原理・原則を理解し実践することによって、自己を知り自己を鍛えるための能力を高めることを目的とする。	共同
	す3群（考え・価値観を表現）	プレゼン・ディベート論（初學者ゼミⅡ）	本授業では、初學者ゼミⅠの内容を踏まえ、そこでの調査・研究を継続するとともに、成果をいかに効果的に発表し議論するか、という視点を導入して演習を行う。学生は、本授業を通して、発表・討論に必要な技術・能力を習得することが出来るようになることを目標とする。 具体的には、以下の能力の向上を図る。 ①他者との議論やプレゼンテーションを通じて自己表現能力を向上させる。 ②ディスカッションやレポートの作成を通して、話す・聞く・書くなどの日本語能力を向上させる。 ③教員の指導や文献調査等を通じて、論理的な思考力や実証力を向上させる。	共同

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	GS科目 3群（考え・価値観を表現する）	クリティカル・シンキング	日本語は、他の言語と同様に、もちろん十分に論理的である。しかし、その論理性は日本語という文法構造によって具体化されているため、＜日本語を用いて＞論理的な表現を行うためには、英語やスワヒリ語とは別の規則を知らなければならない。 本授業では、受講者間の文化的背景と価値観の多様性についての相互理解を深めた上で、批判的思考の方法や、関係する新しい概念や理論、方法を身につけ、実践的課題に取り組むことにより各人の問題解決能力の向上をめざし、クリティカル・シンキングの概念だけでなく、それを実践すること、つまり批判的に考えるとはどういうことかを学び、論理的なく思考・表現＞の能力を高めることを目的とする。	
		価値と情動の認知科学	行動や表現を引き起こすのは、最終的には理性というより、行為者の価値観や態度や情動である。しかもそれらは、往々にして非合理的な要素を多く含み、しかも行為者本人からは隠されている。自己の行動や表現を適切にコントロールし、他者の行動や表現を適切に理解するためには、価値や情動に関する＜認知・行動＞の仕組みに関する理解が必要となる。 本授業では、人間の認知能力の様々な観点から、ヒトの認知能力には、私たちが常識的にとらえているのとは異なる意外な側面があるのだということについて、自分で考えながら、整理し、ヒトという動物である自分の認知能力についての、より深い理解を確立すること、さらに、以上のことを自分自身の言葉で説明し、表現できるようになることを目的とする。	
		論理学から見る世界	我々は日々「論理的」とか「非論理的」とかという言葉と比較的気楽に使うが、実際のところ、論理的に正しいというのがどのようなことかということを厳密に議論するのはそれほど簡単なことではない。論理学というのは結局のところ、その問題だけを探求する学問である。とはいえ、この極めて抽象的な学問は、その抽象性にもかかわらず、あるいはその抽象性のゆえに、現在では様々な学問に共通する基盤となる分野として学際的な観点から研究されている。 この授業ではまず論理的に正しいというのはどのようなことかという基本的な問題を論じ、さらに論理的に正しい推論を行うための技術とはどのようなものかについて議論し、正しい概念的理解と、論理的に正しい推論をするための技術を習得することで、いかなる分野を学ぶにあたって基盤となる論理的能力を身につけてもらうことを目的とする。	
		数学的発想法	数学は多くの学問分野において、その法則を適切に表現するための言葉として用いられ、文系、理系を問わず必要なリテラシーとされている。 本授業では、数学を活用する事例を通して、数学の基礎概念のいくつかを学ぶ。具体的には、統計を活用する例として、平均や分散と数ベクトルと内積の関連の基礎を学び、また整数を活用する例として、情報化社会に欠かせない暗号理論の基礎を学ぶ。 学生は、数学の基本的技法に加えて応用的方法を学ぶことによって、数学の思考方法を習得し、根拠の確かな判断能力や生活の中で数学を活用する能力を身に付けることを目的とする。	
		芸術と自己表現	人間の最も根源的で洗練された自己表現は、絵画、音楽、演劇、舞踏などの芸術であろう。それらは人間の諸能力のシンプルな表出であると同時に、人間存在の繊細で奥深い次元に根ざすものである。芸術においては、鑑賞するにせよ創作するにせよ、自己と表現との愚直な関係が求められる。 本授業においては、様々な芸術の実際を体験することによって、自己表現の真摯なあり方を知ることを目的とする。	
		スポーツ科学	本授業では、保健体育の意義や、身体の内（ことわり）と自然・生活様式などとの関係についての理解を深めるとともに、これらの活動を通してコミュニケーション能力を高めることを目的とする。	
	4群（世界とつながる）	金沢・能登と世界の地域文化	グローバル化は国家の枠組を超えてローカルな枠組と結びやすく、また現実の国際化は国家総体よりも個々の地域の枠組のなかで進行する。グローバル化に対応するためには、地域とその文化に対する正確な理解は欠かせない。 本授業では、私たちの住む金沢・能登および世界の文化を事例に地域文化の豊かさと変容を学ぶとともに、それらの地域について自ら調査する。 自らの暮らす地域の文化とその世界との結びつきに対する理解を深め、その内容を情報発信するとともに、それらを相対化する視点を得ることを目的とする。	

科目 区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
共通教育科目	GS科目	4群（世界とつながる）	日本史・日本文化	現代社会では、人は必ず国家に帰属することが求められ、海外に出ればその帰属した国家を代表する存在として見られがちである。一方、国家の歴史や文化についての一般的言説には誤りが含まれているものもあり、時としてそれは誤解・トラブルの原因となる。 本授業では、日本の古代から近現代に至る歴史と文化について、各時代ごとの重要トピックを取り上げ、それを「世界の中の日本」という視角で考察することを通じて概観することにより、日本の歴史・文化の特色を理解するのみならず、世界の他地域との差異と共通性を理解する。加えて日本の古代から近現代に至る政治・社会・文化の、変化の特徴と普遍性をどのように捉えたらよいかといった課題に対する理解を深めることを目的とする。	
			異文化間コミュニケーション	グローバル化した社会では、自らの育った文化を知り、その特徴を自覚した上で、自らの特殊性を認め、さらに、自らと異なる文化、人種、民族への理解を深めることが重要である。 本授業では、「①異文化と自文化に関する知識」「②異文化に対する態度」「③コミュニケーション・スキル」の異文化間コミュニケーションで特に重要視される3つの概念についての理解を深める。①の知識については、文化的価値観と非言語行動における異文化と日本文化との類似点と相違点を理解する。②の態度については、偏見や自民族中心主義に陥らないで、異文化に対する寛容で柔軟な姿勢を持つことの重要性について学ぶ。③のスキルについては、傾聴力の必要性について学習する。 偏見・差別をなくし文化的差異を認めることの必要性を認識することによって、他者への深い共感に基づいて異文化を受け入れ、異質な他者と共生する能力を身につけることを目的とする。	
			異文化体験A	異文化理解には異文化の実体験が重要である。しかし体験から何かを学ぶには、事前・事後指導や、体験後の発表等も必要である。 本授業では、海外における短期のボランティア等を通し、異文化の理解を深め、海外での就業・活動経験を積み、外国語運用能力を向上させることを目的とする。 45時間相当の留学を対象とする。	共同
			異文化体験B	異文化理解には異文化の実体験が重要である。しかし体験から何かを学ぶには、事前・事後指導や、体験後の発表等も必要である。 本授業では、海外の語学学校等での短期留学を通し、異文化環境での生活体験を通して、異文化の理解を深め、海外での就業・活動経験を積み、外国語運用能力を向上させることを目的とする。 90時間相当の留学を対象とする。	共同
			異文化体験C	異文化理解には異文化の実体験が重要である。しかし体験から何かを学ぶには、事前・事後指導や、体験後の発表等も必要である。 本授業では、海外の研究機関等での短期留学を通し、異文化環境での生活体験を通して、異文化の理解を深め、海外での就業・活動経験を積み、外国語運用能力を向上させることを目的とする。 135時間相当の留学対象とする。	共同
			異文化体験D	異文化理解には異文化の実体験が重要である。しかし体験から何かを学ぶには、事前・事後指導や、体験後の発表等も必要である。 本授業では、海外の大学等での短期留学を通し、異文化環境での生活体験を通して、異文化の理解を深め、海外での就業・活動経験を積み、外国語運用能力を向上させることを目的とする。 180時間相当の留学対象とする。	共同
			異文化体験E	異文化理解には異文化の実体験が重要である。しかし体験から何かを学ぶには、事前・事後指導や、体験後の発表等も必要である。 本授業では、海外の大学や研究機関、語学学校、NPO・NGO等のボランティア組織、民間企業など、異文化環境での生活体験を通して、異文化の理解を深め、海外での就業・活動経験を積み、外国語運用能力を向上させることを目的とする。 225時間相当の留学対象とする。	共同
			異文化体験F	異文化理解には異文化の実体験が重要である。しかし体験から何かを学ぶには、事前・事後指導や、体験後の発表等も必要である。 本授業では、海外の大学や研究機関、語学学校、NPO・NGO等のボランティア組織、民間企業など、異文化環境での生活体験を通して、異文化の理解を深め、海外での就業・活動経験を積み、外国語運用能力を向上させることを目的とする。 270時間相当の留学対象とする。	共同

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	4群 (世界とつながる)	異文化体験G	異文化理解には異文化の実体験が重要である。しかし体験から何かを学ぶには、事前・事後指導や、体験後の発表等も必要である。 本授業では、海外の大学や研究機関、語学学校、NPO・NGO等のボランティア組織、民間企業など、異文化環境での生活体験を通して、異文化の理解を深め、海外での就業・活動経験を積み、外国語運用能力を向上させることを目的とする。 315時間相当の留学対象とする。	共同
		異文化体験H	異文化理解には異文化の実体験が重要である。しかし体験から何かを学ぶには、事前・事後指導や、体験後の発表等も必要である。 本授業では、海外の大学や研究機関、語学学校、NPO・NGO等のボランティア組織、民間企業など、異文化環境での生活体験を通して、異文化の理解を深め、海外での就業・活動経験を積み、外国語運用能力を向上させることを目的とする。 360時間相当の留学対象とする。	共同
		国際社会とボランティア	ボーダーレス化が進む国際社会では、ボランティアのネットワークも国境を越えて広がる。 本授業では、貧困や紛争、災害など、国際社会が直面する様々なグローバル・イシューの解決に向けて活動を展開する様々な「ボランティア」の形を知り、その独自性や課題に対する理解を深めることにより、日本を含む世界の各地でどのようなボランティアのニーズがあるのか、国際社会・地域社会における共生のためにボランティアに何ができるのか等を、実践例に基づきながら理解することを目的とする。	
		グローバル社会と地域の課題	学生はいま学生として、あるいは将来地域社会を担っていく者として、グローバルな視野に立ちつつ、地域の様々な課題に取り組んでいかなければならない。そこで求められるのは地域の課題を的確に見抜く力であり、他者と協力しながらそれに取り組む力である。 本授業では、グローバル化が進行する現代社会において、どのような地域課題が発生しているのか、どのように解決をしていくべきか、そして自らどのように関わっていくのかを考え、地域社会の現状と課題を総合的に学びながら、地域の課題解決と活性化の理論と実践について理解を深めることを目的とする。	
	5群 (未来の課題に取り組む)	科学技術と科学方法論	人類の未来は、希望も絶望も、科学技術がそのカギを握っている。したがって、科学という「世界の捉え方」、技術という「ものの作り方・使い方」を知らずしては、人類の課題も解決も見えてこない。また、科学は、私達の住む世界を記述・説明する世界共通語のひとつである。この言語を操る能力、すなわち「科学的思考力・科学的表現力」は、私達の自然や社会に対する深い理解をもたらす。 本授業では、科学の方法を構成するコアとなる考え方について、議論や実験など実践的な活動を通して理解し、活用できるスキルを修得することを目的とする。	
		統計学から未来を見る	世界の人口問題とそれに伴う食料や資源、エネルギーの問題、また国内における少子高齢化とそれに伴う医療福祉・教育・労働・経済・産業に関する問題など、私たちを取り巻く現状を数値化して分析し、それに基づいて未来を予測するために、統計学はすべての学問分野において必要とされている。 本授業では、統計データに基づいて現状・将来を分析し、その分析から浮かび上がる諸課題の解決に向けてアイデアを提案できるようになることを目的とする。	
		情報の科学	世の中には多くの情報が溢れている。現状を理解し、今後の展望を見極めるためには、情報に踊らされることなく、正しい情報を見極めて、それを収集し発信していくことが必要である。 本授業では、情報とは何か、情報収集・発信の有効性と危険性、情報のモラル、セキュリティなどを学ぶことによって、情報を制御するために不可欠の知識と能力を習得し、研究や生活・仕事において問題発見・問題解決に役立てる情報の科学の幅広い知識を身につけることを目的とする。	
		環境学とESD	気候変動等、現代社会が直面する地球環境問題の現状を把握するとともに、その解決方法と「持続可能な社会」のあり方及び実現方法を多角的に学ぶ。 本授業では、わが国における公害問題の発生と克服、環境政策の展開について学ぶとともに、近年の地球環境の危機とグローバル・コミュニティの対応、今後取り組むべき対策などを理解することによって、地球環境問題の解決と「持続可能な社会」の実現を達成するために必要な肯定的な未来志向性および環境リテラシー（環境知識、論理的・多面的・総合的思考力、創造的・実践的問題解決能力等）の向上を図ることを目的とする。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	G S 科目	5 群 (未来の課題に取り組む)	生活と社会保障	日本を含む世界の少なからぬ国々は今、人口減少、人口分布の地域的偏在、及び高齢化という局面を迎えながら、社会保障の一層の拡充という困難な課題に直面している。 本授業では、少子・高齢化など人口変動やグローバル化に伴う社会経済の変動のなかで、社会保障が果たす役割と課題について、国民生活の視点から検討することで、世界・日本・地方という複眼的な視点からこの課題を捉えるとともに、社会保障のあゆみ、制度の概要、直面する問題、少子・高齢化のもとでの社会保障の課題について考えるための基礎知識を身につけることで、有効な解決策に向けた議論を展開することを目的とする。	
			人権・ジェンダー論	未来を平和で豊かな持続可能な社会にしていくうえで、人権の思想とジェンダー学の視点は不可欠とされるが、現実の国際社会・日本社会は未だその理想からは遠い状況にある。 本授業では、人権・ジェンダーについての基本的な知識を踏まえつつ、これらの視点から現代社会の問題を分析・考察する。学生は、その理解を通して、未来を構築するうえで必要な視点と問題意識を得ることを目的とする。	
	G S 言語科目 (英語)		TOEIC準備 I	授業は英語で行われる。 TOEICでリスニングセクションで高得点を得るための基本的な聞き取りのテクニックを学び、リスニング能力の向上を図る。 TOEICリスニングパート セクション1, 2, 3 及び4 対応。 様々なタイプのTOEICリスニングパートの問題を授業の中で大量に解いていくトレーニングを通じて、対策と解答テクニックを学び、聞き取り能力だけでなく、語彙力、慣用句の理解力等、文法力等の英語力をつけることを、学習目標とする。	
			TOEIC準備 II	授業は英語で行われる。 TOEICでリスニングセクションで高得点を得るための基本的な英文読解のテクニックを学び、読解能力の向上を図る。 TOEICリーディングパート セクション5, 6, 及び7 対応。 読解力を磨くためのトレーニングを通じて、リーディングパートの対策を学び解答テクニックを身に着けるだけでなく、語彙や慣用句を増やすし、英文読解力をつけることを、学習目標とする。	
			TOEIC準備 III	授業は英語で行われる。 TOEIC準備 I, II で伸ばした「リスニング力」「読解力」「解答テクニック」を生かし、TOEIC L&Rテストに実際に取り組む。 TOEIC準備 I, II で学んだことをさらにブラッシュアップさせ、リスニングとリーディングの力をさらに伸ばし、TOEICハイスコアにつながる対策を学ぶ。特に、集中的なリスニング、穴埋め問題の練習、文法的正確さを獲得し、文章の黙読と音読を実施する。	
			TOEIC準備 IV	授業は英語で行われる。 TOEIC準備 I～IIIを通して伸ばした「リスニング力」「読解力」「解答テクニック」の更なる開発と、それら能力を生かし、TOEIC L&Rテストに実際に取り組む。 TOEIC準備 I～IIIで学んだことをさらにブラッシュアップさせ、リスニングとリーディングの力をさらに伸ばし、TOEICハイスコアにつながる対策を学ぶ。特に、集中的なリスニング、穴埋め問題の練習、文法的正確さを獲得し、文章の黙読と音読を実施。	
			TOEIC準備 (演習)	TOEIC L&Rテストにおけるハイスコア獲得のために必要なリスニング能力、リーディング能力、解答テクニック向上を目指し、実際のテストで実践できる力を育てる。基本的な試験対策と、TOEICハイスコアを獲得するために必要な言語能力を開発する。 様々なタイプのTOEICリスニングパートの問題を授業の中で大量に解いていくトレーニングを通じて、対策と解答テクニックを学び、聞き取り能力だけでなく、語彙力、慣用句の理解力等、文法力等の英語力を身につけることを、学習目標とする。	
			English for Academic Purposes I	このアクティブラーニングコースでは、自分のアイディアを論理的に書いて表現する方法を学ぶ。具体的には、英語で文章を書き、的確な文章構造と構成を学ぶ。 文章の構成要素に焦点を当てることで、文章の形式を考察し、書くための構想を練る。コースの後半では、理由とたとえを用いることに焦点を当て、洗練された文章を作ることを、学習目標とする。	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
GS言語科目（英語） 共通教育科目	English for Academic Purposes II	授業は英語で行われる。 このアクティブラーニングコースでは、プレゼンテーションの計画、実施、評価を学習することで、人前で話す際に必要な自信を育てる。 学生に英語で全クラスメイトの前で発表する機会を十分に与え、口頭でのコミュニケーション及び非言語コミュニケーションの両方を学ぶことにより、英語での発表能力を向上させる。 有益なプレゼンテーションを計画し発表する能力の開発やプレゼンテーションのカギとなる技術に気付き、評価することができるようになるほか、批判的思考を獲得する。	
	English for Academic Purposes III	授業は英語で行われる。 このアクティブラーニングコースでは、EAP IとEAP IIで学んだスキルを統合し、その統合したスキルを用いて学術的課題や現代の社会問題の分析する。 このコースは主にサマリーライティング（要約文章の作成）と、授業内で読んだ教材に対して分析的な反応に焦点を当てる。 学術論文の正確な要約ができる能力 評価分析、対照分析または相対分析等の分析手法を学ぶことで、分析的な視点を培う。 ディスカッションの質問に対し口頭で答えることで、コミュニケーションにおける相互作用的な能力を伸ばす。	
	English for Academic Purposes IV	授業は英語で行われる。 このアクティブラーニングコースでは、先のEAPの授業で学んだ能力・技術用いながらさらに発展させ、学術的テーマか現代社会の課題について小論文を書く。 与えられたトピック、要約された様々な意見について、批判的立場で議論を交わし、系統立てて自分の意見を表現する。 与えられたトピックについて、論文や要約及び口頭で、詳しい見解を述べるようになる。 書かれている文章の内容のみならず、根底にある関心や視点に目を向けるようにする。 アカデミックな環境で英語を使えるようにすることが期待される。	
	English for Academic Purposes (Retake)	授業は英語で行われる。 このアクティブラーニングコースでは、学術的な文章を読む練習と、グループディスカッションや発表という形で、学術文書への対処の仕方を学ぶ。 学術論文を読むことに重点を置き、より難しい論文に取り組んでもらう。グループワークで論文の内容を把握し、ディスカッションをする。題材を探求するための基礎として論文を使い、発表をする。その中で、リスニング・スピーキング能力を伸ばし、自信を得ることが期待され、リサーチ能力を伸ばし、学術的語彙の知識を増やすことを求める。	
	アカデミック基礎日本語A	外国人留学生在が、日本の大学での学習や研究に必要な日本語力（アカデミック日本語）を獲得するため、ノートの取り方や情報検索等、複合的な能力を養成することを目的とする。	
	アカデミック基礎日本語B	外国人留学生在が、日本の大学での学習や研究に必要な日本語力（アカデミック日本語）を獲得するため、論理的な内容の読解を中心に、レジュメの作成やプレゼンテーションなど、さらに高度で複合的な能力を養成することを目的とする。	
	講義の聴解A	大学の講義を日本語で聞き取り可能な聴解ストラテジーを習得するとともに、今まで身につけてきた知識を活性化させて大学での研究・学習生活に支障のない聴解能力を養うことを目的とする。	
	講義の聴解B	「講義の聴解A」に引き続き行うことで、大学の講義を日本語で聞き取り可能な聴解ストラテジーをさらに高いレベルで習得するとともに、今まで身につけてきた知識を活性化させて大学での研究・学習生活に支障のない聴解能力を養うことを目的とする。	
	口頭発表I A	本授業では、留学生に向け、日常で使用する可能性のある内容について、実際に自分でスピーチを用意し、発表した後、その内容について共に討議することにより、様々な日本語でのスピーチについてその特徴や作成上のポイントの理解を深めることを目的とする。	
	口頭発表I B	本授業では、留学生に向け、大学での発表に関する内容等について、実際に自分でスピーチを用意し、発表した後、その内容について共に討議する。「口頭発表I A」からさらにアカデミックなスピーチ内容を検討することで、様々な日本語でのスピーチについてその特徴や作成上のポイントを共に討議しさらに理解を深めることを目的とする。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	G S 言語科目 (日本語)	口頭発表Ⅱ A	本授業では、社会科学系のテーマを題材に、課題設定、先行研究、調査、分析・考察、まとめまでの一通りの流れで自分自身の目指す口頭発表ができるように指導をおこなうことにより、口頭発表のために必要な日本語の基本表現や自然な発音についての知識を得ることを目的とする。	
		口頭発表Ⅱ B	本授業では、社会科学系のテーマを題材に、課題設定、先行研究、調査、分析・考察、まとめまでの一通りの流れで自分自身の目指す口頭発表ができるように指導をおこなうことにより、口頭発表のために必要な日本語の基本表現や自然な発音についての知識を得た上で、自分自身の関心のあるテーマについてPPTを使って10分程度の口頭発表が行えるようになることを目的とする。	
		上級読解Ⅰ A	本授業では、日本語で書かれた一般書や専門図書を読み、自分の考えや意見をまとめて口頭および文章で表現することにより、専門性の高い文章を精読し、考察を深めるとともに、読んだ内容について、わかりやすく説明できるようになることを目的とする。	
		上級読解Ⅰ B	本授業では、日本語で書かれた一般書や専門図書を読み、自分の考えや意見をまとめて口頭および文章で表現することにより、専門性の高い文章を精読し、考察を深めるとともに、読んだ内容について、説明できるのみならず、自分の考えや意見を述べたり、他の人の考えや意見を理解する等、アカデミックな場面に必要な能力を高めることを目的とする。	
		上級読解Ⅱ A	本授業では、日本語テストFクラスの学生に向け、日本語で書かれた一般書や専門図書を読み、自分の考えや意見をまとめて口頭および文章で表現することにより、読んだ内容について、自分の考えや意見を述べたり、他の人の考えや意見を理解することを目的とする。	
		上級読解Ⅱ B	本授業では、日本語テストFクラスの学生に向け、日本語で書かれた一般書や専門図書を読み、自分の考えや意見をまとめて口頭および文章で表現することにより、専門性の高い文章を精読し、考察を深め、読んだ内容について、自分の考えや意見を述べたり、他の人の考えや意見を理解したする等、アカデミックな場面に必要な能力を高めることを目的とする。	
		日本語で学ぶ論理 A	本授業では、留学生を対象に、論理的な文章の組み立て方である、論証と演繹の練習を日本語の文章を通じて行う。そして、実際に日本語で書かれた文章の読解を行いながら、論理の展開と構成について学ぶことにより、論理トレーニング（論証と演繹）を通じて、日本の大学での学習や研究に必要な論理的思考力を日本語で修得することを目的とする。	
		日本語で学ぶ論理 B	本授業では、留学生を対象に、論理的な文章の組み立て方である、論証と演繹の練習を日本語の文章を通じて行う。「日本語で学ぶ論理A」の内容を発展させ、否定、条件構造、推論の技術（存在文の扱い方、消去法、背理法）について学び、最後に形式論理学の基礎についても学ぶことにより、日本の大学での学習や研究に必要な論理的思考力をさらに高度なレベルで日本語で修得することを目的とする。	
		日本事情 A	本授業では、留学生を対象に、日本人が常識として持っている様々な日本に関する基礎知識を歴史や地理等を通して学び、それによって日本語読解能力の向上を図ることで、日本の様々な面についての知識を増やし、さらに主体的に、かつ積極的に知識を求めようとする姿勢を養うことを目的とする。	
		日本事情 B	本授業では、留学生を対象に、日本人が常識として持っている様々な日本に関する基礎知識を宗教や文化、季節感等特に日本人の内面を形成している部分を通して学び、それによって日本語読解能力の向上を図ることで、日本の様々な面についての知識をより深め、さらに主体的に、かつ積極的に知識を求めようとする姿勢を養うことを目的とする。	
		アカデミック・ライティング A	日本の大学や大学院で専門教育を受ける留学生は、レポートや論文など、書く能力、いわゆる「アカデミック・ライティング」に関する能力が求められる。 本授業では、留学生を対象に、レポート作成にかかる適切な資料の引用方法や、図表の説明の仕方を学び、自分の興味関心に従ってレポートを作成することで、資料探索や、図表の適切な説明方法とともに、レポートの基本的な表現と構成を身に付けることを目的とする。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	G S 言語科目 (日)	アカデミック・ライティング B	日本の大学や大学院で専門教育を受ける留学生は、レポートや論文など、書く能力、いわゆる「アカデミック・ライティング」に関する能力が求められる。 本授業では、留学生を対象に、資料等に対し考察や分析を述べたり、よ要約を書くことにより、文章の主となる部分を見つけ出す力を身に付けるとともに、文章を適切に引用し、考えと理由をレポートとして論理的に書けることを目的とする。	
	基礎科目	微分積分学Ⅰ A	本授業では、微分積分の基礎から学び、例題を通してその理解を深める。求積法や多変数関数の微分法などいくつかの基本的な方程式を学ぶ。 これらを通し偏微分や全微分の概念を理解し、合成関数の微分や多変数関数の極値等の基本的な計算ができるようになる。重積分および変数変換公式について理解し、基本的な積分計算や面積・体積の計算ができるようになることを目的とする。	
		微分積分学Ⅰ B	本授業では、微分積分の基礎から学び、例題を通してその理解を深める。グリーン定理やガウスの発散公式等さらに高度な方程式を学ぶ。 これらを通し偏微分や全微分の概念を理解し、合成関数の微分や多変数関数の極値等の基本的な計算ができるようになる。重積分および変数変換公式について理解し、基本的な積分計算や面積・体積の計算ができるようになることを目的とする。	
		微分積分学Ⅱ A	本授業では、多変数関数の微積分を解説する。偏微分や重積分の概念を理解し、それを用いて合成関数の微分公式や陰関数定理・逆関数定理、極値問題などを学ぶ。 偏微分や全微分の概念を理解し、合成関数の微分や多変数関数の極値等の基本的な計算ができることを目的とする。	
		微分積分学Ⅱ B	本授業では、多変数関数の微積分を解説する。偏微分や重積分の概念を理解し、それを用いて合成関数の微分公式や陰関数定理・逆関数定理、極値問題などを学ぶ。 重積分および変数変換公式について理解し、基本的な積分計算や面積・体積の計算ができることを目的とする。	
		線形代数学Ⅰ A	線形代数学は複雑な自然現象を数学的に理解したり、多数の情報を同時に扱うための手段として大きな役割を果たしている。 本授業では、行列とベクトルの基本概念の理解から始める。次に行列の計算と連立1次方程式を解く方法を学ぶ。 線形代数学に対する理解を深めることを目的とする。	
		線形代数学Ⅰ B	連立1次方程式で表される関係は、日常生活から高度の学問的議論の対象に至るまで、現象を数理的にとらえようとする時、最も基本的なものとして普遍的に現れる。 連立1次方程式がいつ解けるのか、そのために必要な階数や行列式や逆行列について学ぶ。 線形代数学に対する理解をさらに深めることを目的とする。	
		線形代数学Ⅱ A	本授業では、線形代数学Ⅰの授業を受けて、連立1次方程式で表される関係のより深い数学的構造を探究する。 鍵となるのは行列の固有値と固有ベクトルの概念である。固有値と固有ベクトルは物理や経済など多くの分野に現れる概念で、ここでの学習は応用上も重要である。それらの実用的な概念を線型性、計量、同型といった数学の基本概念、およびそこから派生する概念によって整理し、それらの準備のもとに対角化条件および正規行列、実対称行列の対角化定理を導く。 ベクトルの学びを中心に論理的な思考法を涵養することを目的とする。	
		線形代数学Ⅱ B	本授業では、線形代数学Ⅰの授業を受けて、連立1次方程式で表される関係のより深い数学的構造を探究する。 鍵となるのは行列の固有値と固有ベクトルの概念である。固有値と固有ベクトルは物理や経済など多くの分野に現れる概念で、ここでの学習は応用上も重要である。それらの実用的な概念を線型性、計量、同型といった数学の基本概念、およびそこから派生する概念によって整理し、それらの準備のもとに対角化条件および正規行列、実対称行列の対角化定理を導く。 ベクトルや行列を発展させた学びにより、具体的な計算方法の習熟や論理的な思考法を涵養することを目的とする。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	基礎科目	統計数学A	実験・観察を通じてデータを採集し、そのデータから導き出された法則性に対する理論の体系が統計学である。統計の方法は、自然科学、人文社会科学のあらゆる分野に浸透し、この方法を理解し応用する能力は社会の多くの分野で必要とされている。 本授業では、統計学の基本的部分である確率分布や正規分布、母平均などの理論を講義することで、統計の考え方を理解し、統計的方法を修得することを目的とする。	
		統計数学B	実験・観察を通じてデータを採集し、そのデータから導き出された法則性に対する理論の体系が統計学である。統計的方法は、自然科学、人文社会科学のあらゆる分野に浸透し、この方法を理解し応用する能力は社会の多くの分野で必要とされている。 本授業では、統計学のカイ二乗検定や多重比較の方法を講義することで、統計の実践的スキルや発展的な統計的方法を修得することを目的とする。	
		物理学実験	物理学の歴史は実験によって切り開かれ、どのような理論も実験による検証が必要とされる。またその成果は技術として応用され、その技術が諸科学の新たな領域を提出している。このように実験が重要な役割を果たしていながら、高校までの学習では十分な機会がなかったと言える。本実験では主要な物理現象からテーマを選び、必要な測定方法を組み合わせて構成される代表的種目を半年のコースとして編成してある。各種測定機器の原理と取り扱い、データ処理の方法や結果のまとめ方などを学習し、その中で多様な現象を経験し物理学の法則の理解を深めることを目的とする。	
		物理学ⅠA	高校までの理科教育は多様化が強調され、入学時の知識や学力において格差が生じている。他方、大学で学ぶためには一定水準以上の学力が必要である。 本授業では、ニュートンの運動の法則や運動量の保存等古典力学的現象について学ぶことにより、それらの現象を支配している法則に関する知見を修得することを目的とする。	
		物理学ⅠB	高校までの理科教育は多様化が強調され、入学時の知識や学力において格差が生じている。他方、大学で学ぶためには一定水準以上の学力が必要である。 本授業では、空間とベクトルや力学的エネルギーの保存等について学ぶことで、ベクトルや微分・積分などの数学的手法を用いて現象を記述・解析する手法を修得することを目的とする。	
		化学実験	化学は物質の性質や変化の過程を明らかにする学問分野である。物質に直に触れ、その反応を直接観察することによって、物質の性質とその変化について教科書より得た知識を確認することができる。実験結果を論理的に考察し、整理することによって化学の原理を学ぶことができ、さらに、自然界で起こる現象の理解に結びつけることができる。この授業では、先人がこれまで築き上げてきた著名な実験を実施することにより、化学実験を通してこれまで教科書等を使って学習してきた化学の理論や法則を理解することや化学実験に関する基本操作や手法を理解し体得することを目的とする。さらに、実験データの整理・解析し論理的な考察をもとにレポートの書く方法を習得する。	
		化学ⅠA	本授業では、初めて化学を学ぶ学生を対象として書かれた米国のテキストを教材として用い、身のまわりの物質がもつさまざまな性質を化学的視点から理解するために必要となる基本的なものの見方、考え方を学習する。 気体や分子といった身近なものを題材に化学に対する興味を深めながら、化学的なものの見方、考え方を習得することを目的とする。	
		化学ⅠB	本授業では、初めて化学を学ぶ学生を対象として書かれた米国のテキストを教材として用い、身のまわりの物質がもつさまざまな性質を化学的視点から理解するために必要となる基本的なものの見方、考え方を学習する。 化学結合やエントロピーといった発展的な原理を題材に化学に対する興味を深めながら、化学的なものの見方、考え方を習得することを目的とする。	
		化学ⅡA	本授業では、初めて化学を学ぶ学生を対象として書かれた米国のテキストを教材として用い、身のまわりの物質がもつさまざまな性質を化学的視点から理解するために必要となる基本的なものの見方、考え方を学習する。 化学Ⅰで学習した物質の構造や性質を化学的視点から理解するために必要となる基本的なものの見方をもとに、本授業では、平衡、動力学等を学ぶとともに、新素材、生体物質、測定法などの最新の基礎知識も修得することで将来どの専門に進んでも対処できる化学の知識と学力を獲得することを目的とする。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	基礎科目	化学ⅡB	本授業では、初めて化学を学ぶ学生を対象として書かれた米国のテキストを教材として用い、身のまわりの物質がもつさまざまな性質を化学的視点から理解するために必要となる基本的なものの見方、考え方を学習する。 化学Iで学習した物質の構造や性質を化学的視点から理解するために必要となる基本的なものの見方をもとに、本授業で典型元素や核化学等の知識を修得することで将来どの専門に進んでも対処できる化学の知識と学力を獲得することを目的とする。	
	初習言語科目	ドイツ語A1-1	文法を中心としてドイツ語の基礎を学ぶ。 文法に対応した練習問題のほかに、会話文のリスニング、少し長い文章のリーディングをペアワークやグループワークのなかで取り入れ、色々な練習を通じてドイツ語の文や表現に触れることで、ドイツ語初級文法の基本的な枠組みを理解し、平易な文を読んだり書いたりできることを学習目標とする。	
		ドイツ語A1-2	本授業では、ドイツ語の初歩的な文法を学んでいく。ドイツ語の文法は、英文法に多くの点で類似しているため、英語の知識が活用できるような方式で授業を進めていく。 最終的には、ドイツ語の基礎単語の発音ができ、辞書があれば、ドイツ語で書かれた簡単な新聞や雑誌の文章が読める程度のミニマルな文法知識を習得することを目指す。	
		ドイツ語A2-1	初級文法の授業で学んでいる知識を応用して、現実的な場面で使えるドイツ語会話の基本的な表現を身につける。日常でよく使われる表現を中心に構成されたテキストを用いながら、比較的少数の語彙・文法的知識を駆使して簡単な会話をこなしていくテクニックを身につけていく。あまり細かい規則に拘らずに、取り敢えずドイツ語で“何が”言えるための実用的な表現法を紹介する。 基本的な語彙の範囲内であれば、ゆっくり話される内容を聞き取ることができ、ドイツ語圏に出かけた時に、駅、銀行、食堂、百貨店などで最低限の会話ができるようになることを目指す。 授業で取り上げる内容は下記の通り。 ドイツ語のアルファベットと発音、基本構文、自己紹介	
		ドイツ語A2-2	初級文法の授業で学んでいる知識を応用して、現実的な場面で使えるドイツ語会話の基本的な表現を身につける。日常でよく使われる表現を中心に構成されたテキストを用いながら、比較的少数の語彙・文法的知識を駆使して簡単な会話をこなしていくテクニックを身につけていく。あまり細かい規則に拘らずに、取り敢えずドイツ語で“何が”言えるための実用的な表現法を紹介する。 基本的な語彙の範囲内であれば、ゆっくり話される内容を聞き取ることができ、ドイツ語圏に出かけた時に、駅、銀行、食堂、百貨店などで最低限の会話ができるようになることを目指す。 本授業で取り上げる内容は下記の通り。 趣味関する表現、将来の目標に関する表現（人称変化、前置詞等）	
		ドイツ語A3-1	ドイツ語初級文法の最初舗段階の修得を目指す。 ドイツ語の発音規則を理解し、単語を正しく発音でき、かつドイツ語初級文法の枠組みを理解し、やや複雑な文を読んだり書いたりできることを学習目標とする。 本授業では、主に以下の内容を学習する。 自己紹介、趣味について（動詞の現在人称変化と語順）／生ツの描写・持ち物について（名詞の性と格変化等）／動詞の活用・格変化／曜日・時間・年齢の表現（前置詞、再帰代名詞、再帰動詞等）／用事・希望・過去のことを話す（過去形、現在完了形、zu不定詞等）	
		ドイツ語A3-2	ドイツ語の発音規則を理解し、単語を正しく発音でき、かつドイツ語初級文法の枠組みを理解し、やや複雑な文を読んだり書いたりできることを学習目標とする。 本授業では、主に以下の内容を学習する。 好みについて話す（形容詞の格変化、比較級、最上級）／部屋にある物について話す（関係代名詞、命令形）／仮定の話を（接続法）等	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 教育 科目	ドイツ語A 4－1	本授業では、発音にはじまり、日常生活の場面で用いる会話表現を学ぶ。ドイツ語の決まり文句、日常表現や旅行で使える会話表現を習得しながら、映像や音声教材を通して、英語圏とは異なるドイツ文化圏の違いを知り、視野を広げる。 主に、趣味、家族、職業、自分のできる事できない事等、自分の身の回りのことを表現することについて学習する。 ペア、グループ、クラスなどさまざまな作業形態で、ドイツ語の話す、聞く、読む、書く能力をバランスよく養成し、ドイツ語の基本語彙や表現を用いて口頭で表現できるようになり、基本語彙の範囲内であれば聞き取れるようになることを学習目標とする。	
	ドイツ語A 4－2	本授業では、発音にはじまり、日常生活の場面で用いる会話表現を学ぶ。ドイツ語の決まり文句、日常表現や旅行で使える会話表現を習得しながら、映像や音声教材を通して、英語圏とは異なるドイツ文化圏の違いを知り、視野を広げる。 主に、買い物での場面、欲しいものの表現、気持ちの表現、指示・依頼の表現等、自分の考えを伝える表現について学習する。 ペア、グループ、クラスなどさまざまな作業形態で、ドイツ語の話す、聞く、読む、書く能力をバランスよく養成し、ドイツ語の基本語彙や表現を用いて口頭で表現できるようになり、基本語彙の範囲内であれば聞き取れるようになることを学習目標とする。	
	ドイツ語B－1	ドイツ語の短いテキストを精読しながら、初級文法をしっかりと身につけ、日常生活で使えるドイツ語運用能力を身につける。 主に、挨拶について、バス・駅・鉄道、地図、レストラン、買い物、ホテルなど日常生活や旅行に役立つ表現を学習する。 具体的な学修目標は、以下のとおり。 ・会話で自己紹介をしたり、質問に答えたりすることができる。 ・辞書を用いて平易なドイツ語の文章を読むことができる。 ・日常生活の場面での簡単な質問や指示、話、アナウンスや短い会話を理解できる。	
	ドイツ語B－2	ドイツ語の短いテキストを精読しながら、初級文法をしっかりと身につけ、日常生活で使えるドイツ語運用能力を身につける。 主に、ドイツ語圏に関する文章を読み、旅行計画を立て、プレゼンとディスカッションを実施する。 具体的な学修目標は、以下のとおり。 ・短い広告などから、自分にとって大切な情報を取り出せる。 ・簡単なものであれば、所定の用紙に記入することができる。 ・短い個人的な文章を書くことができる。	
	ドイツ語C－1	既に持っているドイツ語の知識を、さらに発展させていく。 授業は主にオーラルコミュニケーションと、語彙の学習、リーディングとリスニングをします。併せて、日本とドイツの文化について説明する。 ディスカッション、グループワーク、ロールプレイ、個人ワーク、プレゼンテーションなどを通して、日常的なコミュニケーションを簡単なドイツ語でできることを目標とする。	
	ドイツ語C－2	既に持っているドイツ語の知識を、さらに発展させていく。 授業は主にオーラルコミュニケーションと、語彙の学習、リーディングとリスニングをします。併せて、日本とドイツの文化について説明する。 街での案内や過去の出来事等について、ドイツ語を使用したコミュニケーションを学ぶことで、ドイツ語圏の文化に関心を持ち、ドイツ語のコミュニケーション能力を養成することを目的とする。	
	フランス語A 1－1	フランス語は国際的コミュニケーション言語として重要な存在である。国連の作業語が英語とフランス語の二つだけであることから分かる通り、多くの場で重要性をもっている。また元々が英語の姉妹のような言葉であるため、フランス語の学習は英語のしっかりした理解にも役立つ。 このような言葉であるフランス語の基礎を固めることが、この科目の目標である。 国際的コミュニケーションのためのフランス語の基礎知識、初級文法、発音のルール、初歩的な語彙を使用した作文を学ぶ。将来のフランス語検定試験（仏検）や留学時に必要なDELFDALF（フランス国民教育省・フランス語資格試験）の受験にスムーズに繋がるようなやり方で学習する。 主に、発音、綴り字と音声の対応、er動詞、etre, avoir、数字、名詞のジェンダー等基本的な文法事項を学ぶ。	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 教育 科目	初 習 言 語 科 目	フランス語A 1－2	フランス語は国際的コミュニケーション言語として重要な存在である。国連の作業語が英語とフランス語の二つだけであることから分かる通り、多くの場で重要性をもっている。また元々が英語の姉妹のような言葉であるため、フランス語の学習は英語のしっかりした理解にも役立つ。ヨーロッパ文化の一番面白いところを正確に理解し、楽しむためにもフランス語は有益なツールとなるだろう。 このような言葉であるフランス語の基礎を固めることが、この科目の目標である。 国際的コミュニケーションのためのフランス語の基礎知識、初級文法、発音のルール、初歩的な語彙を使用した作文を学ぶ。将来のフランス語検定試験（仏検）や留学時に必要なDELFI/DALF（フランス国民教育省・フランス語資格試験）の受験にスムーズに繋がるようなやり方で学習する。 主に、ir動詞、動詞の活用、過去分詞、指示代名詞、単純未来等の文法事項を学ぶ。
		フランス語A 2－1	初歩的なコミュニケーションに必要な、文法項目、語彙表現などを導入し、豊富な練習を通して初歩的なコミュニケーション能力の養成を目指す。授業は、コミュニケーションパターンを身につけるため、ペア、グループによる会話練習や、聞き取りの練習を中心に学習する。 主に、名前を言う・尋ねる・綴りを言う、職業・身分・国籍について、家族について、年齢の言い方、好みについて等、自分の事を話し、相手について尋ねる方法を学ぶ。 具体的な学修目標は、以下のとおり。 ・フランス語の発音ルールを身につけ、文字を見て発音できる。 ・基本語彙、基本表現及び文法を学習し応用することで、フランス語で身近な話題について会話ができる力を養う。
		フランス語A 2－2	初歩的なコミュニケーションに必要な、文法項目、語彙表現などを導入し、豊富な練習を通して初歩的なコミュニケーション能力の養成を目指す。授業は、コミュニケーションパターンを身につけるため、ペア、グループによる会話練習や、聞き取りの練習を中心に学習する。 主に、用紙や服装について、交通手段について、時刻や値段的な尋ね方、食習慣について等、コミュニケーションをとるために必要な表現を学ぶ。 具体的な学修目標は、以下のとおり。 ・授業で学んだ初歩的な語彙の範囲であれば、ゆっくり、はっきりと話された内容を聞き取ることができる。 ・フランスとフランス語圏について紹介する。
		フランス語A 3－1	フランス語は国際的コミュニケーション言語として重要な存在である。国連の作業語が英語とフランス語の二つだけであることから分かる通り、多くの場で重要性をもっている。また元々が英語の姉妹のような言葉であるため、フランス語の学習は英語のしっかりした理解にも役立つ。 このような言葉であるフランス語の基礎を固めることが、この科目の目標である。 国際的コミュニケーションのためのフランス語の基礎知識、初級文法、発音のルール、初歩的な語彙を使用した作文を学ぶ。将来のフランス語検定試験（仏検）や留学時に必要なDELFI/DALF（フランス国民教育省・フランス語資格試験）の受験にスムーズに繋がるようなやり方で学習する。 主に、代名動詞、動詞の活用、強調構文、非人称構文、疑問形容詞、半過去、大過去等の文法事項を習得する。
		フランス語A 3－2	フランス語は国際的コミュニケーション言語として重要な存在である。国連の作業語が英語とフランス語の二つだけであることから分かる通り、多くの場で重要性をもっている。また元々が英語の姉妹のような言葉であるため、フランス語の学習は英語のしっかりした理解にも役立つ。 このような言葉であるフランス語の基礎を固めることが、この科目の目標である。 国際的コミュニケーションのためのフランス語の基礎知識、初級文法、発音のルール、初歩的な語彙を使用した作文を学ぶ。将来のフランス語検定試験（仏検）や留学時に必要なDELFI/DALF（フランス国民教育省・フランス語資格試験）の受験にスムーズに繋がるようなやり方で学習する。 主に、指示代名詞、関係代名詞、現在分詞、比較級・最上級、条件法、接続法等の文法事項を習得する。

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 教育 科目	初習言語科目	フランス語A 4-1 基本的なコミュニケーションに必要な、文法項目、語彙表現などを導入し、豊富な練習を通して初歩的なコミュニケーション能力の養成を目指す。授業は、コミュニケーションパターンを身につけるため、ペア、グループによる会話練習や、聞き取りの練習を中心に進める。 本授業では主に、習慣、日常の活動について、過去のこと・過去の習慣についてトピックを立て、学習する。	
		フランス語A 4-2 基本的なコミュニケーションに必要な、文法項目、語彙表現などを導入し、豊富な練習を通して初歩的なコミュニケーション能力の養成を目指す。授業は、コミュニケーションパターンを身につけるため、ペア、グループによる会話練習や、聞き取りの練習を中心に進める。 本授業では主に、許可や禁止について、未来について、願望、比較、条件・仮定についてトピックを立て、学習する。	
		フランス語B-1 フランス語による国際コミュニケーションの実践への導入。フランス語による少し高度な日常的表現に挑戦する。 本授業では、満潮時のみ島になるモン・サン・ミッシェルに関する論説文や、「よつば」などの日本の漫画のフランス語訳をとりあげ、初級文法を復習しながら、相手の言いたいことを的確に理解し、自分の言いたいことを的確に表現する自然なフランス語が基本的にどのようなものか体得することを目指す。	
		フランス語B-2 フランス語による国際コミュニケーションの実践への導入。フランス語による少し高度な日常的表現に挑戦する。 本授業では、エッフェル塔やルーブル美術館について書かれた平易な論説文などをとりあげ、フランス語話者の書いていることの真意が実感をもって分かること、こちらからフランス語話者へ効果的に意思を通じさせられるような書き方(話し方)を身につける。	
		フランス語C-1 フランス語による国際コミュニケーションの実践への導入。フランス語による少し高度な日常的表現に挑戦する。 本授業では、ラグビーにおける国籍や観光地におけるフランス等の論説文などをとりあげ、ネットを使わなくても、ある程度の難易度を持ったフランス語の文章を読み聞きし、理解できるようにすること。フランス語話者とコミュニケーションし、ガイドできることを目指す。また、フランス語と英語の知識を結び付け、両言語でのレベルアップを目指す。 将来のフランス語検定試験(仏検)やフランス語圏(フランス、カナダ等)留学時に必要なDELTA/DALF(フランス国民教育省・フランス語資格試験)の受験にスムーズに繋がるようなやり方で学習する。	
		フランス語C-2 総合的なフランス語力の一応の完成を目指す。フランス語でEメールを書き、ホットなラジオ・ニュースを聞き、論説文を読み、必要な文法知識の完成を目標とする。 フランス語による国際的コミュニケーション力を磨くため、また大学卒業後も少しずつフランス語力を自力で高めるようにするための体制を整えていく。フランス語と英語の知識が有機的に結びつき、両方のレベルが向上することを目指す。フランス語圏での勉強、仕事に必要なDELTA/DALFの上の級に合格する態勢についても考える。 具体的な学修目標は、以下のとおり。 ・読む、書く、聞く能力を伸ばし、話された言葉、書かれたテキストからできるだけ情報がとれるノウハウを体得する。 ・フランス語の基礎知識をしっかりと固め、生涯のスパンでのフランス語学習の展望を得る ・国際的コミュニケーションの言葉としてのフランス語の広がりを知る。 ・フランス語の知識と英語の知識を有機的に結びつけて、両方のレベルを向上させる。	
		ロシア語A 1-1 ロシア語ネイティブの先生が担当するA2-1の授業と連携し、本授業ではロシア語初級文法と、ロシア文化についての知識の習得を目指す。映像や音楽などを通してロシア文化に触れる機会も、多くつくりたいと考える。 具体的な学修目標は、以下のとおり。 ・キリル文字を見て発音することができる。 ・最も基本的な語彙・表現の範囲内であれば、書かれたロシア語を解釈できる。 ・最も基本的な語彙・表現の範囲内であれば、ロシア語で文を作ることができる。 本授業では、ロシア語のアルファベットと発音、文法性、ロシア人の名前、簡単な現在形の肯定・否定・疑問文、形容詞、副詞、人称代名詞等、基礎的な知識や文法事項を学ぶ。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	初習言語科目	ロシア語A 1－2	ロシア語ネイティブの先生が担当するA2-1の授業と連携し、本授業ではロシア語初級文法と、ロシア文化についての知識の習得を目指す。映像や音楽などを通してロシア文化に触れる機会も、多くつくりたいと考える。 具体的な学修目標は、以下のとおり。 ・キリル文字を見て発音することができる。 ・最も基本的な語彙・表現の範囲内であれば、書かれたロシア語を解釈できる。 ・最も基本的な語彙・表現の範囲内であれば、ロシア語で文を作ることができる。 本授業では、名詞の複数形、現在形の動詞の人称変化、重要な不規則動詞、方向の表現、数字等、基礎的な文法事項を学ぶ。	
		ロシア語A 2－1	ペアワークやロールプレイなど、インターアクティブな練習を繰り返し、基礎的な文法事項（ロシア語A1-1で学ぶ文法項目）を使った短い会話文を利用し、日常生活のなかで出会う表現を学ぶ。 具体的な学修目標は、以下のとおり。 ・ロシア語を発音することができる。 ・日常会話でよく使われる初級ロシア語の表現や言い回しを理解し、使えるようにする。 本授業では、ロシア語の発音とアルファベット、挨拶、自己紹介、「これは何/誰ですか」「誰のものですか」等基本的な知識と表現を学ぶ。	
		ロシア語A 2－2	ペアワークやロールプレイなど、インターアクティブな練習を繰り返し、基礎的な文法事項（ロシア語A1-1で学ぶ文法項目）を使った短い会話文を利用し、日常生活のなかで出会う表現を学ぶ。 具体的な学修目標は、以下のとおり。 ・以下のようなテーマに関し、教師やクラスメートと基本的なロシア語会話が出来る。「あいさつと自己紹介」「物や人の場所を聞く／言う」「私の家族」 ・英語以外の外国語に触れることによって、視野を広げる。 本授業では、位置・場所の表現、時間についての表現、好みや能力の表現等基本的な会話表現を学ぶ。	
		ロシア語A 3－1	ロシア語ネイティブの先生が担当するA4-1の授業と連携し、本授業ではロシア語初級文法と、ロシア文化についての知識の習得を目指す。映像や音楽などを通してロシア文化に触れる機会も、多くつくりたいと考えている。 具体的な学修目標は、以下のとおり。 ・キリル文字を見て発音することができる。 ・最も基本的な語彙・表現の範囲内であれば、書かれたロシア語を解釈できる。 ・最も基本的な語彙・表現の範囲内であれば、ロシア語で文を作ることができる。 本授業では、下記の文法事項を学ぶ。 名詞、人称代名詞の単数・複数、命令形、重要な不規則動詞、形容詞・名詞・代名詞の格変化、順序数詞等	
		ロシア語A 3－2	ロシア語ネイティブの先生が担当するA4-1の授業と連携し、本授業ではロシア語初級文法と、ロシア文化についての知識の習得を目指す。映像や音楽などを通してロシア文化に触れる機会も、多くつくりたいと考えている。 具体的な学修目標は、以下のとおり。 ・キリル文字を見て発音することができる。 ・最も基本的な語彙・表現の範囲内であれば、書かれたロシア語を解釈できる。 ・最も基本的な語彙・表現の範囲内であれば、ロシア語で文を作ることができる。 本授業では、下記の文法事項を学ぶ。 重要な不規則動詞、再帰動詞、移動の動詞、時間表現、比較級・最上級、無人称文等	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 教育 科目	ロシア語A 4－1	ペアワークやロールプレイなど、インターアクティブな練習を繰り返し、基礎的な文法事項（ロシア語A1-1で学ぶ文法項目）を使った短い会話文を利用し、日常生活のなかで出会う表現を学んでいく。 具体的な学修目標は、以下のとおり。 ・ロシア語を発音することができる。 ・日常会話でよく使われる初級ロシア語の表現や言い回しを理解し、使えるようにする。 ・以下のようなテーマに関し、教師やクラスメートと基本的なロシア語会話ができる。「あいさつと自己紹介」「物や人の場所を聞く／言う」「私の家族」 ・英語以外の外国語に触れることによって、視野を広げる。 本授業では、以下のような表現を学ぶ。 金額を尋ねる、数字、好き嫌いについて、色の表現、所有物について等	
		ペアワークやロールプレイなど、インターアクティブな練習を繰り返し、基礎的な文法事項（ロシア語A1-1で学ぶ文法項目）を使った短い会話文を利用し、日常生活のなかで出会う表現を学んでいく。 具体的な学修目標は、以下のとおり。 ・ロシア語を発音することができる。 ・日常会話でよく使われる初級ロシア語の表現や言い回しを理解し、使えるようにする。 ・以下のようなテーマに関し、教師やクラスメートと基本的なロシア語会話ができる。「あいさつと自己紹介」「物や人の場所を聞く／言う」「私の家族」 ・英語以外の外国語に触れることによって、視野を広げる。 本授業では、以下のような表現を学ぶ。 好き嫌いについて、方向・道案内、交通手段、天気や行動について過去形、未来形を用いた表現等	
	ロシア語B－1	ロシア語Aで学んだ文法の復習から、中級文法の習得を目指し、より高度な文法・表現の解説、その応用練習を行う。平易な会話の聞き取り能力の向上を目指す。 具体的な学修目標は、以下のとおり。 ・文法の合間に、短く比較的簡単なテキストを読み、ロシア語の読解にも慣れる。 ・やや複雑な構文を使ったロシア語の文が読解できる。 ・基本語彙と平易な表現を用いてゆっくり話されるロシア語会話を、聞き取ることができる。 本授業では、以下のような表現を学ぶ。 時間の表現、数詞の格変化、仮定法、一般二人称、不定形の用法等	
	ロシア語B－2	実際にロシアに行ったら遭遇するであろうシチュエーションにおいて、ロシア語でどう表現すればよいか、実践的なロシア語の修得を目指す。 シチュエーションごとの簡単な会話の聞き取り、ネイティブのナチュラルスピードに耳を慣らす練習をし、会話内容の理解を通して、ロシア語Aの文法の復習・発展的学習を行う。 実際にロシアに行った場合に最低限必要なフレーズや語彙を学び、自分の言いたいことを表現するにはどのような言葉を使ったらよいかを学ぶ。またこれを応用して、日本の状況についても説明できるようにする。 日本と異なるロシアの生活・文化様式についても解説する。 具体的な学修目標は、以下のとおり ・ロシア旅行で最低限必要となる語彙・表現を用いて話すことができる。（空港・ホテル・両替所・ファストフード店等での場面で） ・ごく基本的な語彙・表現の範囲であれば、ナチュラル・スピードで話される内容を把握できる。 ・ロシア語でロシアに関する情報収集を自分でできる。	
	ロシア語C－1	本授業では、ロシアの社会や文化に関する理解を深め、ロシア語AやBで学んだ内容を復習・応用しながら、読解力・聴解力を高めることを目標とする。 短めのロシア語テキストを数回ずつかけて読む。テキストは新聞・雑誌記事、インターネット上の書き込み等を例にジャンル、テーマ等問わずに幅広い種類の文章を読むことで読解力を鍛える等、語学的な訓練を重ね、毎回少しずつ、ロシア語検定試験（ロシア連邦の国家試験TRKIなど）の聞き取り問題にも取り組むことにより、辞書を使えば新聞レベルのロシア語テキストが読解できることを目指す。	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 教育 科目	初 習 言 語 科 目	ロシア語C－2 本授業では、ロシアの社会や文化に関する理解を深め、ロシア語AやBで学んだ内容を復習・応用しながら、読解力・聴解力を高めることを目標とする。 授業では短めのロシア語テキストを数回ずつかけて読む。テキストは学術論文、文学などから、ジャンル、テーマ、書かれた時期を問わず、幅広く扱う予定である。 複雑な構文を把握できるよう、語学的な訓練を重ね、毎回少しずつ、ロシア語検定試験（ロシア連邦の国家試験TRKIなど）の聞き取り問題に取り組む。ナチュラル・スピードのロシア語の聞き取り能力を高め、また聞き取った文を自分で言えるようになることを目指す。	
		中国語A1－1 中国語を運用する上で必要な語法・文法を習得し、中国語の構文を理解した上で、正確な読解や表現ができる力を養うことを目標とする。 まずピンインと呼ばれる発音記号にもとづき、声調を含めて正確な発音の方法を学習する。ついで基本文型に習熟するとともに、語法・文法の基本事項を学習し、平易な会話文や筆記文を理解する能力を身につける。読解力の向上を主眼とするものの、発音ができなければ外国語の勉強はつまらないし、中国語の場合、ピンインがわからないと辞書を引くこともおぼつかない。 具体的な学修目標は、以下のとおり。 ・ピンイン（表音ローマ字）を見て発音することができる。 ・基本文型を理解し、500語レベルの基本語彙を使った文章を解釈することができる。 ・簡単な構文を理解し、500語レベルの基本語彙を使って文を作ることができる。 ・中国語検定試験準4級合格程度の力を養成する。 本授業の内容は下記の通り。 発音練習、常用表現、”是”構文、動詞述語文、完了表現他	
		中国語A1－2 中国語を運用する上で必要な語法・文法を習得し、中国語の構文を理解した上で、正確な読解や表現ができる力を養うことを目標とする。 まずピンインと呼ばれる発音記号にもとづき、声調を含めて正確な発音の方法を学習する。ついで基本文型に習熟するとともに、語法・文法の基本事項を学習し、平易な会話文や筆記文を理解する能力を身につける。読解力の向上を主眼とするものの、発音ができなければ外国語の勉強はつまらないし、中国語の場合、ピンインがわからないと辞書を引くこともおぼつかない。 具体的な学修目標は、以下のとおり。 ・ピンイン（表音ローマ字）を見て発音することができる。 ・基本文型を理解し、500語レベルの基本語彙を使った文章を解釈することができる。 ・簡単な構文を理解し、500語レベルの基本語彙を使って文を作ることができる。 ・中国語検定試験準4級合格程度の力を養成する。 本授業の内容は下記の通り。 疑問視疑問文、形容詞述語文、近未来表現、方位詞、名詞述語文、動量補語等。ディクテーションや作文も行う。	
		中国語A2－1 正確で自然な発音による中国語のコミュニケーション能力を養う。 自分の発音に自信を持てるように発音練習に力を入れる。ついでさまざまな場面におけるコミュニケーションの方法を学習し、とくに会話能力の養成を図る。語法・文法事項の説明はできるだけ少なくし、スピーキング、リスニングの練習に多くの時間を割きたい。中国語にかぎらず、自分の使う外国語がネイティブ・スピーカーに通じた喜びは学習意欲を増す。習いたての片言の中国語でよいから、発音や文法の誤りを気にせず、積極的に担当教員に話しかけて欲しい。 具体的な学修目標は、以下のとおり。 ・ピンイン（表音ローマ字）を見て発音することができる。 ・身近な話題について、500語レベルの基本語彙を使って話することができる。 ・500語レベルの基本語彙の範囲であれば、ゆっくり話される内容を聞き取ることができる。 ・中国語検定試験準4級合格程度の力を養成する。 本授業で学習する内容は以下の通り。 発音練習、常用表現、国籍を尋ねる トピック：「町にはホテルもお店も銀行もあります」「どこで食事をしますか」	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	初習言語科目	中国語A 2－2	正確で自然な発音による中国語のコミュニケーション能力を養う。 自分の発音に自信を持てるように発音練習に力を入れる。ついでさまざまな場面におけるコミュニケーションの方法を学習し、とくに会話能力の養成を図る。語法・文法事項の説明はできるだけ少なくし、スピーキング、リスニングの練習に多くの時間を割きたい。中国語にかぎらず、自分の使う外国語がネイティブ・スピーカーに通じた喜びは学習意欲を増す。習いたての片言の中国語でよいから、発音や文法の誤りを気にせず、積極的に担当教員に話しかけて欲しい。 具体的な学修目標は、以下のとおり。 ・ピンイン（表音ローマ字）を見て発音することができる。 ・身近な話題について、500語レベルの基本語彙を使って話することができる。 ・500語レベルの基本語彙の範囲であれば、ゆっくり話される内容を聞き取ることができる。 ・中国語検定試験準4級合格程度の力を養成する。 本学で学習する内容は以下の通り。 交通手段を尋ねる，距離を表現する，日にち・月の表現 「お箸どうぞ」，「疲れたら休もう」，「北京は人も車も多い」	
		中国語A 3－1	中国語の構文を理解した上で、正確な読解と表現ができる力を養い、中国語検定試験4級合格程度の力を養成する。A1-1/A1-2で学んだ語法・文法事項をふまえ、さまざまな補語など、やや複雑な語法・文法事項を学習する。中国語を運用する上で必要な語法・文法を習得する。 具体的な学修目標は、以下のとおり。 ・ピンイン（表音ローマ字）を見て正確に発音することができる。 ・基本的な文法事項を理解し、1000語レベルの日常語を使った文章を解釈することができる。 ・やや複雑な構文を理解し、1000語レベルの日常語を使って文を作ることができる。 本授業で学習する内容は下記の通り。 結果補語，助動詞，疑問視の応用表現，方向補語，進行表現など。 ディクテーション，作文練習も行う。	
		中国語A 3－2	中国語の構文を理解した上で、正確な読解と表現ができる力を養い、中国語検定試験4級合格程度の力を養成する。A1-1/A1-2で学んだ語法・文法事項をふまえ、さまざまな補語など、やや複雑な語法・文法事項を学習する。中国語を運用する上で必要な語法・文法を習得する。 具体的な学修目標は、以下のとおり。 ・ピンイン（表音ローマ字）を見て正確に発音することができる。 ・基本的な文法事項を理解し、1000語レベルの日常語を使った文章を解釈することができる。 ・やや複雑な構文を理解し、1000語レベルの日常語を使って文を作ることができる。 授業で学習する内容は下記の通り。 可能補語，比較表現，受身表現，使役表現など。 ディクテーション，作文練習も行う。	
		中国語A 4－1	正確で自然な発音による中国語のコミュニケーション能力を養う。 A2で学んだ中国語の発音に磨きをかけ、より自然な発音による会話練習を中心に授業を進める。一語一語の発音の正確さはもとより、一文としての発音の仕方にも留意すること。 具体的な学修目標は、以下のとおり。 ・ピンイン（表音ローマ字）を見て正確に発音することができる。 ・基本的な文法事項を理解し、1000語レベルの日常語を使った文章を解釈することができる。 ・やや複雑な構文を理解し、1000語レベルの日常語を使って文を作ることができる。 本授業で学習するトピックス・内容は以下の通り 「車で来たので飲めません」 「午後に病院へ行くつもりです」 「いつから腹痛が始まりましたか」 「彼女は何かをしていますか」	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	初習言語科目	中国語A 4－2	正確で自然な発音による中国語のコミュニケーション能力を養う。 A 2 で学んだ中国語の発音に磨きをかけ、より自然な発音による会話練習を中心に授業を進める。一語一語の発音の正確さはもとより、一文としての発音の仕方にも留意すること。 具体的な学修目標は、以下のとおり。 ・ピンイン（表音ローマ字）を見て正確に発音することができる。 ・基本的な文法事項を理解し、1000語レベルの日常語を使った文章を解釈することができる。 ・やや複雑な構文を理解し、1000語レベルの日常語を使って文を作ることができる。 本授業で学習するトピックス・内容は以下の通り 「財布が見つかりました」 「壁に古い写真が貼ってある」 「このパソコンはあれより重い」 「1月1日を元旦と呼びます」 「私に切符を買わせて」 スピーチ、暗唱などの練習を行う。	
		中国語B－1	中国語とその運用についての知識を身につけるとともに、その背景にある中国文化に対する理解を深める。身近なトピックについて会話練習及びスピーチ発表を行い、中国語によるコミュニケーション能力の向上を目指す。 具体的な学修目標は、以下のとおり。 ・1500語レベルの日常語彙の範囲で、明瞭な発音であれば、話題の主要な内容を聴き取ることができる。 ・具体的な話題について、1500語レベルの日常語彙を使用し、的確に情報を伝え、自分の考えを説明することができる。 ・中国語検定試験3級合格程度の聴解力を身につける。 本授業で取り上げる内容・トピックは下記の通り。 レストランでの会話、買い物の時の会話、大学の授業について、個人発表、グループ発表の機会を設ける。	
		中国語B－2	中国語とその運用についての知識を身につけるとともに、その背景にある中国文化に対する理解を深める。身近なトピックについて会話練習及びスピーチ発表を行い、中国語によるコミュニケーション能力の向上を目指す。 具体的な学修目標は、以下のとおり。 ・1500語レベルの日常語彙の範囲で、明瞭な発音であれば、話題の主要な内容を聴き取ることができる。 ・具体的な話題について、1500語レベルの日常語彙を使用し、的確に情報を伝え、自分の考えを説明することができる。 ・中国語検定試験3級合格程度の聴解力を身につける。 本授業で取り上げる内容・トピックは下記の通り。 インターネットについて、恋人に関して、転職について、日本と中国の文化・習慣比較等 作文、個人発表、グループ発表の機会を設ける。	
		中国語C－1	より高度な中国語コミュニケーション能力を養成する授業です。中国語とその運用についての知識を身につけるとともに、その背景にある中国文化に対する理解を深める。 授業で使用するプリントは中国社会のそれぞれの側面に触れながら、会話力を向上させる内容で、日本にいながら、中国における外国人と同じ題材で学べます。 具体的な学修目標は、以下のとおり。 ・2000語以上の語彙で、いろいろな話題について高度な内容を理解することができる。 ・2000語以上の語彙を使用し、流暢に、また自然に自己表現ができる。 ・中国語検定試験2級合格程度の聴解力を身につける。 ・日中力国の国際交流がどのように行われるべきかについて、自分の意見を持つことができる。 本授業で取り上げる内容。トピックは以下の通り。 中国国内でのニュース報道に関するHPや、動画を講読・視聴し、ディスカッションを行う。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	初習言語科目	中国語C－2	より高度な中国語コミュニケーション能力を養成する授業です。中国語とその運用についての知識を身につけるとともに、その背景にある中国文化に対する理解を深める。 授業で使用するプリントは中国社会のそれぞれの側面に触れながら、会話力を向上させる内容で、日本にいながら、中国における外国人と同じ題材で学べます。 具体的な学修目標は、以下のとおり。 ・2000語以上の語彙で、いろいろな話題について高度な内容を理解することができる。 ・2000語以上の語彙を使用し、流暢に、また自然に自己表現ができる。 ・中国語検定試験2級合格程度の聴解力を身につける。 本授業で取り上げる内容・トピックは以下の通り。 生活と健康について、男女平等、環境保護と資源節約、ビジネス中国語（財務・国際入札・待遇） 中国社会のそれぞれの側面に触れながら、会話力を向上させる内容。一つのトピックについて二週間にわたってトレーニングを行う。	
		朝鮮語A 1－1	基礎的な朝鮮語の文法事項を習得し、簡単な文章を理解できる力を養い、簡単な会話ができることを目指す。 韓国（朝鮮）の社会、文化、歴史などについて理解する。 具体的な学修目標は、以下のとおり。 ・ハングル文字を見て発音することができる。 ・母音と子音の組み合わせ方を理解する。 ・韓国文化について理解することができる。	
		朝鮮語A 1－2	基礎的な朝鮮語の文法事項を習得し、簡単な文章を理解できる力を養い、簡単な会話ができることを目指す。 韓国（朝鮮）の社会、文化、歴史などについて理解する。 具体的な学修目標は、以下のとおり。 ・基本文型を理解し、400語ほどの語彙を使った文章を解釈することができる。 ・簡単な構文を理解し、400語ほどの語彙を使って文を作ることができる。 ・身近な話題について、400語ほどの語彙を使って話をするすることができる。 ・400語ほどの語彙の範囲であれば、ゆっくり話される内容を聞き取ることができる。	
		朝鮮語A 2－1	韓国語を学び、韓国の社会、文化、歴史などについて理解する。 基礎的な文法事項を習得し、簡単な文章を理解できる力を養うと同時に、自己紹介等身近な事柄について日常生活の簡単な会話ができることを目指す。 具体的な学修目標は、以下のとおり。 ・基本的な文法事項を理解し、800語ほどの語彙を使った文章を解釈することができる。 ・やや複雑な構文を理解し、800語ほどの語彙を使って文を作ることができる。 ・身近な話題について、800語ほどの語彙を使って話をするすることができる。 ・800語ほどの語彙の範囲であれば、はっきり話される内容を聞き取ることができる。	
		朝鮮語A 2－2	韓国語を学び、韓国の社会、文化、歴史などについて理解する。 基礎的な文法事項を習得し、簡単な文章を理解できる力を養うと同時に、道を尋ねる、電話をかける、日付を尋ねる、値段を尋ねるなど日常生活の簡単な会話ができるようになることを目指す。 具体的な学修目標は、以下のとおり。 ・ハングル文字を見て発音することができる。 ・基本文型を理解し、400語ほどの語彙を使った文章を解釈することができる。 ・簡単な構文を理解し、400語ほどの語彙を使って文を作ることができる。 ・身近な話題について、400語ほどの語彙を使って話をするすることができる。 ・400語ほどの語彙の範囲であれば、ゆっくり話される内容を聞き取ることができる。	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 教育 科目	朝鮮語A 3－1	韓国語を学び、韓国の社会、文化、歴史などについて理解する。基礎的な文法事項を習得し、簡単な文章を理解できる力を養うと同時に自己紹介など日常生活の簡単な会話から、動詞の活用までを学ぶ。 具体的な学修目標は、以下のとおり。 ・基本文型を理解し、700語ほどの語彙を使った文章を解釈することができる。 ・簡単な構文を理解し、700語ほどの語彙を使って文を作ることができる。 ・身近な話題について、700語ほどの語彙を使って話をするができる。 ・700語ほどの語彙の範囲であれば、ゆっくり話される内容を聞き取ることができる。	
	朝鮮語A 3－2	韓国語を学び、韓国の社会、文化、歴史などについて理解する。文章を理解できる力を養うと同時に、K-POPや韓国の食べ物などの題材を使用し、形容詞の活用や短文の作成ができるようになることを目指す。 ・基本文型を理解し、700語ほどの語彙を使った文章を解釈することができる。 ・簡単な構文を理解し、700語ほどの語彙を使って文を作ることができる。 ・身近な話題について、700語ほどの語彙を使って話をするができる。 ・700語ほどの語彙の範囲であれば、ゆっくり話される内容を聞き取ることができる。	
	朝鮮語A 4－1	韓国語を学び、韓国の社会、文化、歴史などについて学び、基礎的な朝鮮語の文法事項を習得し、簡単な文章を理解でき、挨拶、好き嫌いを尋ねる、電話をかける等様々な日常にある様々なトピックの中で簡単な会話ができる力を養う。 具体的な学修目標は、以下のとおり。 ・ハングル文字を見て発音することができる。 ・基本文型を理解し、400語ほどの語彙を使った文章を解釈することができる。 ・簡単な構文を理解し、400語ほどの語彙を使って文を作ることができる。 ・身近な話題について、400語ほどの語彙を使って話をするができる。 ・400語ほどの語彙の範囲であれば、ゆっくり話される内容を聞き取ることができる。	
	朝鮮語A 4－2	韓国語を学び、韓国の社会、文化、歴史などについて学び、基礎的な朝鮮語の文法事項を習得し、簡単な文章を理解でき、家族の紹介、食文化比較等様々なトピックの中で簡単な日常会話ができる力を養う。 具体的な学修目標は、以下のとおり。 ・基本的な文法事項を理解し、800語ほどの語彙を使った文章を解釈することができる。 ・やや複雑な構文を理解し、800語ほどの語彙を使って文を作ることができる。 ・身近な話題について、800語ほどの語彙を使って話をするができる。 ・800語ほどの語彙の範囲であれば、はっきり話される内容を聞き取ることができる。	
	朝鮮語B－1	朝鮮語で趣味や友人など身の回りの物事についてスピーチやディスカッションをすることにより、朝鮮語のコミュニケーション能力を高め、韓国文化の理解を深める。 具体的な学修目標は、以下のとおり。 ・朝鮮語のコミュニケーション能力を高める。 ・韓国文化の理解を深める。 ・与えられた主題について会話ができる。 ・読解ができる。 ・「ハングル能力検定試験」3級を目指す。	
	朝鮮語B－2	朝鮮語で、訪問客に対して観光案内や日本の紹介についてスピーチとディスカッションをすることにより、朝鮮語のコミュニケーション能力を高め、韓国文化の理解を深める。 具体的な学修目標は、以下のとおり。 ・朝鮮語のコミュニケーション能力を高める。 ・韓国文化の理解を深める。 ・与えられた主題について会話ができる。 ・読解ができる。 ・「ハングル能力検定試験」3級を目指す。	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 教育 科目	朝鮮語C－1	朝鮮語を学び、コミュニケーション能力や文法理解能力の向上を図り、また、韓国の社会、文化、歴史等について理解を深める。 韓国における日本の大衆文化解禁の歴史的背景、日本や中国における還流ブームの背景や経緯及びその意義について学び、東アジアの文化交流に焦点を当てて、その意義について検討する。	
	朝鮮語C－2	朝鮮語を学び、コミュニケーション能力や文法理解能力の向上を図り、また、韓国の社会、文化、歴史等について理解を深める。 韓国における日本の大衆文化解禁の歴史的背景、日本や中国における還流ブームの背景及びその意義について学び、還流の国家的戦略、将来像を考える。また、日本が世界に広めようとしている「クールジャパン」とは何か、中国の「華流」の可能性等も考える。 東アジアの文化交流に焦点を当て、その意義を検討し、東アジアにおけるソフトパワー競争時代について考える。	
	スペイン語A 1－1	スペイン語の大事な最初のステップは動詞の活用にあるため、活用練習を繰り返し行い、ペア練習や小テストで単語や表現を定着させる。 基本単語の習得、動詞の活用の原則を理解し基本的な文法事項を身につけ、単語から文章への組み立てを習得することを目指す。 具体的な学修目標は、以下のとおり。 ・発音、数字、名詞の性、冠詞、規則動詞、tenen/haverの用法等初級文法の修得 ・日常的表現、基本的な言い回しが理解できる。 ・基本的文型を理解し、出身、家族構成、日常生活などについての文章を理解することができる。 ・簡単な語句や構文を使って短い文を作ることができる。	
	スペイン語A 1－2	スペイン語の大事な最初のステップは動詞の活用にあるため、活用練習を繰り返し行い、ペア練習や小テストで単語や表現を定着させる。 基本単語の習得、動詞の活用の原則を理解し基本的な文法事項を身につけ、単語から文章への組み立てを習得することを目指す。 具体的な学修目標は、以下のとおり。 ・不規則動詞、前置詞、動詞の変化等初級文法の修得 ・日常的表現、基本的な言い回しが理解できる。 ・基本的文型を理解し、出身、家族構成、日常生活などについての文章を理解することができる。 ・簡単な語句や構文を使って短い文を作ることができる。	
	スペイン語A 2－1	スペイン語の運用能力を養うため、ペアワークやグループワークで練習をし、スペイン語の初級文法と基本語彙の習得を目指す。 スペイン語の基礎単語の発音、初級文法の基本的な枠組みを理解し、人物描写、家族についての表現を学び平易な文で話すことができるようになることを目標とする。 本授業では下記の文法事項・表現を学習する。 スペイン語の発音・数字・スペル、国籍の言い方、程度を表す表現、人の描写、家族・親族、定冠詞・不定冠詞、estar、規則動詞等	
	スペイン語A 2－2	スペイン語の運用能力を養うため、ペアワークやグループワークで練習をし、スペイン語の初級文法と基本語彙の習得を目指す。 スペイン語の基礎単語の発音、初級文法の基本的な枠組みを理解し、街中の描写や、位置関係、日常生活を表す描写を学び、平易な文で話すことができるようになることを目標とする。 本授業では下記の文法事項・表現を学習する。 位置関係、Haverの用法、mucho/poco、大学内や周辺の建物・場所を表す動詞、交通機関、街中の描写、月と季節、現在進行形等	
	スペイン語A 3－1	前期スペイン語A1から継続する科目である。引き続き初級文法の基本事項を学習します。動詞の活用の原則を理解し、文法事項を修得し、聞く、話す、書く、読むの四技能をバランスよく習得することを目指す。 具体的な学修目標は、以下のとおり。 ・基本的な個人情報の他に買い物、好み、体調などを表す文章を理解できる。 ・学歴、経験、居住条件を簡単な文を使って説明できる。 ・学習した構文を使い、個人的な手紙を書くことができる。	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 教育 科目	スペイン語A 3-2	前期スペイン語A1から継続する科目である。引き続き初級文法の基本事項を学習します。動詞の活用原則を理解し、文法事項を修得し、聞く、話す、書く、読むの四技能をバランスよく習得することを目指す。 具体的な学修目標は、以下のとおり。 ・直接的／間接的人称代名詞、比較表現等初級文法の修得。 ・基本的な個人情報の他に買い物、好み、体調などを表す文章を理解できる。 ・学歴、経験、居住条件を簡単な文を使って説明できる。 ・学習した構文を使い、個人的な手紙を書くことができる。	
	スペイン語A 4-1	スペイン語を学ぶなかで、異文化に触れる。 スペイン語の正しい発音及び初歩的な会話の修得を目標とし、ペアワークやグループワークを通じて会話の練習をしながら、単語や表現力を定着させる。 スペイン語の文章を正しく発音することを目標とする。 天気や住居のこと、料理のレシピ、レストランでの会話などについて学び、ゆっくり話される身近な話題についての簡単なことを尋ねたり、答えたりできるようになることを目指す。	
	スペイン語A 4-2	A3での文法の授業の内容とも関連した実践的な会話の練習を行い、コミュニケーション能力の向上を目指す。グループによるゲーム、オーラル練習を通して単語を増やし、DVD教材などでスペイン語の表現を学び会話をステップアップしていくことを目標とする。 具体的な学修目標は、以下のとおり。 ・アルファベットを見て正しく発音することができる。 ・自分の背景や身の回りの状況を簡単な言葉で話すことができる。 ・短いはっきりとしたメッセージ、アナウンスの要点を聞き取ることができる。	
	スペイン語B-1	新しい文法事項を導入し一年時の基本的な文法事項をもっと深く学習し、文法の定着をはかることを目標とする。 DVD教材などでスペイン語の口語表現、慣用表現などを学び、スペイン語をツールとして、スペイン語圏の多様な文化について学ぶ。 聞く、話す、書く、読むの四技能をよりバランスよく習得することを目指す。 具体的な学修目標は、以下のとおり。 ・再帰動詞、関係詞、直接法現在完了等新しい文法事項の修得。 ・学校、旅行、日常生活などで起こったこと、推測、希望が表現されている文を理解できる。 ・身近な話題についてつながりのある文を作ることができる。 ・経験や印象を書くことができる。	
	スペイン語B-2	新しい文法事項を導入し一年時の基本的な文法事項をもっと深く学習し、文法の定着をはかることを目標とする。 DVD教材などでスペイン語の口語表現、慣用表現などを学び、スペイン語をツールとして、スペイン語圏の多様な文化について学ぶ。 聞く、話す、書く、読むの四技能をよりバランスよく習得することを目指す。 具体的な学修目標は、以下のとおり。 ・直接法過去完了、命令形、無人称表現等新しい文法事項の修得。 ・学校、旅行、日常生活などで起こったこと、推測、希望が表現されている文を理解できる。 ・身近な話題についてつながりのある文を作ることができる。 ・経験や印象を書くことができる。	
	スペイン語C-1	DVD教材などでスペイン語の口語表現、慣用表現などを学び、スペイン語をツールとして、スペイン語圏の多様な文化について学ぶ。 聞く、話す、書く、読むの四技能をよりバランスよく習得することを目指す。 具体的な学修目標は、以下のとおり。 ・接続法現在、命令形、接続法現在完了等の文法事項の修得。 ・学校、旅行、日常生活などで起こったこと、推測、希望が表現されている文を理解できる。 ・身近な話題についてつながりのある文を作ることができる。 ・経験や印象を書くことができる。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	初習言語科目	スペイン語C-2	DVD教材などでスペイン語の口語表現、慣用表現などを学び、スペイン語をツールとして、スペイン語圏の多様な文化について学ぶ。聞く、話す、書く、読むの四技能をよりバランスよく習得できることを目指す。 具体的な学修目標は、以下のとおり。 ・接続法過去、条件文、接続法過去完了等の文法事項の修得。 ・学校、旅行、日常生活などで起こったこと、推測、希望が表現されている文を理解できる。 ・身近な話題についてつながりのある文を作ることができる。 ・経験や印象を書くことができる。	
	自由履修科目	アントレプレナーシップ I	アントレプレナーシップは、事業を新しく創造するため、高い創造意欲を持ち、リスクや困難に挑戦していく姿勢、発想、レジリエンス等を総合的に示す能力（起業家精神）を意味する。学生が入学当初に起業家精神の重要性と必要性を理解し、学生自らがモチベーションを持ちながら、大学時代に様々な機会を利用して、アントレプレナーシップを涵養する必要がある。 本授業では、学生がアントレプレナーシップを学ぶ最初のステップとして、様々な観点から、21世紀の社会で生き抜くために、アントレプレナーシップを学ぶ機会を提供することにより、アントレプレナーの社会的意義とそのために必要な素養となるアントレプレナーシップを体得するを目的とする。	
		里山里海体験実習 in 能登半島	本実習では、能登半島の里山里海を1泊2日で訪問し、地域の方々と交流しながら、里山里海の素晴らしさと現在の問題点を知り、今後の持続的発展の道を議論する。また、金沢大学の能登の里山里海の活動を知り、今後の発展に向け討議する。そして、能登の里山里海の再生と地域の再活性化のために必要なことと関わり方を総合討論する。 これらの実習により、持続可能な開発目標（SDGs）の基本コンセプトについて理解した上で、里山里海の素晴らしさ、現状と問題点に気づき、本学が能登で実施している里山里海に関する活動を知り、里山、里海の定義、重要性、能登の再活性化に活用するための方策や課題等について、自身の言葉で説明できるようになるとともに、大学あるいは学生が地域に果たす役割、地域から大学、学生が何を学ぶかについて考察を深め、能登の里山里海への自分の関わり方、役割を考え、能登の里山里海の保全、活性化とどのように関わっていくのかについて、自分の言葉で説明できるようになることを目的とする。	
		里山概論	人と自然の絶え間ない相互交渉によって生まれる里山里海のシステムは今、持続可能な社会モデルの舞台として世界的にも注目されている。日本では、全国で里山を活用した地域創生の様々な試みがあり、石川県でも優れた取り組みが行われている。 本授業では、そのような行いがどのような意味を持つのか、私たちの身近な里山に注目して実践事例を通して学ぶことにより、人と自然の関係を読み解く力を身に付けるとともに、現代における里山里海の課題と可能性を知り、今何に取り組む必要があるのかについて自分の考えを説明できるようになることを目的とする。	
		石川県の行政	本授業では、石川県の行政の現場で活躍する関係者の生の声を聞くことにより、地方自治体が取り組む政策課題と、課題に対処するために政策が形成されて実施・評価されるプロセス（政策過程）についての理解を深めることや、地方自治・行政に関連する基礎的および実務的な知識を習得し、自ら地方自治や政策課題について深く考えることができるようになることを目的とする。 また公務員志望の学生については、行政の現場で活躍する関係者の生の声を聞くことで、将来のキャリア形成の参考になることを期待する。	
		石川県の市町	本授業では、石川県の市町からのゲストスピーカーの話を聞くことで、石川県の市や町が抱える課題を理解し、その課題解決の方策や、今後の大学や学生と地域との連携のあり方を考え、各市町に提言を出せるようになることを目的とする。	
		健康論実践D	本授業では、調理実習等気づきをもたらすような様々な講義、実習を通して、健康な心と身体があってこそ、学業や学生生活を楽しむことができること、社会生活において重視される自己管理能力、コミュニケーション能力、他者援助精神を習得させることを目的とする。	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 教育 科目	健康論実践E	本授業では、角間の里において多彩なゲストスピーカーとの共同作業やグループワークを通して、教育実習や就職活動、日常の人間関係に役立つ内容を学ぶ。健康な心と身体があつてこそ、学業や学生生活を楽しむことができることや社会生活において重視される自己管理能力、コミュニケーション能力、他者援助精神等を修得することを目的とする。	
	現代社会における保険の制度と役割	さまざまなリスクに対処する保険の役割は、現代社会において不可欠なものとなっている。 本授業では、民間保険と社会保障制度である公的保険（社会保険）の仕組みをともに学び、「保険」というシステムの役割と課題について理解することを目的としている。	
	ジャーナリズム論	情報化社会の現代を生きる上で、マスメディア（新聞とテレビなど）について学ぶことは重要である。あふれんばかりの商品経済の中にあっては商品の質を見定める消費者教育が必要であるように、氾濫する情報の中でどのニュースや情報の質が高いのかを見極め判断するメディア教育もまた必要である。 本授業では、新聞メディアとそのジャーナリズムをめぐる現代をテーマとしている。その主なテーマは大きく分けると「新聞メディアが抱えてたつ基盤とは何か」「新聞メディアが多メディアとインターネットの時代になぜ存在意義が問われているのか」「将来、社会はどのように変貌し新聞メディアはどう姿を変えていくのか」の3つになる。個々の講義では、これらのテーマを縦糸に、民主主義とジャーナリズム論、新聞メディアとインターネット（デジタル化）、新聞メディアと国内外の現状などを横糸として織り込んでいく。 授業を通して、情報化社会を果敢に生き抜く知恵とセンスを獲得することを目的とする。	
	実践アントレプレナー学	アントレプレナーとは、ベンチャー企業を開業する者、また、産業構造の変革を担うベンチャー企業の実践者とも言われ、その育成および起業家精神の醸成は、国の再生と経済活性化に重要な役割をもつものとして位置づけられている。過去のベンチャーブームは、オイルショック、円高不況そしてバブル崩壊などの社会・経済の転換期と大きく関わっている。 本授業では、大学生と就職そして起業家精神の育成の一つの方向性示すとともに、大学の勉学と研究への取り組みのあり方を解説することで、「イノベーションとは」から始めて、「産学官連携とは」「知的財産と特許とは」、さらに「ベンチャー育成と企業化とは」までを理解し、大学におけるアントレプレナー精神の育成を目的とする。	
	クラウド時代の「ものグラミング」概論	Society5.0時代を迎えるにあたって、これまで個人が余暇に楽しんでいた「ものづくり」と、仕事や趣味などで行ってきた「パソコン上でのさまざまな操作」、インターネット上で誰かが開発して提供している「さまざまな情報サービス」は別々のものではなくなる。それらは渾然一体となって、相互に連携し、利活用可能となる。このような社会で必要となる技法を、「ものづくり」と「プログラミング」をかけあわせた「ものグラミング」という言葉で表現している。 この「ものグラミング」こそが、Society5.0に向けた人材に必要な技法であると考え、この技法を、講義と実習を通じて学ぶことを本授業の主題に据える。 本授業では、手元で動く小さな「モノ」が徐々に発展しクラウドと連携するまでと、クラウド上の大量の情報やサービスが手元の小さな「モノ」に影響を与えるまでを講義と体験を通じて述べ、「ものグラミング」全体の理解を受講者に促すことを目的とする。	
	シェルスクリプト言語論	本授業では、古くから存在し、今もほとんど変わること無く使用できる「POSIX環境におけるシェルスクリプト」を使ったプログラミング手法について学習をしていく。シェルスクリプトは、UNIXやLinuxと呼ばれるOSにおいて、システム操作などにも使用されるもので、多くのコマンドから形成されるものであり、古くから変わらず存在するため、これから先も長く使用可能である。また、シェルスクリプトは、プログラミングに限らず、LinuxやWindows10, macOSなどをコマンドから操作するときに使用可能であり、シェルスクリプトを十全に使用できるようになると、研究活動を始めとする、さまざまな業務処理に、これまでとは違う視点からの作業環境を与えることができる。 POSIX環境におけるシェルスクリプトについて新しい視点で学ぶとともに、「Win/Mac/UNIXすべてで25年後も動く普遍的なプログラム」を書く方法について会得し日頃の問題解決に適用できるようにすること目的とする。	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 教育 科目	地元学A（地域資源調査）	この授業では、フィールドワークによる体験的学習を通じて、フィールドワークの基礎的な知識や技術について学ぶ。金沢大学門前町をフィールドとした地域の宝探し調査によって、ヨソ者の視点からこの地域の魅力を発見し、地域住民に報告する。 地元学調査手法について体験的に学習し、その知識と技術の習得及び地元学調査を通して、金沢大学門前町の地域資源を発見することを目的とする。	
	地元学B（聞き書き）	この授業では、フィールドワークによる体験的学習を通じて、フィールドワークに最も重要である、聞き込みの知識と技術について学ぶ。金沢大学門前町をフィールドとした地域の宝探し調査によって、ヨソ者の視点からこの地域の魅力を発見し、地域住民に報告する。 地元学調査手法について体験的に学習し、その知識と技術の習得及び地元学調査を通して、金沢大学門前町の地域資源を発見することを目的とする。	
	シェルスクリプトを用いた「ものグラミング」演習	近年では、インターネット上に大量の情報が集積され、これらを活用するサービスも用意されている。一方、小型のコンピュータ等が安価に普及し、これまでは手軽には手の届かなかった機器が当たり前のように利用できる。このような時代にあっては、従来なら個人が余暇に趣味で楽しんでいた「ものづくり」と、日常の仕事で行ってきた「パソコン上でのさまざまな操作」と、インターネット上で誰かが開発して提供している「さまざまな情報サービス」は別々のものではない。このような世界で必要となる技法を「ものづくり」と「プログラミング」をかけあわせた「ものグラミング」という言葉で表現する。 本授業では、「ものグラミング」のもとで、手元で動く小さな「モノ」が徐々に発展しクラウドと連携するまでと、クラウド上の大量の情報やサービスが手元の小さな「モノ」に影響を与えるまでを理解し、併せて、POSIX環境におけるシェルスクリプトを用いてプログラミングなどについて学ぶ。	
	世界農業遺産「能登の里山里海」とSDGsを考察するスタディ・ツアー	環境問題など問題を解決するため、「知の統合」として社会のための科学と文理融合をうたった「新しい学術体系」が必要である。それを生み出すには、超領域的な見方のできる人材が不可欠である。フィールド、臨地教育など、臨場主義に立つ教育研究こそ、そのような「知の統合」のできるマイスター育成が可能である。 本授業では、フィールドワークを主とすることで、人間的立場を再確認し、命のつながり、自然とのつながり、歴史とのつながり、つながりを再発見する面白さを見つけ出し、日常のキャンパスではなかなか得ることができない「気づき」をフィールドで得ることを目的とする。	
	イノベーションを起こして、起業家になろう1	「イノベーション」を生み出すメソッドとして世界的に注目を浴びている「デザイン・シンキング」（前例の無い問題や未知の課題に対し、最適な解決を図るための思考法）を中心に、「イノベーション」の核となる「クリエイティビティ」について理解する。 本授業では、「デザイン・シンキング」の基本的なプロセスを理解し、複数のワークショップを実施することで、クリエイティブな考えを生み出すということ等を体感的に理解し、習得することを目的とする。	
	イノベーションを起こして、起業家になろう2	本授業では、大学の内外で行われている起業に関連したイベント・研修紹介や起業家との対話を行い、イノベーションや起業、海外経験の重要性について学ぶ。また、身に付けるべきスキルや研修機会について理解した上で、キャリアアップを図ることを目的とする海外留学計画を実際に自身で立案することにより、長期的なキャリアの形成についても学ぶ。	
	イノベーションを起こして、起業家になろう3	情報産業（IT/ICT）は、近年は電子機器（ハードウェア）と密接に関連することで、IoT（モノのインターネット）やAIという形で、新たな産業の核となりつつある。これらの分野では、テクノロジーという理系的な視点だけでなく、価値あるサービスを見出し創造するという文系的な視点も重要になる。 本授業では、ハードウェアの試作（プロトタイピング）の習得と、それを用いたアイデア出しと試作による具体化のサイクルを通じたデザイン・シンキングを実践し、その知見を積むことを目的とする。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	自由履修科目	イノベーションを起こして、起業家になろう4	少子高齢社会となった先進諸国において、高齢者の生活を効果的に且つ低コストで支える仕組みづくりが多方面から求められている。中でも高齢者の健康問題は重要課題であり、健康寿命を延ばす医療の制度、技術、サービスの革新が期待されている。 本授業では、現代日本における超高齢社会やそれを支える医療の現状と課題を理解し、課題解決方法の1つである医療機器・サービスの技術革新について学ぶことにより、高齢者医療を取り巻く社会的環境や多様な課題を理解し、グループワークを通して、課題解決に向けた新しい手法を主体的且つ具体的に導き出すことを目的とする。	
		香りと日本文化	日本三大芸道の一つである香道。香道は日本独自の香りを楽しむ芸術で、約1500年前にその歴史は始まり、約500年前には現存する形となった。 本授業では、この香道を切り口に、日本文化への理解を深めていくことを目的とする。	
		心と体の健康A	社会生活において重視される自己管理能力、コミュニケーション能力、他者援助精神とはそもそも何であるのか。心と体、脳と身体の関わり合いはどうなっているのか、外界を認識している「私」とは何であるのか。 本授業では、一元論と二元論の考え方や認知等をテーマに、体験的に科学的に理解を深めていく。 人の意識と心の捉え方を科学的に再認識し、自分を見つめる力を養うとともに、これからの人間的成長の基盤を形成し、健康な心と身体があつてこそ、学業や学生生活を楽しむことができること、社会生活において重視される自己管理能力、コミュニケーション能力、他者援助精神を習得させることを目的とする。	
		心と体の健康B	社会生活において重視される自己管理能力、コミュニケーション能力、他者援助精神とはそもそも何であるのか。心と体、脳と身体の関わり合いはどうなっているのか、外界を認識している「私」とは何であるのか。 本授業では、音楽や神経経済学等をテーマに、体験的に科学的に理解を深めていく。 人の意識と心の捉え方を科学的に再認識し、自分を見つめる力を養うとともに、これからの人間的成長の基盤を形成し、健康な心と身体があつてこそ、学業や学生生活を楽しむことができること、社会生活において重視される自己管理能力、コミュニケーション能力、他者援助精神を習得させることを目的とする。	
		地域「超」体験プログラム	本授業では、学長と一緒に「合宿」することで、金沢大学に学ぶ意義を理解する。「プログラム」では、地域の歴史や文化を学び、地域住民との交流や社会活動を通して地域理解や人間力の涵養を図るとともに、地域社会の中に身を置いて考えることを通じて各人の就業観を養うことを目的とする。	
		ひとのからだ1	本授業では、ひとのからだの構造と機能を広く浅く講義し、理解と興味を持ってもらう。 特に循環器、消化器について、臓器の組織学的構造等を示し、基本的な理解を図る。 ひとのからだ1～4を受講することで、ひとのからだの構造と機能の基礎的なことが理解でき、説明可能になることを目的とする。	
		ひとのからだ2	本授業では、ひとのからだの構造と機能を広く浅く講義し、理解と興味を持ってもらう。 特に呼吸器、泌尿器、生殖器について、臓器の組織学的構造等を示し、基本的な理解を図る。 ひとのからだ1～4を受講することで、ひとのからだの構造と機能の基礎的なことが理解でき、説明可能になることを目的とする。	
		ひとのからだ3	本授業では、ひとのからだの構造と機能を広く浅く講義し、理解と興味を持ってもらう。 特に骨、筋について、臓器の組織学的構造等を示し、基本的な理解を図る。 ひとのからだ1～4を受講することで、ひとのからだの構造と機能の基礎的なことが理解でき、説明可能になることを目的とする。	
		ひとのからだ4	本授業では、ひとのからだの構造と機能を広く浅く講義し、理解と興味を持ってもらう。 特に神経、視覚、聴覚について、臓器の組織学的構造等を示し、基本的な理解を図る。 ひとのからだ1～4を受講することで、ひとのからだの構造と機能の基礎的なことが理解でき、説明可能になることを目的とする。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	自由履修科目	道徳教育および宗教教育をグローバルに考える	本授業では、日本の「特別の教科 道徳」、イングランドおよびデンマークでの「宗教」科目を対象として、各国の教育過程での位置づけ、教育内容、評価方法を紹介し、類似点、相違点を中心に討論を行うことで、学生の道徳教育、宗教教育の世界におけるあり方についての知識・理解を深め、そのことについて考えるきっかけを与えることを目標とする。	
		金沢の歴史と文化	金沢市内にはその歴史と文化を伝えるさまざまな石川県や金沢市の施設が存在し、観光施設としてだけではないさまざまな役割を担っている。 本授業では、そうした施設を訪ねてその担当者から直接に施設の概要・役割や職員の仕事内容等を聞き、また各施設やその所蔵品などを見たり、触れたり、体験したりすることで、金沢の歴史と文化を多面的に理解するとともに、こうした文化施設の有効性や今後の文化行政のあるべき姿等を考えることを目的とする。	
		日本の伝統芸能 1	本授業では、日本の伝統芸能の一つである能を通して、日本の伝統文化、特に、三味線や篠笛等、伝統楽器を体験を通して学ぶことにより、日本文化への理解を深めることを目的とする。	
		日本の伝統芸能 2	本授業では、日本の伝統芸能である能や狂言の歴史的背景を学び、さらに体験を通して、その理解を深めることを目的とする。	
		多民族・多文化共生の未来を探る	グローバル化した現代社会の中では、「自己」とは異なる文化・歴史・宗教を背景に持つ「他者」の理解とコミュニケーションが欠かせない。 本授業では、「他者」との共生・共栄の在り方をヨーロッパ中世末期と近代初期の民族史・宗教史を手がかりとして、現代のグローバル社会における自己と他者の関係性について、理解を深めることを目的とする。	
		地域創造学特別講義C	労働とは何か、労働者はどのような条件の下で働き、どのような権利を有するのか、また働いていくなかで直面する様々な現実的かつ具体的諸問題は何か、そうした諸問題を解決するのに資する労働者の連帯組織としての労働組合とは何であり、現在においてどのような意義と役割を有するのか、そして、こうした人々の労働と労働者の連帯組織である労働組合が、地域社会の創造においていかなる意味を持ちうるのか、などについて講義を通して、理解を深めることを目的とする。 本授業では、適正な労働時間や、行政から見た労働、ブラック企業等について講義する。	
		地域創造学特別講義D	本授業では、労働とは何か、労働者はどのような条件の下で働き、どのような権利を有するのか、また働いていくなかで直面する様々な現実的かつ具体的諸問題は何か、そうした諸問題を解決するのに資する労働者の連帯組織としての労働組合とは何であり、現在においてどのような意義と役割を有するのか、そして、こうした人々の労働と労働者の連帯組織である労働組合が、地域社会の創造においていかなる意味を持ちうるのか、などについて講義を通して、理解を深めることを目的とする。 本授業では、男女共同参画や労働組合の基礎知識等について講義する。	
		日本国憲法概説	本授業では、人としての基本的な権利や民主政治の講義を通して、日本国憲法の基本的な解釈・考え方を学ぶことにより、憲法の目的や人権、統治機構の基礎を理解することを目的とする。	
		日本史要説	本授業では、日本の歴史を古代から近現代に至るまで、政治・経済・社会・文化・宗教のみならず、民衆史、女性史などを含めて、相互の関連性に基づいて通観し、その過程において、周辺民族の歴史および関連性、東アジアおよび世界各地との関係性についても講義することで、日本の古代から近現代に至る、政治・社会・文化の変化の特徴と普遍性をどのように捉えたらよいか。また、世界史、特に東アジアとの関係における歴史的意義をどのように捉えればよいであろうかといった課題に対する理解を深めることを目的とする。	
		東洋史要説	本授業では、中国を中心にして東アジア文化圏の歴史を古代から現代までを通観し、東アジア文化圏の歴史的特質を明らかにすることにより、「東アジア、とりわけ中国や朝鮮半島における政治・社会・文化の特徴は何処に見いだせるであろうか」や「世界史のなかでの東アジアの歴史的特質と歴史的意義をどのように捉えればよいであろうか」といった課題に対し、本授業を通して理解を深めることを目的とする。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	自由履修科目	異文化理解のためのビデオ会議ディスカッション	本授業では、Skypeによるビデオ会議を通して、海外の大学で日本語を学ぶ大学生と、両国の社会、文化などのテーマについて日本語で深く話し合うことで、互いの国や文化を理解し、自己と自国と世界に関する見識を深めることを目的とする。	
		行政学の基礎	本授業では、行政とは何かや行政の範囲、国や地方の行政の違い等の講義を通じ、行政のしくみやはたらきについて学び、行政現象に関する基本的な事柄を、受講者に認識させ考えさせることを目的とする。	
		ガラスとクリスタルⅠ	地球物質ならびに人工物質の主要な固体物質である、結晶およびガラスは其中で重要な位置を占める固体物質であるが、結晶については基礎的事項として物理や化学の授業でよく取り上げられるものの、重要な特性である周期性についての詳しい説明はすくなく、ガラスについては教養的な授業のレベルでは詳しく触れられることが少なく、よく理解されているとは言い難い。 本授業では、結晶物質としての鉱物を取り上げ、クリスタルの本質についての知識を教授することで、地球物質ならびに人工物質の主要な固体物質である、結晶についてその特徴を理解するとともに、様々な結晶について、そのマクロ・ミクロスケールの性質や構造を理解したうえで、地球や我々の生活のなかでどのような役割を果たしているかを知ることを目的とする。	
		ガラスとクリスタルⅡ	地球物質ならびに人工物質の主要な固体物質である、結晶およびガラスは其中で重要な位置を占める固体物質であるが、結晶については基礎的事項として物理や化学の授業でよく取り上げられるものの、重要な特性である周期性についての詳しい説明はすくなく、ガラスについては教養的な授業のレベルでは詳しく触れられることが少なく、よく理解されているとは言い難い。 本授業では、結晶物質として代表的なガラスを取り上げ、ガラスの本質についての知識を教授することで、地球物質ならびに人工物質の主要な固体物質である、ガラスについてその特徴を理解するとともに、ガラスについて、そのマクロ・ミクロスケールの性質や構造を理解したうえで、地球や我々の生活のなかでどのような役割を果たしているかを知ることを目的とする。	
		ゼミ／角間の里山づくり春編	本授業は、創立五十周年記念館「角間の里」において行う講義と角間キャンパス内の里山で行う里山づくり体験から構成する。本授業における里山づくり活動は、春の里山を対象とし、里山自然学校が取り組む里山活動のほか、受講学生のアイディアを生かした独自の里山づくり活動を行う。角間の里山自然学校の取り組みについて理解するとともに、里山保全活動や里山づくり活動を体験することによって、我が国における里山の独自性と持続可能な発展における里山の重要性について学習することを目的とする。	
		ゼミ／角間の里山づくり秋編	本授業は、創立五十周年記念館「角間の里」において行う講義と角間キャンパス内の里山で行う里山づくり体験から構成する。本授業における里山づくり活動は、秋の里山を対象とし、里山自然学校が取り組む里山活動のほか、受講学生のアイディアを生かした独自の里山づくり活動を行う。角間の里山自然学校の取り組みについて理解するとともに、里山保全活動や里山づくり活動を体験することによって、我が国における里山の独自性と持続可能な発展における里山の重要性について学習することを目的とする。	
		コーヒーと社会	嗜好飲料として世界中で消費されているコーヒーを通じた世界の歴史と文化、さらに生産、流通やもとなるコーヒー豆の栽培など、コーヒーに関連する社会的状況を多様な角度で考える。 本授業では、SDGsや社会・文化とのかかわり等について講義する、	
		コーヒーと科学	嗜好飲料として世界中で消費されているコーヒーを通じた世界の歴史と文化、さらに生産、流通やもとなるコーヒー豆の栽培など、コーヒーに関連する社会的状況を多様な角度で考える。 本授業では、コーヒーにかかる抽出や焙煎、化学や健康等について講義する。	
		地学実験	わが国日本海側のほぼ中央に位置する金沢には、約2000万年前に始まる日本海の形成から現在にいたるまでの自然環境のうつりかわりが地層の中に記録として閉じこめられている。 本授業では、金沢の恵まれた地質資産を存分に活かし、これらの地層が分布する場所を実際に野外実習で訪れたり、自分で採集してきた岩石や化石を、実験室の中で顕微鏡を用いてさらに細かく観察したり、分析用試料を作成したりすることで、金沢の自然環境の地質学的なうつりかわりを理解するとともにいまの自然環境について考えることを目的とする。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	自由履修科目	生物学実験	本授業では、現在、生物がどのように分類されているか、それはどのような基準に基づいて行われているか等、細胞や動物・植物などの個体や組織・器官の観察、細胞が行う化学反応の観察、生態系や共生・寄生といった生物間の相互作用などを通して、生物の構造と機能の関係、生物集団の特性等を理解するとともに、さまざまな進化段階にいる生物を材料にすることで、授業で観察している材料が全生物界の中で、どのような進化的位置にいるのかを理解することを目的とする。	
		海洋生化学演習	生化学実験では、既存の操作方法を重視し、原理をあまり理解しないで実験を行う学生が多い。しかし卒業論文実験では、既存の方法だけでは成功しない例が多い。 本授業では、海藻、海産魚及び海産無脊椎動物を用いて、タンパク質及び遺伝子レベルの両面から実験を行うとともに、特に原理を重視した教育・指導を行い、実験の原理を理解し、実験を進めるという姿勢を習得させることを目的とする。	
		英国諸島の地史Ⅰ	英国諸島は近代地質学の発祥の地として知られる。初期の地質学では英国諸島を舞台に数多くの地質学的基本概念や用語が提唱され確立されてきた。そのため英国諸島は地史学の基礎を学ぶには絶好の材料を提供してくれる。 本授業では、約25億年前から現在にいたるまでの英国諸島の地史を、それぞれの時代の自然環境や生物などを中心に論じるとともに、地球の歴史を包括的に理解し、その延長上に人類の誕生とその進化について考える機会を提供し、英国諸島の地史の学習をとおり、地球の歴史を総合的に理解するとともに、人類の誕生や進化についての理解を深めることを目的とする。 「英国諸島の地史Ⅰ」では地球の誕生から古生代までをおもに取り扱う。	
		英国諸島の地史Ⅱ	英国諸島は近代地質学の発祥の地として知られる。初期の地質学では英国諸島を舞台に数多くの地質学的基本概念や用語が提唱され確立されてきた。そのため英国諸島は地史学の基礎を学ぶには絶好の材料を提供してくれる。 本授業では、約25億年前から現在にいたるまでの英国諸島の地史を、それぞれの時代の自然環境や生物などを中心に論じるとともに、地球の歴史を包括的に理解し、その延長上に人類の誕生とその進化について考える機会を提供し、英国諸島の地史の学習をとおり、地球の歴史を総合的に理解するとともに、人類の誕生や進化についての理解を深めることを目的とする。 「英国諸島の地史Ⅱ」では、中生代から現代にかけてを取り扱う。	
		環境動態学概説Ⅰ	本授業では、地球環境とその動態、すなわち時間と空間のさまざまなスケールにおける地球環境の変動を理解するため、グローバルテクトニクスの基礎とそれに関連する地震、津波、火山噴火などの自然災害についてまず解説する。ひきつづいて地下資源や気候変動といった地球環境にとって喫緊となっている話題に触れる。さらに、人類を現在の地球生物圏を支配する一動物としてとらえ、その誕生から進化の過程を説明することで、プレート・テクトニクス理論とそれにとりまうさまざまな地学現象や自然災害、地下資源、海洋環境変動、ヒトの進化と本質、などをこの講義をおしてまず理解し、そのうえで、その理解にもとづき、地球上に存在するさまざまな環境の時間と空間の中での動的変化の実態を考えることを目的とする。 「環境動態学Ⅰ」ではプレートテクトニクスとそれにとりまう自然災害問題を主に扱う。	
		環境動態学概説Ⅱ	本授業では、地球環境とその動態、すなわち時間と空間のさまざまなスケールにおける地球環境の変動を理解するため、グローバルテクトニクスの基礎とそれに関連する地震、津波、火山噴火などの自然災害についてまず解説する。ひきつづいて地下資源や気候変動といった地球環境にとって喫緊となっている話題に触れる。さらに、人類を現在の地球生物圏を支配する一動物としてとらえ、その誕生から進化の過程を説明することで、プレート・テクトニクス理論とそれにとりまうさまざまな地学現象や自然災害、地下資源、海洋環境変動、ヒトの進化と本質、などをこの講義をおしてまず理解し、そのうえで、その理解にもとづき、地球上に存在するさまざまな環境の時間と空間の中での動的変化の実態を考えることを目的とする。 「環境動態学Ⅱ」では地下資源とヒトの問題を主に扱う。	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 教育 科目	Pythonデータ分析入門	近年の情報化社会において、人工頭脳の発展もあり、一般社会においてもデータを分析する機会が増えている。日常生活にも、様々なシステムが利用されており、様々な多くのデータが蓄積されている。データ分析を行うことで、集まったデータをもとに推測したり予測を行い、物事の因果関係を分析したり、シミュレーションを行うことが可能になる。 解析した内容から、アイデアを生み出したり、ある仮説を立てたり、マーケティング等に利用することで、企業のビジネスに活かせることも多い。それに伴い、多くのデータから何かを導こうとするデータサイエンスの存在感が増してきている。 本授業では、プログラム言語としてPython言語を利用して、サンプルデータを用いて、データ分析の実習を行い、データサイエンティストの基礎的な知識を身につけることで、Python言語の基礎的な知識を理解し、データ分析を行うことが可能となり、ビッグデータの扱い方、データ分析手法、データサイエンティストの基礎的な知識を身につけることを目的とする。	
	プレゼンテーション演習A	現代社会では、自分の主張を分かりやすく表明し、人に伝えるプレゼンテーション技術は、必要不可欠なものである、社会全般の普遍的スキルといえる。 本授業では、プレゼンテーションを必要とされる様々なシチュエーションを課題として準備し、プレゼンテーションの準備と発表を学ぶことで、プレゼンテーションを行うための基礎的な理論・知識を獲得し、プレゼンテーションの準備・実践が可能となることを目的とする。	
	プレゼンテーション演習B	現代社会では、自分の主張を分かりやすく表明し、人に伝えるプレゼンテーション技術は、必要不可欠なものである、社会全般の普遍的スキルといえる。 本授業では、プレゼンテーションを必要とされる様々なシチュエーションを課題として準備し、プレゼンテーションの準備と発表を学ぶことで、プレゼンテーションを行うための基礎的な理論・知識を獲得し、プレゼンテーションの準備・実践が可能となるとともに、PowerPoint等を使用したプレゼンテーション用資料の作成スキルの獲得や様々なシチュエーションに合わせたプレゼンテーションを準備・実践ができることを目的とする。	
	コンピュータグラフィックス演習Ⅰ	コンピュータで扱える所謂「画像ファイル」は、図表の形態としてポピュラーなものとなっている。 本講義では、コンピュータで扱う画像「コンピュータグラフィックス」についての基礎知識を学習し、その作成・活用について学ぶ。 コンピュータグラフィックスの作成実習は、Adobe Illustrator を使用し、テキストに掲載された作例を実際に製作することで操作の基本を習得し、その応用により独自の作品を制作する。 プレゼンテーション等、図画を使用して他人との意思疎通を図る場面において、見やすく分かりやすく、かつ印象的な資料作成が行えるレベルを目指す。 コンピュータグラフィックスの基礎やアピアランス、文字とフォント等について講義する。	
	コンピュータグラフィックス演習Ⅱ	コンピュータで扱える所謂「画像ファイル」は、図表の形態としてポピュラーなものとなっている。 本講義では、コンピュータで扱う画像「コンピュータグラフィックス」についての基礎知識を学習し、その作成・活用について学ぶ。 コンピュータグラフィックスの作成実習は、Adobe Illustrator を使用し、テキストに掲載された作例を実際に製作してみることで操作の基本を習得し、その応用により独自の作品を制作する。 プレゼンテーション等、図画を使用して他人との意思疎通を図る場面において、見やすく分かりやすく、かつ印象的な資料作成が行えるレベルを目指す。 演習Ⅰで学んだ基礎を基に練習課題を行うほか、3DCADによる作画等を学ぶ。	
	動画配信サービスを用いた情報発信演習A	近年、動画配信サービスを使った様々な番組が作られている。これが情報発信の新しい形として、定着しつつある。 動画配信サービスを運営している事業者、情報メディア以外の各種企業、フリーランスの記者、芸能人、個々人にいたるまで、このサービスを用いて、様々な情報を配信するようになった。 本授業では、この動画配信サービスの仕組みを学び、多くの人に見てもらえる動画を作成、放送する。動画作成では、予め用意された企画書をもとに、コンテンツ作成、実際の撮影・配信をグループ活動で行う。 なお、企画段階に視聴者数や評価に数値目標が設けられているので、それを越えることを目指す。 この作業を通じて、新しい情報発信の方法とそれによって得られる影響について学ぶ。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	自由履修科目	動画配信サービスを用いた情報発信演習 B	近年、動画配信サービスを使った様々な番組が作られている。これが情報発信の新しい形として、定着しつつある。 動画配信サービスを運営している事業者、情報メディア以外の各種企業、フリーランスの記者、芸能人、個人にいたるまで、このサービスを用いて、様々な情報を配信するようになった。 本授業では、この動画配信サービスの仕組みを学び、多くの人に見てもらえる動画を作成、放送する。動画作成では、予め用意された企画書をもとに、コンテンツ作成、実際の撮影・配信をグループ活動で行う。 なお、企画段階に視聴者数や評価に数値目標が設けられているので、それを越えることを目指す。 この作業を通じて、新しい情報発信の方法とそれによって得られる影響について学ぶ。さらに、「単に動画を作れば良い」と言うのではなく、作業毎のアウトカム作成に重点をおき、社会・企業の中で求められている（であろう）、プロジェクト立案・推進の方法も学びます。	
		プログラミング演習 I	本授業では、Perlを使ったWebプログラミングを中心に、スクリプト言語のプログラミングを実習する。JavaScript 等の言語も多少取り扱う。これらにより、スクリプト言語を使ったテキスト処理、ファイル処理などができるようになることやWebプログラミングだけでなく、実験や研究に活用できるレベルを目指す。 HTMLやCSS, Perl による CGI の基本、インタラクティブ処理等について学ぶ。	
		プログラミング演習 II	本授業では、Perlを使ったWebプログラミングを中心に、スクリプト言語のプログラミングを実習する。JavaScript 等の言語も多少取り扱う。これらにより、スクリプト言語を使ったテキスト処理、ファイル処理などができるようになることやWebプログラミングだけでなく、実験や研究に活用できるレベルを目指す。 サブルーチンや正規表現、JavaScript等について学ぶ。	
		Society5.0 概論	日本政府が謳っているSociety5.0がどのようなものかを理解し、Society5.0に向けた人材になるために必要な知識や技能にどのようなものがあり、どのように身につけていくべきかを考える。 授業はSociety5.0に向けた人材に必要なとされる、さまざまな知識や技能について、紹介していく。	
		英語セミナー	この授業は、英語の文法や語彙をよく理解し、実生活の中で英語を学ぶことに興味のある学生を対象とし、一般的なトピックについて英語で意見を交換できるようになることと目標とする。 授業では、意見を伝えるためだけでなく、他者と同意したり反対したりするためのフレーズや表現を学び、学んだ表現等のテクニックを用いて、導入したトピックについて、ディスカッションする。 題材には、配布物、記事、TEDプレゼンテーションを使用し、様々なトピック、例えば、幸せについて、環境、本、映画、健康とフィットネス、社会問題を取り上げる。 ディスカッションは少人数のグループで行い、全て英語で進行する。	
		ゼミ／アフリカ系人の音楽を通じて知る現代の世界 1	音楽を聞いて楽しみながら、世界のアフリカ系人のありのままの姿に触れ、21世紀の日本の若者に必要な、アフリカについての知識を得、アフリカを総体的に理解する。 たとえばアルジェリア西部に起源をもつポップ音楽「ライ」は民俗音楽という枠を遥かに越えて大変モダンな音楽となり、フランスをはじめとするヨーロッパ諸国でも人気を得、アラブの枠を越えた支持を得ている。日本ではフランス語情報を活用できる人が極端に少ないためにほとんど知られていないため、アラブ理解にもヨーロッパ理解にも支障がでている。 本授業では音楽学的研究・分析は行わず、世界各地のアフリカ系の音楽を主に、特にワールドミュージックとは何かから始め、カリブ海の歴史・現状とその音楽等の視点から、現時点の世界の実情を多様な角度から観察していくことを目的とする。	
		ゼミ／アフリカ系人の音楽を通じて知る現代の世界 2	音楽を聞いて楽しみながら、世界のアフリカ系人のありのままの姿に触れ、21世紀の日本の若者に必要な、アフリカについての知識を得、アフリカを総体的に理解する。 たとえばアルジェリア西部に起源をもつポップ音楽「ライ」は民俗音楽という枠を遥かに越えて大変モダンな音楽となり、フランスをはじめとするヨーロッパ諸国でも人気を得、アラブの枠を越えた支持を得ている。日本ではフランス語情報を活用できる人が極端に少ないためにほとんど知られていないため、アラブ理解にもヨーロッパ理解にも支障がでている。 本授業では音楽学的研究・分析は行わず、世界各地のアフリカ系の音楽を、特にコンゴとリンガラ・ポップやアフリカと日本の世界音楽について、世界音楽の問題等に主点を置き、現時点の世界の実情を多様な角度から観察していくことを目的とする。	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 教育 科目	自由 履修 科目	ドイツ語A（充実クラスⅠ－１） ドイツ語の初級文法の枠組みを理解し、やや複雑な文章を読み書きできるようになる。また、ドイツ語圏の文化の基礎知識を習得する。 本授業では、以下のような文法事項等を学習する。 初級文法の確認、再帰代名詞、zu不定詞、形容詞の格変化、受動態、関係代名詞等	
		ドイツ語A（充実クラスⅠ－２） ドイツ語の初級文法の枠組みを理解し、やや複雑な文章を読み書きできるようになる。また、ドイツ語圏の文化の基礎知識を習得する。 本授業では、主に以下の内容を学習する。 文法事項の確認・練習、ドイツ語テキストの講読・読解	
		ドイツ語A（充実クラスⅡ－１） 話す・聞く練習以外にドイツの生活に関するトピック（趣味、家族、職業、買い物等）を読み進めながら、その内容について（ドイツ語で）話し合い、ドイツ語を話すし、自然なスピードで文章を聞き取る能力の向上を目指す。	
		ドイツ語A（充実クラスⅡ－２） 話す・聞く練習以外にドイツの生活に関するトピック（ほしい物、自分の部屋、家事、好きな食べ物等）を読み進めながら、その内容について（ドイツ語で）話し合い、ドイツ語を話すし、自然なスピードで文章を聞き取る能力の向上を目指す。	
		フランス語A（充実クラスⅠ－１） フランス語の運用能力を養うための、基礎知識の徹底理解と確実な定着を目指す。 フランス語を習得するために、初級での学習項目のうちの最も重要な点に集中して、フランス語知識の基礎固めのための練習を行う。 具体的な学修目標は、以下のとおり。 ・綴り字と発音のルールを身につけ、文字を見て正確に発音できる。 ・基礎的な文法事項を応用し、身近な話題について、基礎的な語彙を使って話をするができる。 ・基本的な構文を理解し、それにのっとったフランス語文を作ることができる。 本授業では、以下の文法事項等について学習する。 フランス語の文字と発音、基本語彙、冠詞、etreとavoir、第一群規則助動詞とfaire、文型SVAとSVO、形容詞、prendre等	
		フランス語A（充実クラスⅠ－２） フランス語の運用能力を養うための、基礎知識の徹底理解と確実な定着を目指す。 フランス語を習得するために、初級での学習項目のうちの最も重要な点に集中して、フランス語知識の基礎固めのための練習を行う。 具体的な学修目標は、以下のとおり。 ・綴り字と発音のルールを身につけ、文字を見て正確に発音できる。 ・基礎的な文法事項を応用し、身近な話題について、基礎的な語彙を使って話をするができる。 ・基本的な構文を理解し、それにのっとったフランス語文を作ることができる。 本授業では、以下の文法事項等について学習する。 第二群規則動詞、direと文型SVOO、代名詞、rendreと文型SVOA、直接他動詞と間接他動詞、複合過去等	
		フランス語A（充実クラスⅡ－１） フランス語による初歩的なコミュニケーションの練習を行う。 フランス語A1/A2の学習内容を復習し定着させることで、初歩的な口頭のコミュニケーション能力をしっかりと身につけることを目指す。授業では、各項目のコミュニケーションパターンや語彙を確認した後に、聞き取りやペアワークによる口頭練習を行う。また、フランスのコミュニケーション文化についても適宜説明する。 本授業では、職業・身分・国籍について、住んでいる所、アルバイト、交通手段、ペット、科目や教科等についてトピックとして取り上げる。 具体的な学修目標は、以下のとおり。 ・綴り字と発音のルールを身につけ、文字を見て正確に発音できる。 ・基礎的な文法事項を応用し、身近な話題について、基礎的な語彙を使って話をするができる。 ・授業で学んだ基礎的な語彙の範囲であれば、ゆっくり、はっきりと話された内容を聞き取ることができる。	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 教育 科目	フランス語A（充実クラスⅡ－2）	フランス語による初歩的なコミュニケーションの練習を行う。 フランス語A1/A2の学習内容を復習し定着させることで、初歩的な口頭のコミュニケーション能力をしっかりと身につけることを目指す。授業では、各項目のコミュニケーションパターンや語彙を確認した後に、聞き取りやペアワークによる口頭練習を行う。また、フランスのコミュニケーション文化についても適宜説明する。 本授業では、家事・余暇・習慣・週末/休暇の予定、地理について、過去について等をトピックとして取り上げる。 具体的な学習目標は、以下のとおり。 - 綴り字と発音のルールを身につけ、文字を見て正確に発音できる。 - 基礎的な文法事項を応用し、身近な話題について、基礎的な語彙を使って話ができる。 - 授業で学んだ基礎的な語彙の範囲であれば、ゆっくり、はっきりと話された内容を聞き取ることができる。	
	中国語A（充実クラスⅡ－1）	A1/A2で学習した文法事項と語彙と文法を再確認し、確実にその内容を身につける。また、中国語によるコミュニケーションの基礎能力の向上を目指し、中国語の学習を通して、言語運用の知識を身につけると共に、背景にある中国文化についての理解を深める 身近なトピックについて会話練習を行い、それぞれのトピックに必要な単語と常用語句の予習を課する。一つのトピックについて二週間にわたってトレーニングを行う。テキスト及び配布資料を学習し、教員及び他の受講生からの質問を受けながら、会話練習を行う。話した内容を文章にまとめ、スピーチにて発表する。 具体的な学習目標は以下の通り - A1/A2で学習した語彙と文法を再確認し、確実にその内容を身につける。 1000語レベルの日常語彙の範囲で標準的な話し方であれば、話題の要点を理解できる。 - 身近な話題について、1000語レベルの日常語彙を使用し、情報や考えなど伝えたいことを話すことができる。 - 中国語検定試験4級合格程度の聴解力を身につける。 本授業で取り上げるトピックは以下の通り。 中国語の発音、キャンパス・学食での会話、コンビニや喫茶店での会話等	
	中国語A（充実クラスⅡ－2）	A1/A2で学習した文法事項と語彙を定着させ、中国語によるコミュニケーションの基礎能力の向上を目指し、中国語の学習を通して、言語運用の知識を身につけると共に、背景にある中国文化についての理解を深める 身近なトピックについて会話練習を行い、それぞれのトピックに必要な単語と常用語句の予習を課する。一つのトピックについて二週間にわたってトレーニングを行う。テキスト及び配布資料を学習し、教員及び他の受講生からの質問を受けながら、会話練習を行う。話した内容を文章にまとめ、スピーチにて発表する。 具体的な学習目標は以下の通り - A1/A2で学習した語彙と文法を再確認し、確実にその内容を身につける。 1000語レベルの日常語彙の範囲で標準的な話し方であれば、話題の要点を理解できる。 - 身近な話題について、1000語レベルの日常語彙を使用し、情報や考えなど伝えたいことを話すことができる。 - 中国語検定試験4級合格程度の聴解力を身につける。 本授業で取り上げるトピックは以下の通り。 居酒屋・中華料理屋での会話、タクシー乗り場、電車の中での会話、電話をかける、温泉旅行について等	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	学域GS科目	イノベーション基礎	「経済の発展は、経済の循環とは性質を異にするもので、そこには循環に見られる連続的な均衡状態はなく、非連続的・断絶的な様相を呈する」という前提のもと、いかに現在の社会経済においてイノベーション創出が重要であるかを受講者全員で認識する。その上で、顧客創造、新市場開拓、市場拡大、異業種参入など、複数の事例をもとにイノベーション創出の概念や仕組みを理解する。	
		数理・データサイエンス基礎及び演習	関心のある問題についてのアンケート調査及びその調査票を設計し、実際にアンケート調査を実施する。そして、python もしくはエクセルなどを用いて、収集したデータを集計し、その構造を分析する。さらに、対象とした問題に関連する要因を特定したり、問題の仮説を統計的に検定したりすることで、データの総合的な分析を行う。最後に、分析結果をパワーポイントを用いて発表し、受講者同士で互いに議論する。 (オムニバス/全15回) (11 小俣正朗/7回) 微分積分、線形代数学、合成関数、逆関数の微分、2変数関数、行列演算、逆行列・行列式、行列の階数とベクトルの独立・従属、連立一次方程式の解法 (4 中山晶一郎/8回) データの収集とアンケート調査設計・実施、データサイエンスの最新応用例、データサイエンス基礎の復習(相関と回帰分析)、データを集計し、データの構造を探る、リスクを評価する、データの関連を探り、問題の要因を特定する、仮説を統計的に検定する、分析結果発表会	オムニバス
	学域GS言語科目	学域GS言語科目Ⅰ/海外実践英語	The goal of this course is for students to improve general English skills including reading, writing, discussing, and presenting. This course will focus on group work and activities by analysing and researching a topic in order to improve reading and writing. It will also focus on discussions in class in order to complete presentation assignments. この授業は読む、書く、議論する、発表するなどの英語能力を伸ばすことを目標とする。授業では、グループワークとアクティビティを通じて、トピックを分析・調査し、リーディング、ライティングの能力を向上させる。また、プレゼンテーションの課題を完成させるために、授業の中でのディスカッションにも力を入れる。	
		学域GS科目Ⅱ/時事・学術英語	This course aims to provide students with the writing skills they need to write a dissertation. It is practical, providing students with the opportunity to develop drafts which they will then polish. We will explore the process of written communication across a range of genres in contexts with appropriate English grammar. この授業は、学術論文を書くために必要なライティングスキルを身に付けることを目標とする。草稿を作成し磨き上げることにより、よりよい文章を作成する機会を、学生に提供する。幅広いジャンルに渡る内容について、適切な英文法を用い、文書によるコミュニケーションのプロセスを探究する。	
	先導実践科目	アントレプレナー基礎	本学の教員や企業の方々による講義を通して、「イノベーションとは」から始めて、産学官連携とは、知的財産と特許とは、さらにベンチャー育成と企業化とは までを理解し、大学におけるアントレプレナー精神の育成を目的とする。座学と合宿(1泊2日)で構成し、座学においては「アントレプレナーの勧め(外部講師)」「アイデア、課題への気づき・見つけ方」「資金、財務、法務」等を学び、合宿では同じ志を有する他者との交流を図ると共に、地域住民との交流や社会活動を通じて地域社会の中における自身の在り方、就業観を養う。	共同
		アントレプレナー演習Ⅰ	本演習は、アントレプレナーの基礎となる「課題発見・問題設定能力」の涵養について、集中的に学ぶ。具体的には、グループ別に身近な大学などの足元の課題を見つけ、その解決に向けた問題設定の能力構築を進めていく(「足元ベンチャー」)。そのための課題発見の方法やグループ内及びグループ間相互のピアレビューを通じた課題や問題の「決り方」について各種手法を交えながら深掘する。さらに、日本の伝統芸能やLocal Wisdomから示唆を得ながら、「伝える力」の涵養を通じて、今後のアントレプレナーとしての全人的成長を目指す。	共同

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	先導実践科目	アントレプレナー演習Ⅱ	チームに分かれ、複数の分野にわたるケーススタディを通じた演習授業を行う。アントレプレナー演習Ⅰの基礎編で学んだ「課題発見・問題設定能力」を前提に、本演習の応用編では、「つなぐ力」と「システムメイキング」の涵養を目指し、具体的な事例を通じて方法論を体得するとともに、技術やノウハウの組合せ、持続可能なシステムメイキングについて、具体的な事例を演習のなかで活用しながら、その方法論の体得を目指す。アントレプレナーとして社会を変える力や変化を先導する力について、実践を通じて学ぶための演習である。	共同
		デザイン思考	現在のテクノロジーの産業界（情報・通信、材料等）を例に、設定する課題に対してのアプローチ法やコミュニティデザイン、情報デザインの基礎的な思考法や発想法を身につける。	共同
		デザイン思考演習	デザイン思考を用い、実際に人工物のデザインに限らず、情報、コミュニティ・組織のデザインに範囲を拡張し、サービス、ヘルスケア、都市計画と防災、人材育成（教育）など広範囲のデザイン実践をグループワークにより実践する。	共同
		アントレプレナーインターンシップ	本授業では、実践的インターンシップを標榜し、成果物と評価の内実を確保する。この前後に、社会の最新動向や（チーム別も含めた）インターンシップの学修成果を上げるための事前・事後指導を行い、コア・コンピタンスや派遣先の課題を捉えた「仮説構築」も学ぶ。	
		アントレプレナーコンテスト／リーダー養成	ビジネスプランの作成に向けた講義とグループワークにより、実際にビジネスプランを作成する。3年次と4年次の多学年合同開講形式とする。金沢大学や石川県が主催するアントレプレナーコンテスト、ビジネスコンテスト等への応募・出展に向け、本学類独自のコンテストを行い、グループワークを通じ共創性を涵養させる。	
		アントレプレナーコンテスト／実践リーダー	ビジネスプランの作成に向けた講義とグループワークにより、実際にビジネスプランを作成する。3年次と4年次の多学年合同開講形式とする。金沢大学や石川県が主催するアントレプレナーコンテスト、ビジネスコンテスト等への応募・出展に向け、本学類独自のコンテストを行い、グループを主導するリーダーシップや主体性を涵養させる。	
	先導コア科目	AIと未来社会	本講義では、まず AI を導入することで問題が解決・改善された事例を紹介し、その後各自が、現在運用されているシステムを調査し、その問題点と AI を利用することでどのように問題解決が図れるか、また、AI を利用するために必要な情報やその取得方法などを考察し、プレゼンテーションを行う。	
		シェアリングエコノミー	シェアリング社会という新しい技術・ビジネス・経済システムの胎動を理解し、その基本構造と可能性を考察する。現代社会の原理を大きく変えつつあるシェアリングエコノミーとその基礎となっている技術、および、シェア経済による社会変化の影響について学ぶ。	
		現代社会を知る	現代社会の仕組みを学び理解するとともに、現代社会における様々な問題を知ること、学生自らが社会課題に関心を高めていく。また、授業の最後にはそれらの社会課題を自分ごととしてとらえることにより具体的な検討課題へと発展させ、その後の学びの段階につなげていく。 (オムニバス/8回) (② 尾島恭子/4回) ガイダンス／現代社会における諸課題、学校教育を中心とした現代社会が抱える教育課題、消費者の視点からみた現代社会と暮らしの変化、まとめ／社会の課題を自分の課題に - 授業で学んだ様々な課題に対する解決策・予防策を検討 (⑤ 寒河江雅彦/1回) 現代社会を考察するための情報分析に向けた統計的解析 (④ 大友信秀/1回) 知的財産権を中心とした生活と法の関わり (⑬ 西脇ゆり/1回) 海洋プラスチックごみ問題を中心とした環境問題の現状 (③ 宮地利明/1回) 医療や健康に関わる地域福祉の現状と課題	オムニバス

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	先導コア科目	社会循環コアエリア	社会変動と労働生産性	新しい科学や技術は社会を変え、以前できなかったことをできるようにする一方で、それは予期せぬリスクに転化する可能性もあり、その過程で全く新しい変化を生じさせる。この社会変動のダイナミクスの中で、現代は工業社会という一つの時代全体の創造的破壊の過程にある。労働、生産、価値といった概念も、従来とは全く異なる考え方や基準で評価しなければならなくなっている。そのような社会的変化の影響について、主に経済学や科学技術のアプローチから学び、現代社会を生き抜く視点を養う。 (オムニバス/8回) (⑧ 金間大介/1回) イノベーションと社会変動 (⑬ 田邊 浩/1回) リスク社会論 1：再帰的近代における雇用と労働 (⑭ 高沼理恵/2回) リスク社会論 2：企業コンサルティングによるリスクヘッジ、外国人労働力と生産性 (⑨ 藤生 慎/1回) 生産性を測る (⑯ 澤田 幹/1回) 現代企業の労務管理 (⑰ 白石弘幸/2回) 限界費用ゼロ社会、ポスト雇用社会	オムニバス
			フィンテック基礎とビジネス応用	FinTech とは、「Finance（金融）」と「Technology（技術）」を融合させた造語で、IT（情報技術）を駆使した新しい金融サービスである。「モバイル端末での決済サービス」、「資産運用アドバイス」「膨大なビッグデータの解析」「人工知能を使った自動対応」「家計簿の自動作成」などの金融イノベーションについて理解する。日本のフィンテックの動きについて、具体的な事例を通して、企業会計、資金調達、決済、金融機関での活用方法を理解する。 (オムニバス/全8回) (⑯ 澤田幹/4回) 資金調達、企業会計、事例研究、まとめ (⑰ 白石弘幸/4回) 概要、決済、金融活用、事例研究	オムニバス
			超スマートシティと Society 5.0	我が国が目指すべき未来社会であるsociety 5.0 を踏まえて、超スマートな都市（スマートシティ）やそれを支えるテクノロジーについて学ぶ。このような未来都市や未来の生活、そのためのテクノロジーを学ぶことで、未来に必要とされるモノやサービスについて考えることができるとともに、それらについて先駆けて商品化やサービス化を進めることができるようになることを目指す。 (オムニバス/全8回) (⑬ 西脇ゆり/3回) スマートグリッド、HEMSとエネルギー効率化、資源循環マネジメント (⑭ 中山晶一郎/5回) Society5.0とスマートシティ、スマートモビリティ、物流効率化、スマート・インフラ、センシング等による安全・安心技術	オムニバス
			消費生活論	社会経済環境の変化の中での消費生活の変容や消費者問題の発生など、消費生活に関わる基礎的な知識を学ぶ。そのうえで日常の暮らしの中の身近なテーマを取り上げ検討し、消費者の視点から暮らしを分析する力を養う。	
			倫理学	個人と社会の実践的な倫理的問題を、客観的に分析し道徳的に判断する、という応用倫理学の基本的な考え方を、具体的な事例を手がかりにして学ぶ。生命、工学、企業における倫理等を具体的なケースを基にして学ぶ。	
			ファイナンス基礎	本講義では、ファイナンスの基礎と概要を講義する。社会人にとって、ファイナンスの理論がビジネスの基礎になっている。また個人でも、株式投資や年金運用のためにはファイナンスの知識や思考が必要となる。本講義では、金融取引や証券取引、将来価値と現在価値の概念、債券と株式について学ぶ。この科目はファイナンス関連科目の基礎となる。	
			世界共創コアエリア	異文化理解とキャリア開発	国際的にも活躍可能なリーダー／アントレプレナー／イノベーターに必要な能力として、異文化理解に基づいたコミュニケーションスキルをつけつつ、将来のキャリアについて検討し、次の学修スキルを修得する。 ・国際的な視野をもち、異文化理解を深めることができる。 ・異文化理解に基づくコミュニケーションスキルに関心が持てる。 ・将来のキャリア形成を考えることができる。
	国際世界と特許	経済を規制している法制度が各国の政治バランスの結果であること、その中で民間企業がどのように経済活動の自由を確保しているかを、特許に関する法制度を中心として学び、次の学修スキルを修得する。 ・国際経済と国際政治の関係が理解できる。 ・国際経済が国家連合の考え方で動いていることが理解できる。 ・国際的ビジネスを行う際の将来予測・それへの対応が可能になる。			

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	先導コア科目	世界共創コアエリア	グローバリゼーション	オムニバス
			グローバリゼーションの事例としては、資本主義や経済特区を採用した新興国が他国の産業や文化を自国の発展に活用する動きが挙げられる。一方で、資本力の高い多国籍企業の進出により、自国の産業や農業の停滞や環境汚染問題の発生等、その課題も多い。本科目では、グローバリゼーションを取り巻く多様な概念や今後の展開について、最新のトピックスや具体的な事例をもとに学修する。 (オムニバス/8回) (⑫ 石崎有澄美/4回) グローバリゼーションと国際開発協力(国家・産業界)、グローバリゼーションと人間の安全保障、グローバリゼーションと健康・医療、まとめ(21世紀のグローバリゼーション) (⑭ 高沼理恵/4回) ガイダンス/グローバリゼーションとは、資本主義経済の拡大とそのインパクト—ASEANやBRICS諸国など新興国市場の拡大と日本市場の縮小、グローバリゼーションと留学生教育、グローバリゼーションと文化の活用	
			ダイバーシティ促進	
			国籍、性別、年齢、雇用・就業形態や多様な価値観や働き方を受け入れた社会として、ダイバーシティやインクルージョンの意義を理解するとともに、今後の展開について実践的に学ぶ。 なお、授業ではダイバーシティの推進事例について、学生が自ら調べ検討し発表する活動を取り入れる。	
			国際協力体制	オムニバス
			国際社会における経済を円滑に循環させるにあたって構築された国際開発援助の理論や体制を学び、国家における経済の在り方やそれを支える人材と言語、国家と民間の役割の差異や人材支援について理解する。 ・国際経済の安定が国家の安定に繋がることを学ぶ。 ・ODA, OECD, 世界銀行やIMF など、国家や国際機関による国際開発と協力の仕組みを理解する。 ・NGO やソーシャルビジネス等の民間による国際開発貢献活動を理解する。 (オムニバス/8回) (⑩ 河内幾帆/4回) ガイダンス/国際経済安定の必要性・国際共助の歴史(概観)、持続可能な開発目標(SDGs)と人材育成、国際開発の担い手: 経済協力開発機構(OECD)・世界銀行・IMF, 民間からの担い手: NGO/ソーシャルビジネス他 (⑫ 石崎有澄美/2回) 国際協力の担い手: UNESCO・WHO・外務省, まとめ(21世紀の国際協力体制) (⑪ ダガンささの/2回) 開発・経済と人材・言語、国際援助の担い手: 日本のODA・JICAと人材派遣	
			人の流動と定着	オムニバス
			国を構成する要素である「人」が、世界各地を移動することで社会がどのように変化するか、「人口」、「人種」、「疾病(感染)」というものの社会に与える影響を学修する。これにより、将来の社会変動や人の移動を予測し、それに対応したり備えたりする能力を涵養する。 ・人類の移動の歴史を知る。 ・我が国の人口推計の概要を知る。 ・人の移動が社会に与える変動とその調整法について学ぶ。 (オムニバス/8回) (⑫ 石崎有澄美/4回) 国家と国際移民(1): 国民国家と移民/安全保障/富と税、人の流動と疾病(1): 人の移動と感染・予防、人の流動と疫病(2): コロナ禍に見る世界と人、まとめ(21世紀の人の流動) (⑩ 河内幾帆/4回) ガイダンス/世界の変化と人類の移動の関係(グローバリゼーション、開発、移民)、移動の形態: 強制的/中間的/自主的/労働需要的、国家と国際移民(2): 移民と定住/人種差別/多文化主義、アジアの移民・日本の移民	
			ビジネスと政治	
			世界各地で誕生する産業トレンドと、それに対する政治の影響を知り、ビジネスの方向性を予測する力をつける。 ・ビジネスに対する政治の影響を知る。 ・政治力に頼るビジネスの弊害を知る。	
			SDGs基礎	
			2015年に国際連合の加盟国で合意されたSustainable Development Goals(SDGs)(持続可能な開発目標)は、貧困・環境・教育・人権等の多分野にわたる17のゴールを含み、今後世界が「持続可能な社会」へ転換していく道筋を示したものである。SDGs達成のためには、企業・政府・市民の能動的な取り組みが必要とされており、そのためにはSDGsの本質的な理解が喫緊の課題となっている。この授業では、自身の現代社会への問題意識を起点に、SDGsが目指す「持続可能な社会」の本質をとらえ、その社会の構築のために有効なアクションを考察する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	先導コア科目	世界共創コア マーケティング基礎	マーケティングとは、単なる販売活動のことではない。その目的は「顧客に幸せになってもらうこと」である。この授業においては、「マーケティングとは何か」ということを中心に、マーケティングの概念と基礎理論、市場構造・競争要因の概念など、企業のマーケティング行動を理解するための基礎的な知識について習得する。	
		社会的な視点から見る医療	この講義は文系・理系を問わず、初学者として日本と世界の医療の全容を理解できるように解説する。講義を通して、医療の歴史、世界の医療の特徴、様々な医療技術、医療における生命倫理と法規制・政治・経済などに関して探究して貰いながら、医療におけるイノベーション及びグローバル化と課題について討議する。 (オムニバス/8回) (③ 宮地利明/4回) ガイダンス：医療とは（医学と医療の違い）、世界の医療ヒストリア：西洋医学と東洋医学、医療機器の基礎と先端技術、発表会：諸外国の医療の特徴について調べてみよう。 (9 河崎洋志/2回) 日本と世界のヘルスケアシステム、医療におけるイノベーション及びグローバル化と課題 (20 高松博幸/2回) チーム医療と生命倫理、医療における法規制・政治・経済	オムニバス
		生命科学の視点から見る医療	この講義は文系・理系を問わずに幅広いの人が、生命科学・医学の面白さを理解できるように、最先端医学を題材としながら、医学の基本から応用までを解説する。これらの講義を通じて、差し迫る医療問題を解決しうる未来型医療、またそれにつながるメディカルイノベーションを考える機会とする。 (オムニバス/8回) (9 河崎洋志/4回) 自分の身体の仕組みを知ろう、脳の信号と怖い怖い心筋梗塞、身体の司令塔・脳の働きと脳卒中、アルツハイマー認知症、発表会：今、求められる医療とは？未来型医療について考えよう。 (③ 宮地利明/2回) 日本人の1/3はガンで亡くなる。胃カメラの開発秘話、近未来の医療：ゲノム診断とゲノム医療、遠隔医療、AI診断 (20 高松博幸/2回) 甘い物の食べ過ぎは要注意・血糖値のコントロールと糖尿病、近未来の医療：iPS細胞と再生医療	オムニバス
		未来医科学	AI、ロボット手術、ゲノム医療・再生医療、VR/AR、ITを用いたデジタル治療、PHR(パーソナルヘルスレコード)などの最先端医療技術の知識を修得したうえで、技術的、生命倫理的、法律的、経済的な多面から、社会変革をおこすようなプロジェクトを考える。	
		人工知能	人工知能の歴史と、基本的な知識の表現手法や知能を実現するための学習手法などについて、それらの概要を理解し適切に応用できる能力を身につけることを目的とする。 まず、人工知能のこれまでの変遷について学修する。その後、知識を計算機で扱うための知識表現方法と知識表現を用いた推論について学修する。また、基本的な機械学習手法について学修する。	
		世界の課題と技術トレンド	本授業では、現在どのような技術や手法が研究・開発されているかを知り、将来技術が実用化されることで現在問題となっている課題がどのように解決されていくかを予測・考察する。これらの考察を通して、課題に対して必要な技術と実現方法を考えることができるようになることを目的とする。	
		IoT技術	家電やインフラなどに設置されたセンサ情報を、ネットワークを通して収集し活用するIoT(Internet of Things)が広く普及しつつある。本科目では、IoTの変遷、仕組みやIoTを取り巻く技術を解説し、さらに応用事例を知ることで、IoTを利活用するための基礎的な知識を理解することを目的とする。	
		数理統計学基礎	データサイエンス、機械学習やAIの理解のためには、データサイエンスや統計を概念的にだけでなく、数理的にも理解する必要がある。数理解の理解のために、文系高校数学の知識を前提として、期待値や分散等のデータサイエンス基礎の復習、確率の諸法則、統計に必要な確率分布、統計的推定・検定の基礎を数理的に学ぶ。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	先導コア科目	科学創発コアエリア	世界変革技術論	世界を変えた／変えるテクノロジーとはどのようなものかを考えるためにはそのような視点や考え方が必要であろう。そのための技術論を学ぶとともに、過去に世界を変革したテクノロジーについて、調査して、なぜそのテクノロジーは世界を変革することができたのかの要因などを考察する。 (オムニバス/8回) (4 中山晶一郎/5回) 経済的な合理性、人間の認知とユーザーの視点、複雑な社会とシンプルなデザイン、世界変革技術の調査1(変革的技術の調査)、世界変革技術の調査2(世界的普及の要因調査) (18 小田桐拓志/3回) 技術の社会的構成、パラダイムシフト、技術者倫理	オムニバス
			テクノロジー基礎	現在新たに普及しつつある新技術や最先端のシステム、また、現在研究中のものやプロトタイプが試験運用されているものの中では、数多くの最先端テクノロジーが利用されている。この授業では、各種最先端テクノロジーの概要や応用事例を学修し、そして最先端テクノロジーの概要や基本的な原理を学修する。また、最先端テクノロジーによって、様々な問題がどのように改善されていくのかを知ることで、新たなシステムの構築やさらなるテクノロジーの発展について考える。 (オムニバス/8回) (6 佐藤賢二/4回) テクノロジー基礎について、バイオテクノロジー、ICT、まとめ (9 藤生慎/1回) IoT (23 唐島成宙/1回) 医工学 (30 飯山宏一/1回) ナノテクノロジー (13 西脇ゆり/1回) 環境テクノロジー	オムニバス
	先導学知科目		マーケティング論	マーケティングとは、企業と市場の関係を体系的・科学的に把握し、効率的な企業活動を実現しようという、実務的な学問である。その基本体系について講義を行う。 この講義においては、「マーケティングとは何か」ということを中心に、マーケティングの概念と基礎理論、市場構造・競争要因の概念など、企業のマーケティング行動を理解するためのベーシックな知識について説明する。	
			経営管理論	「効率性」「人間性」「社会性」「柔軟性」をキーワードに、経営管理理論の潮流を歴史的に整理し、その変遷をたどるとともに、現代におけるそのめざすべき方向を探るため、次の学修内容を学ぶ。 ・資本主義企業とその経営管理 ・組織と管理 ・科学的管理法の展開 ・フォード生産システムと経営管理 ・人間関係論と行動科学の展開 ・労働の人間化とQWL (Quality of Working Life) ・フレキシビリティ追求と経営管理 ・CSR (企業の社会的責任) と経営管理	
			国際経営論	この講義では、国境を越えて企業活動を行っている多国籍企業のマネジメントの仕組みを学ぶ。 講義の前半では、日本の国際経営の現状を、これまでの歴史経過を踏まえてとらえるとともに、諸外国の動向との比較を通じて学ぶ。また後半では、人事やマーケティング、開発・生産・販売などの機能別マネジメントの国際化に焦点を当てて学ぶことによって、国際経営を総合的かつ体系的に理解することを目指す。	
			管理会計論	管理会計は、会計データや会計以外の様々な物量データを利用して、組織マネジメントの一躍を担う手法である。 組織が一定以上の規模となると、経営トップは組織全体をマネジメントできないため、ミドル・マネジメント層に権限・責任を委譲して組織のコントロールを図る。こうした手法の一端が管理会計として知られているものである。 この講義では、以下のような管理会計手法について、理論と実際の運用についての解説、あるいは計算手法の演習を行う。 ・管理会計の枠組み ・損益分岐点分析 ・予算管理 ・設備投資の意思決定 ・原価企画 ・バランスト・スコアカード	
			ESG投資	ESG投資は、従来の財務情報だけでなく、環境 (Environment) ・社会 (Social) ・ガバナンス (Governance) 要素も考慮した投資のことを指す。気候変動などを念頭においた長期的なリスクマネジメントや、企業の新たな収益創出の機会 (オポチュニティ) を評価するベンチマークとして注目されており、ESG投資を中心に金融についての基礎的な知識を学ぶ。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	先導学知科目	生活デザイン論	生活者の立場に立って様々なモノ・コトをデザインする力を養う。具体的には自身のライフデザイン（生活設計）、居住デザイン、服飾デザインなど生活に身近なものや、普段使用する道具のデザインなど、生活に関わるさまざまなレベルのデザインを学ぶ。	
		創業支援論	現代経済では、創業の支援は専門的な職種の1つとなりつつある。その中身は、エンジェルやベンチャーキャピタルといった投資環境、ビジネス・インキュベーターと呼ばれる施設や支援サービス、大学によるベンチャー育成、地域金融機関等による創業計画支援など様々であるが、本講義では支援者の目線から創業支援の全体像を学ぶことで、創業に必要な枠組みや手続き等を体系的に理解し、実践へとつなげる道筋をつける。	
		知的財産法	特許法と産業財産法を中心に、知的財産法を通して「なぜ」と自分で問いかけることができ、その問いかけを自分の力で解決できるように、アクティブラーニングによる講義を行う。また、小レポートを数多く作成することで知識の定着と応用力の養成を図り、アウトプットの重要性を認識する。	
		イノベーション・マネジメント	ITを中心とした経済社会、特に経営の分野においてイノベーションの役割はますます大きくなっている。新しい製品やサービス、新しい経営手法、新しい組織やプロセスなどを創り出すことで、イノベーションは企業や自治体、国の成長を支えている。そこで、新製品/新サービス開発・普及、顧客創造、新市場開拓、異業種参入など、複数の事例をもとにイノベーション創出の概念や仕組みを理解する。その上で、各受講者が展望する将来像に対し、どのようなシーズが必要で、またどのように実現していくかについて、「経営デザインシート」等の多様なフレームワークを活用することで体得する。また、マネジメントという観点から、ビジョン・メイキングや組織作り、人材育成まで踏み込んだ実践的な内容も盛り込み議論を進める。	
		需要予測	集めたデータから、トレンド・傾向変動、季節変動、周期・循環変動などを抽出するための移動平均・自己回帰など時系列分析の基礎を学ぶ。データから統計的に需要を予測することは重要であるものの、新しい商品やサービスの需要については過去のデータがない。類似商品や類似行動のデータやSPデータ（顕示選好データ）から、購買や行動の要因を抽出し、それをもとに需要量を推定する手法について学ぶ。さらに、交通需要予測・電力需要予測など実際の需要予測についても学ぶ。 オムニバス方式（全8回） （⑤ 寒河江雅彦/4回）はじめに、傾向変動と移動平均、季節変動・周期変動、その他の時系列分析 （④ 中山晶一郎/4回）離散選択モデル、離散選択モデルのパラメータ推定、離散選択モデルによる需要予測、商品・電力・交通需要予測	オムニバス
		情報ネットワーク	現代社会の基盤となっているコンピュータネットワークについて、次の学修内容によりそのアーキテクチャにおける階層化の概念を理解すると共に、プロトコルの基礎を学び、LAN、インターネットなどの仕組みを説明できるようになる。 1. オリエンテーション、情報ネットワーク概説 2. ネットワーク概説と基本事項 3. デジタル伝送技術の基礎 4. ネットワークアーキテクチャ 5. ローカルエリアネットワーク 6. インターネットの発展 7. IPネットワーク 8. トランスポート層、アプリケーション層	
		データベース論	情報が氾濫している現在、それらを管理・活用することは非常に重要である。さらに、例えばセンサやIoTなどによって収集される様々なデータの管理において、データベースは現在のシステムでは必須となっている。本講義では情報管理のためのデータベースの役割とデータベースの設計・構築・管理手法について解説する。	
		プレジジョンメディシン	新薬は、世界の人々の健康に大きく貢献するが、長い場合には20年以上の研究開発期間と莫大な費用を通じて誕生するという、他の製品とは全く異なる商品である。本授業ではまず、なぜこのように新薬創出には多大な投資が必要か、どのような医薬品が使用されているかについて解説する。また、ジェネリック医薬品や一般用医薬品、ライフサイクルマネジメントによる医療やドラッグデリバリーシステムなど、新薬以外の医薬品の存在意義を解説する。そして、このような医薬品に関する現状の理解を通じて、医薬品に今何が求められているか、創薬に何が必要かについて考える。	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 教育 科目	テクノロジーと医療・健康・介護	この授業では医療・健康・介護における先端テクノロジーの全容を理解できるように解説する。最初に医療・健康・介護における先端テクノロジー開発の歴史を紹介し、続いて臨床検査、画像検査、遺伝子検査における先端テクノロジーを学んだ後、治療、健康増進、介護福祉のための先端テクノロジーについて理解する。最後に未来の医療・健康・介護のために開発・実用化・普及すべき先端テクノロジーについて討議しあう。	
	プランニング最適化	様々なモノやシステムのプランニングやデザインの際にはそれらについての最適化が必要となる。数理最適化やプランニング数理の基本的な考え方を修得し、都市システムをはじめとするプランニングや最適化、デザインにつなげ、次の学修目標を修得する。 1. 線形計画法、非線形計画法、動的計画法の基礎理論を理解する 2. 基礎的な最適化問題を解くことができる 3. プランニングやデザインを理解するための数理的な基礎をつくる	
	比較制度論	政策過程の国際比較と理論考察を通じて、政策過程に対する理解を深める。特に、実証研究の海外文献を複数読み込むことによって、各理論・方法の長所と短所について学び、自身の研究テーマの分析枠組みに適した理論と方法の選択ができるようになることを目指す。	
	地域政策論	イノベーションを発揮する環境条件としての地域社会、地域経済、および地域政策に関する基本的な理論と方法を学ぶ。 現代グローバル化のもとで、イノベーションを集中的に発揮させる地域の役割が注目されている。地域経済・地域政策の世界的な動向を把握し、その文脈の上で、多様な各地域のケースに即して地域政策の現状と課題を評価・検討する。	
	生活環境学	人の生活は、人を取り巻く生活環境との相互作用で営まれているが、人を取り巻く生活環境とは、自然・社会・人文の諸科学が融合した総体である。そこで、本授業は生活者・消費者の視点をもちつつ、よりよい生活環境構築に向けてさらに専門的な知見を学ぶ。	
	心理学概論	心理学の概要を解説する。その歴史から、研究対象、話題、そして今日の研究課題に至るまで、心理学領域のあらましを可能な限り広く、簡潔に紹介する。	
	公共政策論	実際の公共政策を理解し評価するためには幅広い知見を渉猟すること、あるいは狭い領域を究めることが求められるであろう。本講義においては、公共政策にまつわる諸領域の知見をそれほど深くは議論しない。どちらかといえば、深さよりも広さを重視した講義であるといえる。 主として、以下の大きなテーマに沿って話を進める。社会の現状を知るため、日常的に新聞等を読んでもらいたい。 A. ディシプリンとしての公共政策 B. 公共政策とは何か C. 公私関係の変化	
	レギュラトリーサイエンス	医薬品、医療機器の開発・評価に関して必要な臨床研究倫理、法規制の知識を学び、生物統計学を用いた臨床研究デザインの能力を習得し、模擬臨床プロトコル作成や模擬倫理委員会を経験し、実践能力を身に付ける。	共同
	未来型ヘルスケアシステム	WHOで世界一と評価される日本の医療制度も、少子高齢化が進む我が国では、医療経済をはじめ社会的な大きな問題となり、大変革が求められている。何が問題か、解決すべき課題を設定し、政治・経済的、法的、倫理的、科学技術的の多方面からの検討から解決法であるヘルスケアシステムを創出し、その実効性を検討する。	
	都市・交通デザイン	都市や交通システムのしくみについてまず学び、それをデザインするための考え方について学ぶ。それらをもとに、金沢のまちづくりを例に学ぶ。さらに、高度道路交通システムや道路の維持管理などについて学び、以下の学修目標を修得する。 1. 都市のしくみやそのデザインについて理解する 2. 交通システムのデザインについて理解する 3. 高度道路交通システムや道路の維持管理について学ぶ	
	プロジェクト・マネジメント	都市プロジェクトなど様々なプロジェクトを成功させるためには、その工程を適切に管理することが重要である。工程管理手法、品質管理手法、維持管理手法、プロジェクト評価方法などを学び、以下の学修目標を修得する。 1. 工程管理の基本的な考え方を理解するとともに、簡単な工程管理を行うことが出来るようになる 2. 維持管理計画・品質管理計画の基本的な考え方を理解する 3. プロジェクト評価や費用便器分析の基本的な考え方を理解する	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 教育 科目	先導 学知 科目	超高齢化社会と科学技術	少子高齢化が進む我が国では、単なる健康・医療のみだけでなく、社会構造、経済にわたるあらゆる領域での問題が起こっている。一方で、AI, IoT, 診断キット, VR/AR（仮想現実空間）、5G, ロボットなどの科学技術に代表される第4次産業革命が起こっている。これらの科学技術を駆使し、社会的にマッチさせ、超高齢化社会の問題を解決する必要がある。本授業では、超高齢化社会時代の課題を設定し、主として科学技術を駆使した解決法を創出、社会実装する能力を習得する。	
		地域包括ケアと地方創生	少子高齢化や人口減少が進むなか、人々が住みなれた地域で自分らしく暮らしていくための総合的なまちづくりとして地域包括ケアシステムが注目されている。医療・介護の視点を中心に、地域包括ケアシステムが地域の活性化に寄与する点について学修する。各地の先進的な事例を調査し、新しい地方創生の在り方やこれに関連した起業について、産業、交通、住宅やコミュニティの視点も含めて議論する。	
		経営戦略論	多数の日本企業が近年海外メーカーとの関係で競争優位を失った原因には、コモディティ化とこれにともなう低価格競争がある。この講義では、以下の学修テーマに沿って、コモディティ化とはいかなる現象かというその本質、なぜこれが起こるのかという原因、これから脱却するための戦略、事業活動の環境負荷軽減と製品の環境調和特性の意義について取り上げる。 ・薄型テレビ小史 ・価格競争とコモディティ化 ・コモディティ化の原因 ・ものづくりとマーケティングの連携意義 ・ブランドロイヤルティ ・「個人に彫り込まれた」消費 ・ブランドのシグナル価値と環境経営 ・脱コモディティ化と経験価値 ・体験型ブランディングの意義 ・体験型冠施設の本質・意義・形態 ・体験型冠施設の運用における要点 ・企業事例	
		医療制度改革と医療経済	日本の医療制度の現状と課題を理解した上で、欧米など先進諸国やアジア諸国の医療制度と日本の医療制度の違いを調査する。我が国の医療制度改革の取り組みを検証する。AI, IoT を用いたオンライン診療、オンライン服薬指導、パーソナルヘルスレコード（PHR）の導入など新たな取り組みについて学修し、さらなる新しい医療制度改革案を創出、実現可能性の検討をする。これらを通して医療経済の観点から、医療におけるビジネスチャンスについて学修する。（オムニバス/全15回） （① 大竹茂樹/5回）医療経済入門、日本の医療制度とその改革の歴史、欧米諸国の医療制度、アジア諸国の医療制度、医療経済から見た各国の医療制度比較 （23 唐島成宙/5回）新しい医療ツール：オンライン診療、新しい医療ツール：オンライン服薬指導、新しい健康管理ツール：パーソナルヘルスレコード（PHR）、新しい医療・健康管理ツールのアイデア演習1、新しい医療・健康管理ツールのアイデア演習2 （3 米田隆/5回）新しい医療制度改革への提言を議論する1：部分、新しい医療制度改革への提言を議論する2：全体、医療制度改革におけるビジネスチャンスを探る（政治経済的、法律的観点から）、医療制度改革におけるビジネスチャンスを探る（倫理的、科学技術的観点から）、総合討論とまとめ	オムニバス
		アプリ開発	現在、スマホなしでは生活すること自体が難しいぐらいになってきており、様々なビジネス、事業やプロジェクトでも、スマホを活用する場面は非常に多い。スマホを活用したビジネスや事業展開、プロジェクト、さらには、研究などを今後行うことができるように、スマホのアプリのデザイン（設計・プログラミング）を行う。Python(QPython)をスマホにインストールし、簡単なアプリを作成できるようにすることを目指す。	
		機械学習	近年のAIの発展は、機械学習の発展に寄るところが大きい。この授業では、いくつかの基本的な機械学習のアルゴリズムについて学修し、簡単な演習を通して学習が機能することを確認する。また、近年大きく発展したニューラルネットワーク、深層学習手法について、基礎的な要素を学修する。Pythonなどを利用した機械学習の簡単な演習も行う（サンプルプログラムの実行など）。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	先導学知科目	先導数学	線形常微分方程式基礎、フーリエ解析、ラプラス変換を学び、それらを用いて、熱方程式や波動方程式の解法を学ぶ。 本科目は、力学（ニュートン力学）・電磁気学、電気電子回路、人工知能（ディープラーニング）などを学ぶ基礎となる。講義は演習を多く取り入れて学生の理解の助けとする。また、数値シミュレーションを用いて直感的理解にも配慮する予定である。	
		データサイエンス実践	これまでに学んだデータサイエンス基礎、データサイエンス及び演習、数理統計学基礎の知識を活用できる能力を身につけるために、売り上げの予測、店舗の総合的評価、広告効果や消費者の嗜好の統計的な検証を実際に行う。	
		先端医学	私たちの身体は、驚くほどに精巧にできている。本講義では、医学類で使われている資料も用いて、医学を理解するために必要となる素養を作る。また身の回りの親しみやすい題材を使って、身体とその病気の不思議を考えていく。さらに革新的な治療法の開発や新たな科学的イノベーションを起こすために、当時の人々が何を考え何を悩んだか理解することを通じて、新たなイノベーションを引き起こすためのヒントを得る。最新の医学の立ち位置と限界を理解し、今後克服すべき課題を理解することを目指す。	
		AI・IoT健康福祉学	この授業を通して、健康増進・介護福祉に使用されているAI及びIoT技術を理解しながら、リハビリテーション、介護福祉、栄養、休息・睡眠、運動・活動などにおけるAIとIoTの利用法について学ぶ。そして保健福祉における近未来のAIとIoTの様々な活用法や限界と課題に関して討議しあう。	
		センシング論	IoT技術をロボットや医療に応用するためには、周囲の情報を取得するセンサが不可欠である。本講義では、身近なセンサとして、温度センサ、光センサ、ひずみセンサなどの原理と使い方を説明する。また、コンピュータによるデータ処理法について紹介する。	
		マテリアル科学	資源・環境・エネルギー問題とマテリアルとの関係についての知識が定着できることを目標とする。 様々な資源（鉱物資源や化石資源など）やそこから得られる物質について、その特性を科学的に理解する。また、様々な物質を使用する前（資源）と使用した後（廃棄）について、環境に与える側面を知る。更にサステナブルな原材料の種類や特性に関する知識を習得する。	
		光学技術論	メガネ、CD/DVD/Blu-ray、通信技術、光レーダーなど我々は光学技術を利用したシステムを開発し利用している。本授業では、光学技術の基本とその応用として、光の反射と屈折、干渉、メガネ表面などの反射防止に利用されている光学薄膜、LED／レーザー、光ファイバについて紹介し、応用事例として光通信技術と光計測技術について紹介する。	
		フィジカル・ブレイン接続	脳は、驚くほどに精巧にできている。この講義では身の回りの親しみやすい題材を使って、脳とその病気の不思議を考えていく。さらに、脳の仕組みの理解、病気の診断技術や治療法の開発に日本人がどのように貢献してきたかも紹介する。またiPS細胞を用いた再生医療などの最新のトピックも紹介する。将来的には、自閉症などの脳疾患に関する医療系アプリ作成、健康に関する会社の起業、医療機器や治療法開発など様々な場面で必要となる素養を身につける。	
		コンピュータとデジタル回路	コンピュータなどのデジタル信号処理システムの設計に必要なとなる、論理回路を記述する2進数の数学、論理回路の設計法、部品となる基本的な各種論理回路の構成と動作に関する知識を獲得し、応用力を身に付ける。	
		コンピュータと電子回路	電子回路を扱う上での基礎となる考え方・物理量などを習得する。その後、オペアンプの特性とその応用回路について学ぶ。さらにオペアンプの内部構造を理解するために必要なトランジスタ等の扱い方を理解した後、オペアンプの内部構造の理解を目指す。	
		地球環境論	地球環境とその動態、すなわち時間と空間のさまざまなスケールにおける地球環境の変動を理解するため、グローバルテクトニクスの基礎とそれに関連する地震、津波、火山噴火などの自然災害についてまず解説する。ひきつづいて地下資源や気候変動といった地球環境にとって喫緊となっている話題に触れる。さらに、人類を現在の地球生物圏を支配する一動物としてとらえ、その誕生から進化の過程を説明し、それにもとづきヒトという生物の本質を理解してもらう。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	先導学知科目	環境基礎科学	水環境工学, 大気環境工学, 土壌環境工学, 廃棄物管理分野で頻繁に用いられる理論, 方法に関する知識の習得と, 応用できる能力を修得する。 環境保全の立場から, その問題を理解するための基礎的知識を学び, また科学技術イノベーションに伴う影響を多角的に捉えて学ぶ。また水環境工学, 大気環境工学, 土壌環境工学, 廃棄物管理の分野における環境問題とその対応技術などについて理解する。更に様々な分析手法に関する知識を習得する。 (オムニバス/8回) (⑬ 西脇ゆり/7回) 環境科学の基礎(1) 理論, 環境科学の基礎(2) 方法, 水環境工学, 大気環境工学, 土壌環境工学, 廃棄物管理, 分析手法とまとめ (⑥ 佐藤賢二/1回) 環境とイノベーション	オムニバス
		プログラミングスキル	SNS やビッグデータだけでなく, 今後IoT が広がることで, ビジネスにはこれまで以上にプログラミングスキルが求められるようになる。プログラミングスキルはエンジニアだけでなく, ベンチャービジネスの立ち上げの際には自分でプログラミングを行う必要に迫られたり, マーケティングや営業担当者などもサービスを理解し, 改善したりするうえでプログラミング知識が必要となる。Python によるプログラミングの基礎を習得するとともに, プログラミングスキルを身に付ける。そして, アプリ作成, 機械学習・ディープラーニング, Web API やスクレイピングによるデータ収集のための基礎とする。	
		SDGs実践	2015年に国際連合の加盟国で合意された(SDGs)は, 貧困・環境・教育・人権等の多分野にわたる17のゴールを含み, 今後世界が「持続可能な社会」へ転換していく道筋を示したものである。SDGs達成のためには, 企業・政府・市民の能動的な取り組みが必要とされており, そのためには各ステークホルダーによるSDGsの本質的な理解が喫緊の課題となっている。この授業では, 効果的な問題解決のためには, どのような知識・スキル・ツールを身につける必要があるかを各自が認識していくことを目的とする。また, 問題の当事者や解決のための取り組みを行っている現場での聞き取り調査を行うことで, より現場のニーズに沿った解決方法を提示していく問題解決スキルの向上を目指す。	
	先導鍛錬科目	学術考究	自らの課題解決に向けた学修の履歴と今後の展開を, 留学生や社会人, 多様な分野の教員等の前でプレゼンを行い, その意見や指導を自らの課題研究へフィードバックし, 次の学修目標を修得する。 1. 専門分野が異なる人にも理解できる説明方法を修得する。 2. 自身の課題に対して多様なアプローチ法を学ぶ。 3. 自身の課題に関する知見をさらに深化させる。	共同
		潜在課題探査分析演習	アントレプレナーシップ演習I及びIIを踏まえ, チームに分かれ, 特定の地方公共団体, 経済団体等の公的セクターにおける現状から具体的な課題の発見と問題の設定を行う。その後, 新結合による解決方法の探索, 持続可能モデルの構築を提案し, 当該対象に対してプレゼンテーションを行う。	共同
		先導プロジェクト演習	自らの指導教員が行う研究に実際に参加し, 他学類学生や大学院学生, 学外者と協働し, 最新の知見や動向, 研究の進捗管理や予算管理等を学びながら, 自身の課題研究に対するプロセス管理を行う。	
		海外実践留学	教員の指導の下, 本学の海外協定校を中心に, 自身の研究に関連した機関を留学先として決定し, 短期留学を実施する。英語によるコミュニケーションの向上を図るほか, 授業やワークショップ, 現地の学生とのディスカッション, 教員からの指導を受けることにより自身の課題に対する理解を深める。	
		国際インターンシップ	先行する「アントレプレナーインターンシップ」における課題仮説を前提として, 海外での「リスタートアップス(再創業)」, 「軒先ベンチャー(インターンシップ先企業のリソースを活用した新規事業生成)」について実践を通じて学修する。また, 国際インターンシップの成果をまとめる過程で, 案件形成に至る具体的な成果の出口戦略を検討する。	
	先導確立科目	先導研究	学生自身が設定した課題に対する解決策について, 主にこれまで修得してきた多分野に渡る知見を用い, 指導教員の下で実証実験的な研究を進め, 将来の社会展開を見据えた形で論文としてまとめる。なお, 単位の認定にあたり, 複数の科学分野に渡る教員による論文審査会を開催する。	共同

科目 区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 教育 科目	先 導 確 立 科 目	先導演習	学生自身が設定した課題に対する成果について、産業界等での取り組みを通じ、実際の社会への展開法を立案する。その形態は、インターンシップ先を始めとする企業等において業務の改善や事業展開に関与する実践的アントレプレナー演習のほか、自ら起業する際の設計等を含む。なお、単位の認定にあたり、演習のプロセスシート、及びインターンシップ先からの評価シートを基にした審査会を開催する。	
		先導試験	学生自身が設定した課題に対する探求の中で、長期的展望に立つて取り組むべき課題であり、大学院における専門的知見を修得する必要があると判断される場合は、大学院への進学に向けたQEを実施する。先導試験を受験する学生は、大学院で必要となる知見を得るため、バックカスティング学修等による補遺的な授業科目（6単位）を計画的に履修する。単位の認定にあたり、大学院への進学が決定した後に審査会を開催し、複数のコアプログラムに係る専門的知見と実践力を問う筆記試験、大学院課程で取り組む課題設定と研究計画の立案に基づく発表と試問を行う。	